

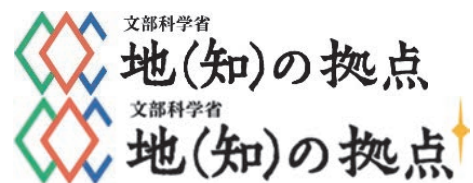
ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学

岐阜でステップ×岐阜にプラス、地域志向産業リーダーの協働育成

## ぎふフューチャーセンター実施報告書

平成 29（2017）年度

岐阜大学地域協学センター



## 地域協学センター・ぎふフューチャーセンターの取り組み

岐阜大学は、『学び、究め、貢献する』地域に根ざした国立大学』を理念として掲げて、広く地域の要請と期待に応えられるよう努めています。「地域に根ざした大学」を目指して、岐阜大学は、地（知）の拠点として、全学体制で地域の課題を解決すべく、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（大学COC（Center of Community）事業）において、「ぎふ清流の国、地×知の拠点創成：地域にとけこむ大学」が採択され、COC事業の実施支援機関として、平成25年12月に地域協学センターを設置しました。また、岐阜大学では「地域にとけこむ大学」を目指し、平成27年度に採択された「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」として、他大学・企業・自治体・金融機関が協働して地元企業と学生との関わりを強化し、地域のニーズにより適合した人材を育成することで地元定着を促進し、大学の知を活用した産官学共同研究を通じて、産業振興と雇用創出を図る取り組みを進めています。

地域協学センターでは、「次世代地域リーダーの育成」、「多様な人々が集い対話する『場』の設置」及び「地域志向学プロジェクトの推進」を3つの柱として取り組んでいます。2つ目の柱であるフューチャーセンター（Future Center）とは、多様な人たちが集まり複雑化したテーマ（課題）について「未来志向」、「未来の価値の創造」といった視点から議論する「対話の場」のことを指し、岐阜大学ではこのような地域との対話を創発するためのフューチャーセンターや多様な人との交流ができる空間を構築・運営し、地域との「協学」を推進しています。

平成29年度は、ぎふフューチャーセンターとして、自治体連携11回に加え、今年度は地域協学センターの新たな拠点が開設される節目の年であり、改めて大学と地域との連携を見つめ直す機会として、「地域が岐阜大学に期待すること」をテーマに地域協学センター開所式にあわせて実施しました。また、これまで連携自治体である岐阜県、岐阜市、高山市、郡上市を中心に共同で開催してきましたが、今年度は中津川市や岐南町、白川町、多治見市とも共同で開催するなど県内各地でぎふフューチャーセンターを展開し実施することができました。本報告書では、こうした取り組み内容及び成果をご報告申し上げます。今後も、岐阜大学における地域連携の取り組みを広く知っていただくと同時にさらなる地域への貢献を目指し、ぎふフューチャーセンターの活動を展開していきたいと考えております。

ぎふフューチャーセンターの実施において、関係各機関・施設・団体・企業の皆様には多大なるご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、参加者をはじめ地域コーディネーターやスタッフの皆様にはプログラムの運営等でサポートいただき、ありがとうございました。

今後ともご指導ご協力いただきますようお願い申し上げます。

2018年3月

地域協学センター

フューチャーセンター部門長 三井 栄



## 目 次

第1回 ぎふフューチャーセンター 「行きたい、通いたいと思う学校のこと、考えてみよう」・・・	1
5月24日(水) 会場:みんなの森 ぎふメディアコスモス 主催:岐阜大学・岐阜市教育委員会・岐阜市	
第2回 ぎふフューチャーセンター 「たくさんの若者の意見を政治に反映させよう! どうすれば、より多くの若者が投票に行くだろう? ~9月執行予定の町議会議員選挙における投票率UPに向けて~」・・・	7
6月24日(土) 会場:岐南町中央公民館 主催:岐阜大学・岐南町・岐南町選挙管理委員会	
第3回 ぎふフューチャーセンター 『「郡上に住み、働くこと』を考える」・・・	15
7月8日(土) 会場:栃尾里人塾「古民家源右衛門」 主催:岐阜大学・岐阜県・郡上市	
第4回 ぎふフューチャーセンター 「子育て世代等若者が来たくするような地域体験ツアーを考えよう」・・・	23
8月29日(火) 会場:中津川市阿木中の島公園 主催:岐阜大学・中津川市	
第5回 ぎふフューチャーセンター 「若い世代の白川茶ファンを増やそう」・・・	29
9月27日(水) 会場:白川町役場 主催:岐阜大学	
第6回 ぎふフューチャーセンター 「若者よ、投票に行こうⅢ」・・・	35
10月2日(月) 会場:みんなの森ぎふメディアコスモス 主催:岐阜大学・岐阜市選挙管理委員会・岐阜市	
第7回 ぎふフューチャーセンター(全4回) まちづくり活動実践講座「市民から地域活動を提案する」・・・	45
10月18日(水)、11月9日(木)、11月22日(水)、12月7日(木) 会場:高山市役所 主催:岐阜大学・高山市・飛騨高山大学連携センター	
第8回 ぎふフューチャーセンター 「地域が岐阜大学に期待すること」・・・	53
10月25日(水) 会場:岐阜大学地域協学センター 主催:岐阜大学	
第9回 ぎふフューチャーセンター 「あったらいいな、こんな場所~多治見ながせ商店街~」・・・	59
12月9日(土) 会場:ヤマカまなびパーク多治見市学習館 主催:岐阜大学・岐阜県・多治見市	
第10回 ぎふフューチャーセンター 『「住みよいまちづくり』を考える~岐阜市芥見東まちづくり協議会の活動から学ぶ~」・・・	73
12月13日(水) 会場:岐阜市芥見東公民館 主催:岐阜大学・岐阜県	
第11回 ぎふフューチャーセンター 「キャリアデザインワークショップ『未来の職員に伝えたいこと、働こうえで知りたいこと』」・・・	79
12月20日(水) 会場:岐阜市役所西別館 主催:岐阜大学・岐阜市	
第12回 ぎふフューチャーセンター 「スポーツを考える」・・・	85
1月18日(木) 会場:みんなの森 ぎふメディアコスモス 主催:岐阜大学・岐阜市教育委員会・岐阜市	
FD・SD (Faculty・Staff Development:教職員向け研修) ・・・	91
平成26年度 第4回 ぎふフューチャーセンター成果報告 ・・・	95
「岐阜市においてユニバーサルデザインを推進するには？」	



第1回 ぎふフューチャーセンター

行きたい、通いたいと思う学校のこと、考えてみよう

平成 29 年 5 月 24 日 (水)

会場：みんなの森 ぎふメディアコスモス

主催：岐阜大学・岐阜市教育委員会・岐阜市



「地（知）の拠点整備事業」  
平成 29 年度 第 1 回 ぎふフューチャーセンター

主催	岐阜大学、岐阜市教育委員会、岐阜市
会場	みんなの森 ぎふメディアコスモス（1階：かんがえるスタジオ）
日程	平成 29 年 5 月 24 日（水）16:30～18:30
背景	岐阜市教育委員会では、平成 30 年度から第 3 期目を迎える「岐阜市教育振興基本計画（岐阜市の教育の振興のための施策に関する基本的な計画：期間 5 年）」を平成 29 年度中に策定する予定である。
目的	「岐阜市教育振興基本計画」策定に先立ち、実際に学校で学んでいる生徒や学生に「行きたい、通いたいと思う学校」について考えてもらい、取りまとめられた意見をその後の計画策定に反映させることを目的とする。
テーマ	行きたい、通いたいと思う学校のこと、考えてみよう
サブテーマ	<p>（1）学校で楽しく学べた、勉強できたと思った授業は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業」を「学び・勉強」に置き換えて示す。</li> <li>・これまでの授業のイメージを問う。</li> </ul> <p>（2）学校の授業が楽しく、もっと学びたいと思うものにするためには、どんなもの・どんなことがあるといいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来に向けて「授業」が生徒にとって楽しいと思うこと、やりがいのあると思うための学校の授業の要素を問う。</li> </ul> <p>（3）行きたい、通いたいと思う未来の学校のイメージは？ ⇒模造紙に未来の学校のイメージと言葉で描く。</p>
参加者構成	<p>参加者合計 34 人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生（岐阜市内 6 校） 24 人</li> <li>・高校生（岐阜高校） 4 人</li> <li>・大学生 6 人</li> </ul>
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	大宮康一 岐阜大学地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	<p>16:30 挨拶・FC の説明（10 分）</p> <p>16:40 説明・アイスブレイク（10 分）（グループ内の自己紹介など）</p> <p>16:40～17:40（1セッション／20 分）</p> <p>セッション①20 分 「学校で楽しい・やりがいがあったと思った授業を何ですか」</p> <p>セッション②20 分 「もっと学校の授業が楽しく、やりがいのあるものにするためには、どんなもの・ことがあるといいですか」</p> <p>セッション③20 分 「行きたい、通いたいと思う未来の学校のイメージは？」</p> <p>17:40 まとめ（15 分）</p> <p>17:55 発表（15 分）1 グループ／2 分程度</p>
FC 後の展開	岐阜市教育委員会では、平成 30 年度から第 3 期目を迎える「岐阜市の教育の振興のための施策に関する基本的な計画（岐阜市教育振興基本計画：期間 5 年）」に今回のフューチャーセンターの成果が反映された。



出された意見	<p>【1 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークのように、生徒が能動的に動き、仲間と協力する活動を取り入れる</li> <li>・自分が好きなことを深く追究したり、生徒が自ら考える時間が設けられた授業など、生徒が主体的に学べるもの</li> </ul> <p>【2 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を持ち、仲間の意見を聞くなどの意見の交流ができる授業</li> <li>・野外学習や遊びを取り入れた実際に体験する授業</li> <li>・実際の日常や身近な生活につながる話を先生から聞きたい</li> </ul> <p>【3 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習に役立つように、タブレットやパソコンなどの電子機器の活用</li> <li>・クラス全体で交流（意見交換や教え合い）できる授業にする</li> <li>・先生の話がおもしろいことや、生徒の質問に丁寧に答えてもらうこと</li> </ul> <p>【4 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や制作など、クラス全体で交流しながら進められるもの</li> <li>・同じ分野に興味を持つ者どうしや他地域の人と交流が可能となる授業</li> <li>・現代社会の情報化に対応できる授業（PC・タブレットの活用）</li> <li>・習ったことが実際の生活に生かせる勉強内容</li> <li>・芸術鑑賞など、実際に体験することができる授業</li> </ul> <p>【5 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットやペッパーなどの電子機器を授業に取り入れる</li> <li>・将来の自分をイメージすることができる授業</li> </ul> <p>【6 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ学習などクラスで話し合うことができる授業</li> <li>・パソコン、タブレット、インターネットを調べ学習で活用する</li> <li>・先生のおもしろい話が聞ける授業や理解しやすくなるような工夫が取り入れられた授業</li> </ul>
担当職員感想 (岐阜市教育委員会)	<p>理想の学校に求めることとして、人との交流や教員の魅力などソフト面への期待が大きいことが改めて分かった。人が集まり、顔を合わせて学び合う場である学校の意義について再確認でき、有意義なワークショップだった。頂いた意見は、次期計画策定に向けて大いに参考にしたい。</p>
自治体等との調整過程	<p>4月5日 岐阜市教育委員会担当者とFC企画について協議  4月27日 岐阜市教育委員会担当者とFC企画について協議  5月16日 岐阜市教育委員会担当者とFC運営について最終確認</p>
報道等	<p>5月26日 中日新聞岐阜近郊版</p>
企画担当者所見	<p>今回のぎふフューチャーセンターは、岐阜市教育委員会からの依頼を企画実施したことから、次の展開が「岐阜市教育振興基本計画」の策定に向けた成果の活用という明確なものであり、参加者にとっても趣旨が理解しやすかったと思われた。また、岐阜市教育委員会の呼びかけで、岐阜市内の中学生や高校生が数多く参加したことは、これまでになかった実施形態であり、本学の学生にとっても刺激を受ける良い機会であった。特に、参加した岐阜大学生は、ほとんどが全学共通教育科目「フューチャーセンター入門」の受講生であり、講義で学んだことを実践する有意義な場にもなった。</p> <p>今後も、岐阜市教育委員会との連携を深め、新しいぎふフューチャーセンターの活用方法を模索していきたい。</p>

(岐阜市教育委員会教育政策課 波賀野純也、 地域協学センター准教授 大宮康一)

平成29年度第1回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果

参加者34名 回答者34名 回収率100%

1. 性別

①男性 22名 ②女性 12名

2. 年代

①10代 32名 ②20代 2名 ③30代 ④40代以上

3. 年代

①中学生 24名 ②高校生 4名 ③大学生 6名 ④その他

4. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 31名 ②2回目 1名 ③3回目 ④4回目 ⑤5回目以上 1名

5. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 29名  
 ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 22名  
 ③大学又は行政が身近な存在に感じられた 7名  
 ④その他

- ・他の学校のことが知れて楽しかった。
- ・自分の役割と立場を考えることができた。

6. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？

①参加できた 31名 ②どちらでもない 3名 ③できなかった 0名

7. テーマについて、グループのメンバーの考えを聞いたりすることができましたか。

①(聞くことが)できた 33名 ②どちらでもない 1名 ③(聞くことが)できなかった 0名

8. 岐阜市教育振興基本計画があることを以前から知っていましたか。

①知っていた 2名 ②知らなかった 31名

9. 次の岐阜市教育振興基本計画に関心はありますか。

①ある 26名 ②ない 1名 ③どちらでもない 7名

10. 次の岐阜市教育振興基本計画ができあがったときは、読んでみたいと思いますか。

①読んでみたい 29名 ②どちらでもない 5名 ③読みたい 0名

11. 今後、ぎふFCに参加したいですか？

①参加したい 10名 ②テーマに興味があれば参加したい 24名 ③参加したくない 0名 ④その他 0名

12. 今回のFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう(又は業務に活かそう)と思うこと、③感想などをご記入ください。

自分が考えていないことも、周りの人がいることで、より自分の考えを深めることができました。今まで「こんな学校だったらいい」と考えていたことを、この場で話し合うことができたので、こういう場をつくることは大切だなと感じました。また、もっと多くの人と話し合いをして、より多くの意見を知りたいと思いました。
①学びになったことは、年代や学校が違う人とも話しあおうと思って話そうとしてみたら色々な思いや考え方などがあることが学びになった。 ②今日の話し合いの中で出たもので、自分たちでがんばれば実現可能なものもあったので、少しでも学校生活が豊かになるように努力したい。 ③今日初めて出会った方でも思いを言い合ううちにどんどん楽しくなっていったし、奥が深いなと思ったので、これからも人と交流することを大切にしていきたい。
自分とはちがう考えをもつ人と交流をすることで、自分1人では学べないようなことを考えられたのがうれしかった。これから、「学びを深める」ために、多くのことに興味をもって自分から参加していきたい。今回のぎふFCも、さいしょはきんちょうしたけど、すぐたのしくていい経験になったし、自分に自信がもてたのでこれからも自分の意見をもってがんばりたい！！
今回のぎふFCに参加して未来について話し合えば様々な意見があつてとても勉強になりました。また、そこからこうなったら良いというところが考えられて楽しいと思いました。
今後は、どこかのグループの人が話してくれたのですが、学校が変わっていくためには、先生方に変わってもらうためには、自分が変わる必要があるのががんばりたいです。
思っていたよりも楽しくて最初はきんちょうしか無かったのに話しができるようになってとても楽しくて良い経験ができました。
①グループワークの大切さが分かった。 ②学校のユニセフ活動に積極的に参加したいと思った。
色々な人の話をきいてみて、ちがう考え方を知ることができました。まず、自分の意見をいうことをしていきたいと思います。たくさん話すことができて楽しかったです。
①これまでやってきた授業でなにが楽しかったかを自分の意見で話すことができたのがよかったし、いろいろな人の話を聞くことによっていろいろなことを学ぶことができたので良かった。 ②自分から話しやすい環境を作っていくことで挙手を増やしていきたいと思いました。 ③このぎふFCに参加したことでいろいろなことを学ぶことができたのでよかったと思うし、これからも中学校で取り入れたいです。
様々な人の意見を聞いたことによって、よりよい学校をつくるためにはどうすればいいかなどが分かりました。また、すぐに実現できそうなことなどは学校をよりよくするためにやっていきたいです。そして今後の学校生活などに生かせることは生かしていきたいです。
一番印象に残ったのは、生徒の自主性を高めるということ。やらされるのではなく、やりたい！と思うことがなければ学習の質も上がらないと思う。そのために学校を動かす立場である自分たち生徒会はいろいろなことも自由にすることで、「やりたい！」と思った時にサポートすることが必要だと感じた。
このFCという活動は、年代が違う人と交流するとても良い手段だと思った。今後も機会があれば！！
自分で思いつかないことが今回交流することで初めて分かった。今後は今回の交流で出た意見を学校へもちかえってよりよい学校づくりを進めていきたい。大学生と一緒にということで最初は少し身がまえたけど話してみて、ちゃんと話げた。
①自分と共に仲間とも協力すること(交流すること)でより良い学びが起きると分かりました。また、良い学びのために、仲間だけでなく、先生、環境も大事だと思いました。 ②緑の増加やタブレットの活用など ③自分以上の考えを周りの方々が持っていて、聞いていてとてもおもしろかったです。思っていたことを、たくさん書き出して交流することは、楽しかったし、学級の話し合いでも使えるなと思いました。

<p>①今の学校に足りないこと、どう改善していくかを考えられた。</p> <p>②学んだことの他に「自分の考えを伝える大切さ」「相手の意見を取り入れる意味」を感じられたので学び合いを大切にしていきたい。</p> <p>③同じ中学生の他、高校生や大学生の方と様々な意見を交流できてとても楽しかった。「学校・学び」という身近なテーマであり考えたことのないことも考えたり、自分と全くちがう意見をきいたり、とても学びの視野が広がった。機会があったらまた参加したい。</p>
<p>今回のぎふFCに参加して、グループのメンバーの様々な考え方を知れたし、グループのメンバーの様々な考え方を知れたし、自分の意見を積極的に伝えることができました。今日考えた学校は、実現できるものもあると思うので、どんな利点があるのか考えたいので、少しでも取り上げられたらうれしいです。また、自分達で実現できることは実現したいです。</p>
<p>他校の生徒が集まり、たくさんの意見を出すことで自分のありのままの姿で意見を言うことができた。この機会を大切に学校の生徒会活動にも生かしていきたい。そして、このような会をもっと増やしてほしい。</p>
<p>他校の生徒の様々な意見をたくさん聞くことができ、もっと、こうしたら良くなるのではないかと、色んな視点から考えることができました。</p>
<p>今回、出た意見をもとに、生徒会でも生かせるものはないかということ、話し合い、よりよい学校づくりに力を尽くしていきたいと思います。</p>
<p>①いろいろな考え方があって、それを知るのがとってもおもしろいと思いました。</p> <p>②他のグループで出た意見を生徒会活動などで、とりいれたいと思いました。</p> <p>③こういう考え方を交流する体験はおもしろいので、ぜひ、たくさんの人にやってみてほしいと思いました。</p>
<p>①自分の意見を述べるだけでなく、他の人の意見をきくことで考えのばをを広げることができた。</p> <p>②僕たちのグループは、自律できることを願って考えていったので、自治の姿をさらにたかめていきたい。</p> <p>③自分の意見を言うことができるようになったし、他の人の意見をきくことができてためになった。</p>
<p>①他学校、違う年の人に意見をきくことで、自分の視野が広がりました。</p> <p>②生徒会の活動に今回の内容を生かしてみようと思いました。</p> <p>③知らない人とうまく話せるか不安だったけど、最後には仲良くなれていろんな意見を言えました。</p>
<p>今日は、他校の生徒やさまざまな人たちの意見にふれて、自分以外の考え方を知ることができた。今後、自分の学校にあるアゴラやベッパ―などを使っていきたいと思いました。今回のぎふFCに参加して、とても勉強になったと思います。</p>
<p>①自分の意見だけでは知ることができなかった多面的な意見や発想があって良かった。仲間との交流の大切さを改めて知ることができた。</p> <p>②自学級で班交流の中に取り入れて、より多くの意見をみつけたい。</p> <p>③自分自身、自分の意見を言うのが苦手だったけれど、自分とはちがう考えを知ることができてとても楽しかったです。</p>
<p>①普段はなかなか他の学校の人と話し合う機会がないので、今回、ぎふFCを通して、各学級の現状から出る様々な意見がとてもためになりました。</p> <p>②交流活動はあった方が楽しいという意見が多かったので、学級でもっと交流活動を展開していきたいなと思いました。</p> <p>③最初はとても緊張して、とても不安でしたが、優しく、積極的に話しかけて下さる先輩方、同学年の人との会話、交流はとても楽しかったです。今後、この企画があれば、ぜひもう一度参加したいなと思いました。</p>
<p>①他の学校であった授業などを聞くことができたり、どんな設備、サービスが学校にあってほしいか考えることが学びになった。</p> <p>②「どんなもの、どんなことがあるといいか」など思いついたことを学校で活動できるか提案してみたいと思った。</p> <p>③「こんなことがあったらおもしろいなあ」など考えることがとても楽しかった。また、他の学校の生徒と交流ができて貴重な体験になった。</p>
<p>今回のぎふFCでは、他校の子と自分達の学校について話したり、こんな事をしているんだ、自分達の学校にも生かせないかなとか思ったりして、すごく勉強になりました。</p>
<p>参加してみて、最初はかたくりしいかなって思ったけど、話しやすい雰囲気や、大学生の人が話しかけてくれたりして、すごくたのしんで行きました。</p>
<p>①学ぶ施設が重要で、人の話をよく聞き、実践することが大切だと分かった。</p> <p>②まずは貴重な話し合いの場で自分の意見を言っていきたい。</p>
<p>自分の立場や役割などを改めて考えることができた。グループディスカッションを行うのに対し、最初、自分はこういった形で意見を述べたり、まとめたり拾ったりすればよいのか疑問だった。しかし、この企画を通して、中学を経験し、大学を志望する高校生としての視点をもつことができ、よい経験になったと思う。</p>
<p>①中学生などのいろいろな人の考えをきくことで、自分の考えの視野を広げることができた。また、教育について興味を持つことができた。</p> <p>②機会があれば生徒主体の活動に積極的に活動してみたいと思った。</p> <p>③いろいろ考えることができて本当にためになった。</p>
<p>今回参加したような形（中学生・高校生・大学生のグループ形式）は、とても様々な意見にふれられる点では有意義であった。</p>
<p>今後、このような活動を行う時、特に同じ世代などで行うときには、リーダーの質が重要視されると思った。他者の意見を引き出し、良い形でまげていくのは、なかなかむずかしい。</p>
<p>考えをより柔軟に出せるよう、普段から考えることを意識する。</p>
<p>様々な意見を年代の違う人たちから聞くことができてよかったです。私は将来教師になりたいと思っているので、未来の学校にどんな希望をもっているのかということが実際の中高校生から聞くことができ、とてもためになりました。ぜひ、教員になったときに活かせるようにしたいです。また、今日会った中高生は私が中高生だった時よりも自分の意見を持っている方で、とてもすごいと思いました。</p>
<p>①中・高生の意見は、新鮮で自分のことを振り返るきっかけとなった。アドリブで発表するなど臨機応変に対応していて能力が高くて感心した。</p> <p>②アイスブレイクの意味を込めて簡単な質問を初めに行うこと。</p> <p>③久しぶりに中高生と触れ合うことができて楽しかった。彼らの意見がぜひ岐阜県の教育現場に反映されると嬉しいです。</p>
<p>自分より下の世代と話すことで自分の時とはちがう学校生活を送っているということに驚いたし、頭がやわらかいなど思いました。多くの人の意見を聞いたり話したりすることで、また新しい意見が生まれることがたくさんあっておもしろかったです。今回は自分がリーダーという立場で周りの話をつなげたりすることは難しかったけれど、これからの講義の中で生かしていければいいなと思いました。</p>
<p>中学生の活発な意見が印象的でした。みなさんプレゼンも上手くて素晴らしかったです。</p>

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.5.24 2017年8月1日発行号

VOL.31



## 行きたい、通いたいと思う 学校のこと、考えてみよう

5月24日(水)に岐阜市教育委員会との共同開催で、みんなの森ぎふメディアコスモス(岐阜市)を会場に、今年度第1回目のぎふフューチャーセンターを開催しました。今回のフューチャーセンターは、岐阜市内の中学生24人、高校生4人、また大学生が6人集まり、若者の視点から、未来をイメージし「行きたい、通いたいと思う学校のこと」を考えました。

グループワークでは、学校の授業が楽しく、もっと学びたいと思うものにするためにどんなもの・どんなことがあるかについて議論し、行きたい、通いたいと思う未来の学校のイメージを描いて、最後に各グループで発表を行いました。今回は、「生徒が能動的に動き、仲間と協力する活動を取り入れる」や「自分が好きなことを深く追究したり、生徒が自ら考える時間が設けられた授業」などの意見が出されました。



各グループからの  
意見・アイデア



### 今回のまとめ

- 野外学習や遊びを取り入れた実際に体験する授業
- 調べ学習に役立つように、タブレットやパソコンなどの電子機器の活用
- 芸術鑑賞など、実際に体験することができる授業
- グループ学習などクラスで話し合うことができる授業

### 今後の展開

岐阜市教育委員会で策定する「岐阜市教育振興基本計画(岐阜市の教育の振興のための施策に関する基本的な計画:期間5年)」の参考とされます。

### 担当者の感想(岐阜市教育委員会)

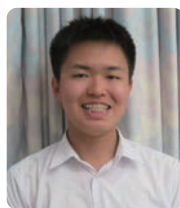
普段交流することがない中学生や高校生、大学生が、FCを通して活発に対話し、互いに刺激し合い、学び合う場となりました。また、理想の学校に求めることとして、人との交流や教員の魅力などソフト面への期待が大きいことが分かる有意義なものでした。



岐阜清流中学校3年  
高木 陽 さん

### 教育の仕事に興味を持った

いちばん印象に残ったのは、生徒の自主性を大切にするという意見でした。今回参加して、教育の仕事にすぐ興味を持ったので、将来大人になる子どもたちに何かを教えることを試してみてもいいんじゃないかと思いました。



岐阜高等学校2年  
高橋 陸 さん

### 自分の考え方を発信していけるいい経験になった

住む環境や考え方も違う人たちが集まり、自分の考え方をどんどん発信していけるということは、いい経験になったと思いました。学校ごとの独自の教育や授業であったり、教育が進歩しているのを実感できました。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3167 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



第2回 ぎふフューチャーセンター

たくさんの若者の意見を政治に反映させよう！  
どうすれば、より多くの若者が投票に行くだろう？  
～9月執行予定の町議会議員選挙における投票率UPに向けて～

平成29年6月24日（土）

会場：岐南町中央公民館

主催：岐阜大学・岐南町・岐南町選挙管理委員会



「地（知）の拠点整備事業」  
平成 29 年度 第 2 回 ぎふフューチャーセンター

主催	岐阜大学、岐南町、岐南町選挙管理委員会
会場	岐南町中央公民館（学習室）
日程	平成 29 年 6 月 24 日（土）13:30～15:30
背景	<p>平成 28 年 11 月 6 日執行の岐南町長選挙は、県内の地方選挙において、選挙権年齢が 18 歳に引き下げられて初の選挙であり、マスコミの注目も高く町においても、町長選挙における啓発活動として次のような取り組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新有権者へ啓発ハガキの郵送</li> <li>・ディスプレイ付トラックでの選挙啓発スライド映写</li> <li>・投票所での SNS 拡散目的の撮影用パネル設置 など</li> </ul> <p>しかし、投票率は過去最低の 43.78% で中でも 18 歳から 29 歳までの若者の投票率は 21.02% であった。他の選挙においても、岐南町の投票率は県内でも常にほぼ最下位である。</p> <p>そこで、町では 18 歳から 29 歳までの町民のから、無作為に抽出した 1,000 人を対象にアンケート調査を実施しその要因を調査した。</p>
（アンケート結果から見える課題）	<p>アンケートの回収率は 18.8% であり、この結果は平成 28 年度に行われた 3 回の選挙における 18 歳から 29 歳の方の投票率とほぼ同じであったことから、若い世代の選挙に対する意識の低さがうかがえるが、アンケート結果から以下のような課題を推測する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民票はあるが、実際には岐南町に住んでいない人が多い</li> <li>・不在者投票を面倒だと感じる人が多い</li> <li>・選挙や政治に関心がない人や投票に行くことが面倒だと感じる人が多い</li> <li>・選挙があったことすら知らない人がいる</li> <li>・関心がある人でも、候補者の公約や、他の候補者との違いが分からないという意見がある</li> <li>・高齢者や子育て世代向けの政策ばかりで、若者向けの政策を掲げる候補者がいないという意見もある</li> <li>・選挙当日に多忙であることを理由に投票にこない人が多く、期日前投票の周知が不十分ではないか</li> </ul>
目的	<p>町では上記課題をふまえ選挙に行かなくてもよいと考える人へのアプローチ方法について、若者の意見を集め今後の選挙啓発活動の参考にしたいと考える。</p> <p>また、意見を出し合う場で課題について考えることが、その参加者の選挙に対する意識を変えるきっかけとなり、中高生の主権者意識の高揚となることを目的とする。なお、短期的な取組みとして、9 月 25 日に任期満了を迎え、今年度執行予定の町議会議員選挙</p> <p>【参考】前回 H25.9.8 執行：無投票、前々回 H21.9.13 執行：57.63%）において、当企画で発表された意見や案を啓発活動に反映させ、投票率 UP という成果に結びつける。</p>
テーマ	<p>たくさんの若者の意見を政治に反映させよう！ どうすれば、より多くの若者が投票に行くだろう？ ～9 月執行予定の町議会議員選挙における投票率 UP に向けて～</p>
サブテーマ	<p>(1) なぜ投票に行く必要があるのか (2) 若者が投票に行かない理由を考えよう (3) どうすれば、より多くの若者が投票に行くだろうか</p>
参加者構成	<p>参加者合計 26 名（5、6 人×5 グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生 7 名</li> <li>・大学生 12 名</li> <li>・社会人 7 名</li> </ul>
対話の方法	KJ 法



ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	<p>13:30 開会・オリエンテーション (グループワークの進め方の説明)</p> <p>13:40 選挙担当と岐阜大学教員から選挙の概要について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙とは</li> <li>・7月の参院選、11月町長選、12月町議補欠選(無投票)、1月知事選の結果</li> <li>・岐南町における投票の特徴について</li> <li>・アンケート結果の分析と課題</li> </ul> <p>13:45 学生の体験談(立会人を経験して感じたことなど)</p> <p>13:50 アイスブレイク(グループ内自己紹介含む)</p> <p>13:55 グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5~6人のグループで、グループ討論(模造紙に書く)</li> </ul> <p>(グループ討論の案)</p> <p>案①アンケート結果から見える課題について?</p> <p>案②どのようにしたら投票に行く気になるだろう?</p> <p>※グループワークの展開(なかなか議論が進まない場合)によっては、情報提供する時間を設ける</p> <p>14:55 休憩</p> <p>15:05 グループ発表・講評(コメント)</p> <p>15:30 閉会</p>
FC後の展開	9月10日執行予定の町議会議員選挙において、当企画で発表された意見や案を啓発活動に反映させ、投票率UPという成果に結びつける。
出された意見	<p>どうすれば、より多くの若者が投票に行くだろう?について話し合い、そのためのスローガンをグループごとに考えた。</p> <p>【グループ1】</p> <p>『With Friend♪』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングモール(行きやすい場所、人が集まる場所)などに投票所を設置する方法などを考える。</li> <li>・選挙に行かない理由が、「みんな行っていない」や「どうせ友達も行っていない」という理由も多くあるため、投票に友達と行くことを推奨する。</li> </ul> <p>【グループ2】</p> <p>『楽しく選挙を知ろう!』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を習得し、選挙に興味・関心を持ち、みんなで取り組んでいく。</li> <li>・絵やマンガを取り入れるなど、選挙チラシの作成に工夫を施す。</li> <li>・選挙については、権利であるとともに社会をつくっていくための義務であり、未来のためや自分のために、自分たちの身近な問題に関わるものと考え、自分自身が当事者として、積極的に参加していくべき。</li> </ul> <p>【グループ3】</p> <p>『行かない世代、損する世代』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報にインターネットを活用、またはインスタ映えする写真を利用する。</li> <li>・選挙については、市民に権利があり、自分の町をよくするため、よりよい未来のため、自分の意見を反映させるためだけでなく、様々な意見を反映させるために投票に行く必要がある。</li> </ul> <p>【グループ4】</p> <p>『選挙の日は、Family Day』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を示すチャンスととらえ、投票日を家族や未来のため、住みやすい社会を実現させるための日ととらえる。</li> <li>・選挙を面倒くさいというようにとらえず、何かのついででもよいので、とりあえず、みんなが家族で投票所へ足を運ぶように促していく。</li> </ul> <p>【グループ4】</p> <p>『子どもと話す明るい政治』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人では行きづらいため、親・家族と一緒に、投票に行くかも知れないとの観点から、みんなで投票に出かけることを推奨する。</li> <li>・選挙は、市民の権利であり、自分の国・県・町のことと関係があり、自分の生活を良くするために、自分の意見を反映させるために投票に行く必要がある。</li> </ul>

<p>担当職員感想 (岐阜岐南町)</p>	<p>(企画担当：政策推進課担当者)  まず、ぎふFCが無事終了したことに対し御礼申し上げます。  ありがとうございます。  昨年度末、18歳から29歳までの若い世代に実施した町民アンケート調査において、当町の課題がそのまま結果となって表れました。回収率18.8%。若い世代の政治への関心の低さが露呈。  今回のぎふFCは、9月10日執行予定の岐南町議会議員選挙の投票率UPに向けた啓発活動に反映させる提言を出してもらおうというもので、ワークショップにおいて、各班で活発な意見交換がなされ、投票率UPに向けた良い提言も出されました。  その提言を今後の啓発活動に活かしていきたいです。なお、ワークショップの内容を若い世代に限定したこと、短期的な目標に絞ったことで「意識の醸成」という一定の効果が生まれたと思います。  また、私自身「選挙に対する意識を変える」という意味で、改めて「主権者教育」の重要性を考えさせられる良い機会となりました。  最後に、今回参加していただいた若者には、SNS等を通して投票行動につながる「発信力」を期待します。  (運営担当：選挙管理委員会書記)  本ワークショップは、平成29年9月10日執行予定の岐南町議会議員選挙における投票率UPという目標を掲げて開催させていただきましたが、若者の意見や考えを直接聞き、有意義な意見を得られたと感じております。  町でも投票率向上のために選挙啓発を行ってまいりましたが、残念ながら、思うような成果を得られておりません。  本ワークショップにおいては、家族や友達を巻き込んだ啓発活動や、広報やインターネットなどを活用した啓発活動など、町としても非常に参考になる意見を多くいただくことができました。  また、参加者に選挙について考える機会やきっかけを提供できたことも、本ワークショップにおける成果だと考えております。  町としては、本ワークショップをただ行っただけにせず、スローガンを町議会議員選挙に活用するなど、得られた成果を今後の選挙啓発に繋げられるようにしたいと考えます。  最後になりましたが、本ワークショップの開催にご尽力していただいた岐阜大学地域協学センターの皆様へ御礼申し上げます。ありがとうございました。</p>
<p>自治体等との調整過程</p>	<p>4月27日 岐南町役場担当とFC運営協議  5月16日 岐南町役場担当とFC運営協議  5月30日 岐南町役場担当とFC運営協議</p>
<p>報道等</p>	<p>チャンネルCCN  6月28日(水) エリアトピックス  7月1日(土) エリアトピックス総集編  7月2日(日) エリアトピックス総集編にて放送</p>
<p>企画担当者所見</p>	<p>今回のぎふフューチャーセンターは、岐南町役場からの依頼のもと企画実施した。  同町の投票率は、県内でも常に最下位となっており、今年9月に任期満了を迎える町議会議員選挙での啓発活動等に反映させ、投票率UPに結び付けたいという思いのもと開催されたものであった。  岐南町の呼びかけで、町内の高校生が参加したことは、近いうちに選挙権を持つことになる若者に対し、選挙に対する意識の醸成に一定の効果があったものとする。  また、参加者から、友人とともに、もしくは、家族とともに投票に行こうとすることが、投票行動に結びつくといった意見も見られたように、友人間や家族間で、選挙について今後話し合うよい契機にもなったように思われる。</p>

(岐南町政策推進課・選挙管理委員会、地域協学センター准教授 大宮康一)

1. 性別

①男性 12名 ②女性 13名

2. 年代

①10代 12名 ②20代 11名 ③30代 2名 ④40代以上 0名

3. フューチャーセンター（以下、「FC」という）の参加は何回目ですか。

①1回目 20名 ②2回目 1名 ③3回目 0名 ④4回目 1名 ⑤5回目以上 2名

Cに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。（複数回答可）

- ①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 21名  
 ②さまざまな知識や経験を持つ人（他の学校、大学、行政など）と知り合えることができ 11名  
 ③大学又は行政が身近な存在に感じられた 1名  
 ④その他（以下意見：原文のまま）3名  
 ・知らないことをたくさん知ることができた  
 ・皆似たような意見なのだと感じた  
 ・自分の意見を伝えることができるようになった

5. 政治に関心がありますか？

- ①とても関心がある 4名 ②少し関心がある 17名 ③あまり関心がない 2名  
 ④まったく関心がない 1名  
 ⑤その他（以下意見：原文のまま）1名  
 ・ほとんどなかったが、今回で関心をもとうと思った。

6. 今後（18才になったら）、選挙に行こうと思いますか？

- ①必ず行こうと思う 17名 ②興味があれば行こうと思う 7名 ③行こうと思わない 0名  
 ④わからない 0名 ⑤その他（以下意見：原文のまま）1名・毎回

7.（6で③「行こうと思わない」と回答した場合のみ）今後、選挙に行こうと思わない理由は、何ですか？

- ①政治に関心がない 0名 ②政治に不満や不信がある 0名  
 ③支持できる政党等や候補者がいない 0名 ④その他 0名

8. 今後、ぎふFCに参加したいですか。

- ①参加したい 4名 ②テーマに興味があれば参加したい 21名 ③参加したくない 0名  
 ④その他 0名

9. 今回のぎふFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう（又は業務に活かそう）と思うこと、③感想などをご記入ください。

<p>①いろいろな人の意見を聞いて、そんなに年代がはなれていないのに、考え方がすごくちがって、難しい言葉もあったけど、選挙に行ってみたくと思いました。</p> <p>②選挙があったら、18歳になったら行ってみたいし、自分たちの班でも話したように、友達といたり、他のグループでもいっていたように家族とも選挙について、若い人も参加できるようにしたい。</p> <p>③たくさん話あえて、いろんな意見を聞いて楽しかったです。”</p>
<p>①若者がもう少し関心を持つことも大切だと思います。「私はんけいがない」ではなく友達とでも家族とでも身近な人と一緒に選挙に参加することが自分たちの安心した未来につながる。</p> <p>②私も18歳になったら積極的に参加したいです。</p> <p>③参加してたくさんさんの事を知れたのでよかったです。</p> <p>・私は将来外国語系の学部につきたいと考えています。その上で、現在の選挙がどういう状況なのか他国と比較したりして今回のテーマについてディベートしてみました。意見はなかなかまとまらなく大変だったけど、皆の意見を聞いてとても楽しかった。これからも政治経済の学びを深めていこうと感じました。もっと時間が欲しかったです。そうすれば内容をちゃんとまとめてみやすい発表ができたのではないかと少し悔しいです。</p>
<p>・今回参加してみて、この2時間で色々な人の意見を聞いて、選挙、投票に対する考え方がわかりました。この2時間で興味関心が自分の中でとても高まりました。1票くらいで変わらないと思いのうではなく、自分たちが参加していかないと何もかわらないという考え方になりました。選挙は、少しかたくるしいイメージをもってはいたけれど、若者たちが参加することは、とても重要なことだと改めて気付くことができました。今回2時間という短い時間だったけれど、勉強になることが多かったので参加してよかったと感じました。</p>
<p>・いろいろな人の話をきいて、たしかにと思うことばかりだった。自分は別に政治とかに興味がないわけではないけど、詳しくはしなくて、特に岐南町選挙とかになると、もっと分かんないことだらけで、誰がどういう公約みたいなのをだしているかを、分かりやすく簡単にみられたら、この人に投票したい。と思う気持ちも持てるから、絵をつかったりとかマンガだったりとかそういうのを増やしてほしいと思った。場所は、グループの人がいってただけで、母校とかだったら、あーいってみようと思うかもしれないし、友達とか家族とかもいきやすいかも。”</p>
<p>①実際遊びと選挙を選ぶとなると、やっぱり遊びにいってしまうけど、そこをどうするかとして、設置場所とか遊びのときに友達と行こうとか、これからそういうふうにしていきたいと思います。</p> <p>②チラシとかくばられたら、しっかりみたり、家族と一緒政治について会話を増やそうと思いました。</p> <p>③今回この話し合いをしなかったらぶんこのさきも絶対行かないと思うけど、この話し合いをしたからこそ、18歳になったら、家族と友達と行ってみようと思いました。</p> <p>もっとニュースとか意欲的にみようと思います。”</p>
<p>・今回のぎふFCに参加して、選挙権について改めて考えることができた。投票率が家族の投票率に影響されていることが驚きでした。今後、選挙の投票率を高めるためにも、友達・家族の中の意識改革が必要だと感じました。</p>
<p>・若者が投票に行くような社会を作るためには、その若者の周りの友達や家族などが、投票に行くことを勧められるような環境を作ることが大切なのだと分かりました。</p> <p>また、今回のFCは、どのグループでも活発に交流して、それぞれ違った結論が出て、それはテーマに沿っていたので、FCとしては成功していたのだと感じました。</p>
<p>・思った以上に、色々な意見が出て、このフューチャーセンターを体験して、みんなで話すことの意義を感じた。まだ思考が単純だと思ったので、今後は1つ1つ深く物事を考え、意見していきたい。今回話し合った選挙に関して、まず知識をためて、投票しに行こうと思う。</p>
<p>①選挙の大切さや教育する側（教員）がどんなふうに思っているのか、聞くことができてよかった。また、行かない理由を考えたことで、対策をどうしていけばいいのか、どのような思いでそう思うのか整理ができた。やはり一人では行きにくいけど家族や友人と</p>

<p>ならという意見があったので、友達や家族と話をしてみようと思った。自分たちが行かない理由が、興味がないことをかくすための言い訳であると気づき、反省しています。</p>
<p>・今回、大学生として高校生や社会人といっしょに選挙について各々の意見を出し解決策を出して自分にはない考えがでてきたので、驚きと知識がふえた感じがして嬉しかったです。選挙も今18さいになって持つてはいるけど行ってない原因がみんなと同じで、若者がみんなおなじようなりゆうなら、その1つの原因をとりのぞくことをすれば簡単にいいか思っていたけど、そういうことでもなくて、原因というよりは、興味がないということだからその興味を持たせることは実際に考えてみて難しいと思いました。今後、情報をちゃんと手に入れて行こうと思いました。</p>
<p>③正直なところ、選挙に行かないことと事体が、自分自身、周りの環境からみたときに、“普通”とと思っている部分があった。ただ、今回参加することで、“普通”として間違っているなど改めて思った。たかが一票かもしれないが、なにもせず指をくわえているよりも、ちょっと20分歩いて、面倒に思うが、だれか(家族)といっしょに行ってみようと思えた。参加することでこう思うことができたので、それを参加していない人にも話してみようかなとも思う。</p>
<p>①なぜ投票が大事かという間に、権利、自分の意見を反映させるためという答えが多い中で、自分が最も重要視しているを投票を通じて把握する(自己把握)ためという意見や投票するために政治の現状を知ることができるという意見が出て、多面的な考え方をされる人がいて、すごいなと思った。 ②友人同士で誘い合って投票に行く。 ③投票行動の現状を知ることができた。子どもの頃から政治に関心を持ってもらうという案が採用されて良かった。 ・様々な意見が出て、とても参考になりました。</p>
<p>①人の考えに触れることで自分にはなかった創造力と触れて、選挙への取りくみについて勉強になった。選挙にはやはり興味という関点の問題が大きく関わっていると思う。私のグループでは高校生の子の日頃の生活からチラシに漫画や絵をのせるという意見が出た。チラシの工夫というのは広報活動に大きく影響するものだと思う。もし、自分が他のことで宣伝する機会があれば、今日出た意見を活用したい。 ②今後、北方町のまちづくり議会に参加するが、その時も、今日行ったようにできるといいと思う。自分の意見を積極的に言うことが大事だと思った。 ③初めての参加で何を話そうかなど、緊張はしていたが、チームのメンバーがみんなで話せる空気で緊張もほぐれ、良かった。また参加してみたいです。</p>
<p>①様々なグループでいろいろな意見が出ていましたが、改めて選挙に行く理由がなぜ行くべきかを知れる機会となりました。 ②初対面の人と話すことで、人との接し方やまとめ方を今後活かしていきたいです。 ③選挙に行く理由、行かない理由は人それぞれですが、今回それぞれ意見を出してもらうことでより明確になりました。僕は学部的に政治のことを学んだりする機会が多いので、他の人よりかはまだ関心がある方かなと思っていましたが、よく知らない人や政治に関心のない人を選挙に向かわせることは難しいと思いました。しかし、投票をすることで暮らしがよくなるのであれば、やはり選挙に行くべきだと思いました。</p>
<p>①選挙の大切さや教育する側(教員)がどんなふうになっているのか聞くことができてよかった。また、行かない理由を考えたことで、対策をどうしていけばいいのか、どのような思いでそう思うのか整理ができた。やはり一人では行きにくいけど家族や友人とならという意見があったので、友達や家族と話をしてみようと思った。 自分たちが行かない理由が、興味がないことをかくすための言い訳であると気づき、反省しています。 ②家族と選挙の話をしてみようと思った。また、選挙に関する情報をつめてみようとも思った。</p>
<p>・政治に対する自分の考え方が選挙についてなどの現状を見つめ直すきっかけになった。これから先投票に行く時にはより多くの情報を集めてから自分の意見をもっていけるようにしたいと思う。</p>
<p>・フェーチャーセンターに参加したのは初めてなので、テーマを見た時にどこから考えたら良いかとまどってしまったが、グループワークが始まった時に段階をおってセッションをしたので非常に考えやすかった。どういうことが問題で投票率が低いのかを討論し、そこからスローガンや方法を出したので、理にかなった良い案が出た。社会人の方もグループにいらっしやっただけで貴重な意見をもらえた。自分の意見(政治にかんすること)を聞いてもらえる場がなかなかないので、聞いてもらえなかった。</p>
<p>①今回のぎふFCに参加してみて、選挙についての様々な意見を交流することができた。様々な年代で話をする中で考え方の多様性を感じることができたが、ほとんどみんな同じ考え方だと感じた。2時間という短い時間だったが、著物が投票に行くためには若者同士で誘っていったり、若者の意識を変えていく必要があることを学んだ。 ②保育士として、岐南町で働いているため、これからの有権者(今の幼い子どもたち)にも選挙についての絵本とか選挙についてわかりやすく楽しく伝えていけると良いなと思った。そのためには、自分自身も知識がもっと必要だなと実感した。 ③今回初めて、このようなイベントに参加し、みんなと意見を交流することで、自分自身の考えも変わった。これからはこのようなイベントがあればぜひ参加してみたいなと思った。</p>
<p>①広報の方法として、漫画や絵などを活用すると伝わりやすいのかという②発見がありました。業務に取り込みたいと思いました。 ③幅広い世代で意見を交流する機会を得られて有意義でした。若者だけでなく、世代をMIXしたこのような企画があっても良いと思います。</p>
<p>①学生の若い世代の子たちも選挙について政治についてしっかりと考えを持っていて驚きました。 ②事務局側として思っていたことと違う意見があったりして参考になりました。 ③参加して視野が広がりました。</p>
<p>・自分では思っていない考えを知ることができる良い機会でした。</p>
<p>・中学校で社会科を教える自分にとっては、低投票率の改善に大きな役割があることを実感することができた。多くの方の意見を聞くことでまず、中学生に選挙の価値を確認させたいです。さらに、その意識をもって投票に行く自分。そんな生き方ができるように指導していきたいと思います。 めんどくさいは、とても便利なことばだけど、根本は興味がないということ、社会全体、教育全体で、政治に興味をもてる、政治と身近なモノだと考える人が多くなるのが大事だと思う。 家庭でも、地域でも政治のありがたさや必要性がもっともっと感じられたいなあとと思います。勉強になりました。ありがとうございました。</p>
<p>・政治についてまったく興味がなかったし、選挙の事もわからなかったけど、色々な人の意見を聞くうちに、選挙の事がわかり、自分も、選挙に行ってみようと思う気持ちがでてきたので、18才になったら、選挙に行ってみようと思いました。</p>
<p>・若い人が選挙に対してどのような考えを持っているのか考えるよい機会となった。グループ内で選挙カーがうるさくて、投票に行く気がなくなるといった意見があったので、今後候補者、選管含めて他の方策等検討していく必要があると思う。</p>



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.6.24



### たくさんの若者の意見を 政治に反映させよう!

6月24日(土)に岐南町との共同開催で、岐南町中央公民館を会場に、第2回目ぎふフューチャーセンターを開催しました。今回のフューチャーセンターは、岐南町の高校生7人や社会人7人、そして大学生12人が集まり、9月執行予定の町議会議員選挙における投票率UPに向けて考えました。

グループワークでは、なぜ投票に行く必要があるのか、若者が投票に行かない理由、どうすればより多くの若者が投票に行くだろうかについて対話し、最後の発表では、各グループで考えた若者の投票率向上のスローガンと、具体的な方策が提案されました。

今回出されたスローガンは、『With Friend♪』、『楽しく選挙を知ろう!』、『行かない世代、損する世代』、『選挙の日は、Family Day』、『子どもと話す明るい政治』でした。



各グループからの  
意見・アイデア



#### 今回のまとめ

- ショッピングモール(行きやすい場所、人が集まる場所)等に投票所を設置する。
- 親・家族、友達みんなで投票に出かけることを推奨する。
- 絵やマンガを取り入れるなど、選挙チラシの作成に工夫を施す。
- 投票日を家族や未来のため、住みやすい社会を実現させるための日ととらえる。

#### 今後の展開

平成29年9月10日執行予定の岐南町議会議員選挙の啓発活動に活かされる。

#### 担当者の感想(岐南町政策推進課)

今回のFCでは、活発な意見交換がなされ、投票率UPに向けた良い提言も出されました。私自身「選挙に対する意識を変える」という意味で、改めて「主権者教育」の重要性を考えさせられる良い機会となりました。



岐阜女子高等学校2年  
加藤 みのり さん

**若者がもう少し関心を持つことも大切**  
「私は関係ない」ではなく、友達とでも家族とでも身近な人と一緒に選挙に参加することが自分たちの安心した未来につながると思います。自分も18歳になったら、政治に参加したいと思います。



社会人  
佐藤 大二 さん

**若者に響く何かが必要だと感じました**  
自分では、考えないような思考や意見などを聞くことができ、参加してよかったです。投票日の周知が足りないということを知ることができ、まだ何か周知する方法を改善する必要があるということが分かりました。



**CCSC**  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3167 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



第3回 ぎふフューチャーセンター

『郡上に住み、働くこと』を考える

平成29年7月8日（土）

会場：栃尾里人塾「古民家源右衛門」

主催：岐阜大学・岐阜県・郡上市





「地（知）の拠点整備事業」 第29年度 第3回 ぎふフューチャーセンター	
主催	岐阜大学、岐阜県、郡上市
会場	郡上市明宝二間手地内 栃尾里人塾「古民家源右衛門」
日程	平成29年7月8日（土）13:30～15:30 【視察など 10:00～13:30】
背景と目的	<p>岐阜県では、人口減少社会においても地域が活力を保ち続けるため、「地域の将来を支える人を呼び込む」という視点から、移住定住対策を推進している。</p> <p>平成28年度、岐阜大学と岐阜県は、移住定住をテーマとしてぎふフューチャーセンターを開催し、岐阜で学んでいる大学生、岐阜に移住している方々、自治体職員等の意見交換により、より多くの方に岐阜に移住・定住してもらうための方策を検討した。当日は、「岐阜には自然を生かした起業の可能性がある」、「岐阜に住み、県外で働くという選択肢もある」等の意見がでた。</p> <p>2回目となる今回は、移住希望先として多くの方から選ばれ、先進的な取り組みを行っている郡上市において、“田舎”に住み働くことやその働き方について意見交換を行い、若い世代の岐阜県への移住・定住の可能性を探る。</p>
テーマ	<p>「郡上に住み、働くこと」を考える</p> <p>都市部の若年層や子育て世代の中には、農山漁村地域で暮らすことにあこがれる者が多くいるが、移住にあたっては、生活が維持できる仕事（収入）があることや、教育・医療・福祉環境の充実など重要視している条件がいくつかある。</p> <p>フューチャーセンターでは、郡上の暮らしを体感するとともに、生活し働くことを視野に入れ、若い人が田舎（郡上）に移住定住するためには何が必要かを考える。</p>
サブテーマ	①これから生きていく上（人生）で大切にしていきたいこと、価値観は何だろうか。 ②郡上でのライフスタイルにはどのようなものがあるだろうか。 ③（若い世代が）郡上で働き、生活していくためには何が必要だろうか。
内容	○見学・散策 【明宝レディース、ジビエ工房めいほう、栃尾里人塾古民家源右衛門】 ○講演1 郡上市の紹介（郡上市職員 中山潤さん）【20分】 （沿革・地勢・産業・地域活動など一般的なこと） ○講演2 移住体験者の話（山中佐代美さん）【20分】 郡上での生活（買い物、仕事、子育てなど日常の生活の話） ○フューチャーセンター【2時間】
参加者構成	参加者27名：大学生19名（岐阜大学16名、岐阜経済大学3名）、地域の方5名（住民の方など）、その他3名（国際交流員）
対話の方法	KJ法（発表 模造紙など）
ファシリテーター	伊藤栄一 地域コーディネーター（岐阜大学地域協学センター）
当日のスケジュール	13:30 フューチャーセンター説明 アイスブレイク「郡上の魅力」 13:50 セッション①【20分】 14:10 セッション②【20分】 14:30 セッション③・まとめ【30分】 15:00 発表（3分×5グループ+α）【20分】 15:20 講評【10分】 ・郡上市交流・移住推進協議会会長 小池弘 ・岐阜大学地域協学センター 現地コーディネーター 小林謙一
出された意見	1G ○必要なこと ・教育環境（子どもの学ぶ環境が必要）、健康、交通手段→車中心 ・若者が遊べる場所、働く場所、郡上（地元）への愛や覚悟が必要 ・郡上の暮らし体験、現地の人サポート、困ったとき相談できる人 2G ○大切にしたい価値観 ・趣味、人との関わり、毎日楽しく生きる、健康な心と体 ○ライフスタイル ・地域の人と一緒に暮らすという心構えが必要 ○必要なこと ・お金、仕事、免許（車）、仲間（話ができる人、地元の協力者、仲介役）、気持ち、趣味（娯楽施設）、楽観的な価値観

	<p><b>3G</b> ○必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながり（移住者どうし、地元の人）、笑顔、ポジティブさ、体力、根気、環境適応能力、雇用、扶助（援助）、デザインなどの知識（仕事のため）</li> <li>・シカ（ジビエ）を食べる、婚期を逃さない、夢を持つ、モラル、ルール</li> </ul> <p><b>4G</b> ○必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを使って情報発信→若い世代に郡上に対する興味を持ってもらう</li> <li>・地元の人との関わりや、移住者どうしで意見交換ができる場</li> <li>・交通の利便性、スーパー、子育て施設、仕事（安定した収入を得るため）</li> <li>・情報発信の結果→郡上の自然を生かしたレジャースポーツのインストラクター、観光業で働く</li> </ul> <p><b>5G</b> ○大切にしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理想：人とのつながり、自分らしさ、個性、やりがい、弱い立場の人も生きやすい</li> <li>・現実：お金、健康な体、生活のしやすさ</li> </ul> <p>○ライフスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が豊か 川、スキー 自然と親しむ</li> <li>・農業+新しいこと（ネット環境を生かし、パソコンを使って仕事）</li> <li>・農家、ジビエなどについて企業が Web を作成し郡上の良さをアピール</li> </ul> <p>○必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関係：移住者が相談しやすい環境</li> <li>・仕事・生活：今ある仕事にとらわれない発想力・行動力が必要 安心して子供を育てられる環境</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度以降の岐阜県の施策検討時に活用されることが期待される。</li> <li>・平成 29 年 11 月 23 日（木・祝）に県が実施した「わかもの合同ガヤガヤ会議」において、FC で提案された意見を発表した（別添参照）。</li> <li>・来年度以降の郡上市の施策検討時に活用されることが期待される。</li> </ul>
自治体等との調整過程	<p>4 月中旬 清流の国づくり政策課から F C 開催について連絡 ↓ 県担当者と打合せ・調整</p> <p>5 月下旬 ファシリテーターと打合せ</p> <p>5 月 25 日 県担当者と現地視察 移住定住コンシェルジュ等地域の方と打合せ</p> <p>6 月下旬 ファシリテーターと打合せ</p> <p>7 月 5 日 最終調整</p> <p>7 月 8 日 フューチャーセンター開催</p>
担当課感想 （岐阜県清流の国づくり政策課）	<p>今回、参加した大学生の方々には、実際に郡上市明宝地域で地域おこし等に取り組まれている住民の方々から、やりがい・生きがいを感じている話や苦労している話など、この地域で暮らしていくという視点から様々な話を聞いていただいたことと思う。また、その暮らしぶりを体感したうえで、「郡上に住み、働くこと」を考えていただけたのではないかと思う。</p> <p>人口減少社会においても自分が今住んでいる地域や生まれ育った地域など、それぞれの地域が活力を保ち続けられるよう、次世代を担う大学生の活躍に大いに期待したい。</p>
企画担当者所見	<p>今回の F C は、昨年度、岐阜県への移住定住者を増やすための方策を検討した内容をヒントに「田舎」で「働くこと」をテーマに開催し、若い世代にも移住を考えてもらうこと、「田園回帰」の意識を持ってもらうことを狙いとした。</p> <p>開催に当たっては、岐阜県、郡上市及び地域の方々の全面的な協力を得て、和やかな雰囲気の中、意見交換を進めることができた。提案された意見の中には、良い人間関係の構築や、地域とのつながりの重要性などといった、コミュニティの形成に関わるものが多かった。より明確なテーマ設定が必要だったと感じた。</p> <p>短時間の中に視察や講演を多く詰め込みすぎた感があり、もう少し時間に余裕をもって（例えば 1 泊 2 日など）、ゆっくりと郡上の魅力を学び、意見交換ができる機会があってもいいと感じた。</p>

（地域コーディネーター（岐阜県派遣）松原 裕子）

平成 29 年度第 3 回 りふふフューチャーセンター アンケート結果

参加者 27 名 回答者 21 名 回収率 78%

1. 性別 ①男性 8 名 ②女性 13 名
2. 年代 ①10 代 11 名 ②20 代 8 名 ③30 代 2 名 ④40 代 2 名 ⑤50 代 ⑥60 代 ⑦70 代以上
3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。
  - ①1 回目 16 名 ②2 回目 ③3 回目 3 名 ④4 回目 4 名 ⑤5 回目以上 3 名
4. りふふ FC に参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)
  - ①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 16 名
  - ②さまざまな知識や経験を持つ人(地域、大学、行政など)と知り合えることができた 18 名
  - ③大学又は地域の人々が身近な存在に感じられた 2 名
  - ④その他
    - ・地域をより深く知ることができた。
5. テーマについて、十分、対話に参加できましたか?
  - ①参加できた 19 名 ②どちらでもない 2 名 ③参加できなかった
6. 本日の対話に参加して、郡上市の印象は変わりましたか?変わった場合、どのように変わりましたか?
  - ①変わった 17 名

移住の候補になっている場所という印象。
<人>
同じような環境に住む人として共感できた。
色々な活動をしている人がいた。
郡上の人々の繋がりや強さ、郡上を活性化させたいという思いの強さに驚きました。
優秀な方々がたくさんいること。
<郡上を知る>
清流のまちというアバウトな印象だったが、明宝ケチャップのことや明宝地区の過疎問題などとも印象が明確になった。
前よりも多くの事業やそこに住み生活している人と触れ合ったことで、具体的なイメージを感じた。
車の必要性があるということ、郡上踊り以外にも魅力がたくさんあるということ。
車が重要。
<地域性>
お祭りのイメージが強かったので、新たな挑戦をするためにすごく良い場所なんだと感じた。
発展できる要素、追加できる要素がある。
ユニークな都市だと思った。
思った以上に農業が中心になっている。
思っていたよりも自然とのつながりが豊か。

- ②変わらない 4 名
  - ・最初のイメージ通り良い町だった。

7. あなたは、岐阜県への移住定住を促進するためには、どのようなことに力を入れるべきだと考えますか?次の中から順に 3 つまで選んでください。
  - ①防犯・防災など安全・安心の充実 ②医療サービスの充実 4 名 ③福祉・介護サービスの充実 3 名
  - ④就職・就業の機会の創出 14 名 ⑤子育て支援の推進 8 名
  - ⑥商業振興によるにぎわいの創出 2 名 ⑦転入時の住居支援 4 名 ⑧公共交通機関の充実 6 名
  - ⑨学校教育など教育環境の充実 2 名 ⑩産業人材の育成 1 名
  - ⑪良好な自然環境や町並みの保全 2 名 ⑫観光・交流の充実 6 名 ⑬芸術・文化の振興 1 名
  - ⑭スポーツ施設・公園の整備 ⑮住民相互の交流やボランティアなど市民活動の充実 6 名
  - ⑯農林畜水産業の担い手の育成 ⑰その他 1 名
8. 自由意見

〇当日の運営等について
見学先でもう少しゆっくり見ることができれば良かったのではないかと思います。
FCの対話のために使った公民館が非常に良かったです。
バスの座席数にもう少し余裕があると良かったです。
はじめての参加でしたが、岐経大で普段話し合うのと違い、岐阜大学さんの学生の方と意見交換ができ、視野が広がったように思います。また、今回の開催地である郡上市について明宝レディースさんのような会社について触れることができ、今私が取り組んでいる大垣市の駅前商店街の盛り上げや、大垣市全体の町おこしにとっても参考になるいい機会になったと思います。

<p>OFGについて</p> <p>このような対話のきっかけづくりがとても大事だと感じました。</p> <p>様々な所を回れて良かったです。私は、地域おこしやまちづくりについて調査する中で、様々な文献を読むのですが、今回は生の声を聴いたので、文で読んだよりも思いが切実に感じられました。</p> <p>期限が切れているにもかかわらず受け入れてくださってありがとうございました。多くの人と触れ合ったことで、非常に多くのことを今日1日で学ぶことができました。まちづくりには関心があるので、テーマと時間が合えば今後も参加させていただきたいです。自分からなかなか参加できないですが、思い切って授業の関係で参加して本当に良かったです。今日の人の話や様々な意見、体験を通じて今後のまちづくりを目指す上の参考にしたいと思います。</p> <p>はじめてこのような話し合いの場に参加させていただきましたが、とても良い勉強になりました。地元の方から直接お話を聞くことができ、とても良かったです。初めての郡上を地域の事情から知ることができました。ありがとうございました。</p> <p>日本の大学は地域とつながりを持って教育活動を行っています。地域は学生に教育の現場を提供するのはとてもいいことだと思います。ディスカッションのときは、とても話しやすい場で話し合いました。</p> <p>今回のような移住・定住についてや地域づくりに関するテーマについては今後あれば参加していきたいです。</p> <p>はじめての人とチームを組み、地域の方の話も聞けたのでとても充実した話し合いができました。少し暑かったのが大変なポイントだったけど、楽しかったです。</p>
<p>○郡上についてなど</p> <p>・移住定住についてのワークショップでしたが、郡上のイメージが変わりました。移住に関しては、どの地域も抱えているような人口減少の問題もあり、同じように移住について考える市町村があると思います。</p> <p>しかし、成功しているどこかの真似をするのではなく、地域性を生かした政策をとっていかねばいけないと感じました。</p> <p>・また、実際に移住している方の話を聞くことができ、面白かったです。プラス面とマイナス面を見つ、マイナス面をプラスに変えていけるようにすべきだと感じました。</p> <p>・郡上には大学の授業や観光などで何度も行ったことはあるのですが、毎回行くたびに印象が変わり、積極的に移住などを通して人材を求めている町だと感じました。</p> <p>・今回のフューチャーセンターでは、郡上で住むことを考え、都市部とは違い便が悪い郡上ならできることが多々あるのではないかと思います。そのためにも、地域の方々との交流やその他仲間との付き合い、また、気持ちといったところが重要になると感じました。</p> <p>・便利になることがすべてではないと、心から実感した。便利になることで失うものもあって、郡上には将来のヒントがたくさんあることを学んだ。フューチャーセンターに参加したのは2回目だが、普段話さない人と話せるのは非常に楽しいし、自分の意見が人に認められる喜びを感じた。郡上のような自然のたくさんある町で暮らすことの魅力を感じ、自分としては都会よりこういう町で暮らしたいという気持ちがより一層高まった。</p> <p>・また、今日出会った郡上の方々には、みんな輝いていてと率直に感じた、笑顔がきらきらして本当に楽しそうに暮らしている感じが伝わってきた。この魅力をもっと多くの人に伝えていきたいと思った。ぎふフューチャーセンターに参加してみて、たくさんのことを学んだが、人の出会いがあったことと、地元ぎふの良さを実感できたことが成果だと思う。また機会があればぜひ参加したい。</p> <p>自分としては郡上の強みとして、自然や農業を生かすという考えしか持っていなかったが、現在のデザイナーなどはネット環境さえあればどこであっても仕事が可能であるということから、今あるものだけにこだわらない若者の働き口の開拓ができるということがわかり驚いたし、そういった考えがあるのだと納得した。</p> <p>・私は、学校の授業の一環で郡上の活性化のために何ができるかを考えていて、今回このような機会があることを伺って、とても良い勉強になったと思って参加させていただきました。</p> <p>・今日は、自分とは年齢や住んでいる場所も違う人とグループワークを通して話して、いろいろな刺激を受けました。郡上には都会にはない人とのつながりの強さがある、すごく素敵な場所だと思いました。今回、郡上で働くことについて考えることで、自分の一番大切にしたいことについて、改めて考えるきっかけになりました。ありがとうございました。</p> <p>・今回のフューチャーセンターで様々な人と関わり、話し合いができてとても良かったです。大学にいただけでは触れ合えない人との関わりができるイベントはとても楽しいと感じました。移住に関しては、私はやりたいことを通すために岐阜から離れる将来を選ぶつもりですが、地元に対して遠くからでも支援できる形というのができると良いと思いました。</p> <p>・また、見学することで郡上に対する知識や雰囲気をつかむことができたのでとても良いと思います。しかし、もう少し話し合う時間が欲しかったです。</p>
<p>以前から大学の授業で郡上市の定住について考えていたのですが、初めてあった方や本当に郡上市に住んでいらっしゃる方の話を聞いたり、関わりがあったりしているうちに、これまでの知識に加えて新たにもっとこうしたらいいなという意見も持つことができ、視野が広がった気がします。実際にいろいろな場所に行ってみて、それぞれの良さ・課題を自分の目で見てみて、自分の応用力に取り入れて生きたいなと思いました。また郡上に来てみたいなと思いました。</p> <p>現地の人や明宝に移住した人たちが力を入れている事柄などを実際に見ることができたことは地域の発展などに対し大きな意味を持っていると思う。今後もこのような行事が行われ続けるといいと思う。また最後の付箋を用いたワークでは自分が考えもしなかった意見や案などがたくさん出てきてとても勉強になった。あとケチャップおいしかったです。</p> <p>自分だけでは思いつかなかった郡上に対するマイナス面やプラス面を学年・学部が違ふ人の意見を聞くことで、楽しみながら知ることができました。例えば、郡上では雪が降るので大変であるというマイナス面も、スキーをすることができたり、インストラクターとしての仕事ができるというプラスな面にもつながるということを感じることができました。</p> <p>授業で郡上のことを調べて発表したの、それで興味を持って参加しました。課題や解決策など、様々なことを話し合い考えましたが、実際に見て、話を聞くとまだまだ知らないことがたくさん見えてきてとても楽しかったです。また、明宝レディースのケチャップはとてもおいしくて買いたいです。</p> <p>郡上は自分が住んでいる飛騨古川ととても似ているところがあり、とても共感を得ることができた。また、現地の方でも移住された方の意見を聞くことができ、直で感じるすることができた。</p> <p>郡上は全く知らない土地だったので、もっと探したら魅力があるのではと思った。過疎化が進む土地の対策を考えることはこれからのためにとっても意味があるので、考えるのを止めないようにしたいし、何らかの対策を進めるべきだと思う。過疎化している土地出身なので、地元のためにもっと何かしたいと思うようになった。グループワークで出る意見はまとめるのが難しかったけど、それだけ様々な考えがあるということを実感した。</p> <p>郡上市の中でも行ったことがない場所を回ったのでとてもいい経験ができたと思いました。フューチャーセンターでは、地元の大人の方と交流する機会があって、そのときにシビアな話を聞いたりしました。とても刺激的でおもしろかったです。グループの発表を聞いて、結局行き着く場所は同じだと思いました。自分も含めみんな仕事があればいいと思っているし、便利になればいいと思っています。しかし最後の話を聞いて少し変わりそうです。</p>

## 平成29年度 若者とのガヤガヤ会議（合同会議）

- 1 日 時 11月23日（祝）14:00～16:00
- 2 場 所 じゅうろくプラザ 4階 研修室（岐阜市橋本町1丁目10番地11）
- 3 概 要 次世代を担う若者の意見を反映し、「清流の国ぎふ」づくりを未来へ展開するため、平成29年度に開催した階層別（※）ガヤガヤ会議の代表者が合同で意見交換会が実施された。大学生、岐阜大学から以下の2名が参加し、第3回ぎふフューチャーセンターで提案された意見を発表した。発表内容は別添のとおり。

地域科学部3年 中西 一矢 細川 瞬

※ 階層別…高校生、大学生、若手社会人、若手女性、外国人県民

### 4 次 第

#### 【第1部】

- ・階層別会議における意見発表・質疑
- ・コーディネーター（岐阜大学工学部 高木朗義教授）による質疑・感想

#### 【第2部】

- ・階層混在の意見交換会 <テーマ>若者が活躍できる岐阜県について
- ・講評（①コーディネーター、②知事）

<高木コーディネーターコメント>

- テーマについて、自分事として考えそれぞれの視点でどうしたいかを話していただいた。今後が期待される。
- 「グローバル」という造語があるが、国際的な視点を持ちながら地方で活躍していくことが世界に繋がっていく。

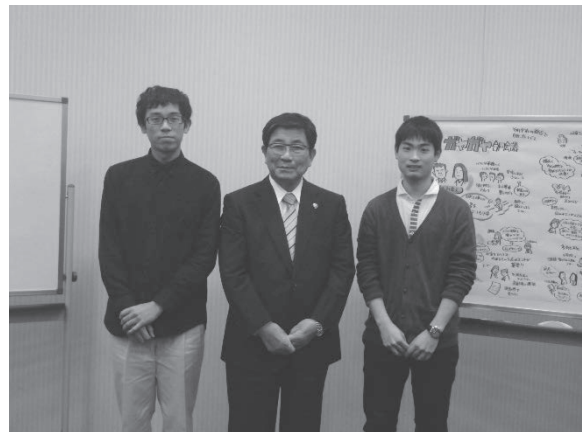
<知事コメント>

- 皆さんと同じ視点で議論ができた。
- 私が日頃どのようなことを思っているかを感じ取ってもらえたのではないかな。ぜひ、いろいろな提案をしていただきたい。

### 5 参加した学生の感想

- 今回の会議で、移住定住や外国人学生に対する教員の不足の問題などの改善していくべき事柄だけでなく、古田知事から語られた「岐阜県ブランド」の海外への販路拡大を行っていることなど、外から取り入れるだけではない地域資源の生かし方にも目を向ける必要があるのだと実感した。そして、その生かし方を考えるためにも、県政や世間の風潮などに関心をもつようにすべきだと感じた。（細川 瞬）
- ガヤガヤ会議では、様々な年代や立場の方々が集まり、岐阜県の強みやこれからの活躍について話し合うことができ、とても有意義な時間になった。特に古田知事と直接話す機会はなかなかないので、とても刺激を受けた。また、知事から「清流の国ぎふ」についての話もしていただけたので、岐阜県のアイデンティティを再確認する機会となった。（中西 一矢）

### <当日の様子>



平成29年11月23日 ガヤガヤ会議

## 岐阜フューチャーセンターin郡上

岐阜大学 地域科学部 3年  
中西一矢 細川瞬 橋本実紅



## 岐阜フューチャーセンターin郡上

平成29年7月8日(土)郡上市明宝栃尾里人塾「古民家源右衛門」  
参加人数 大学生 19名 地域の方等 8名

### 企画名「郡上に住み、働くこと」

#### サブテーマ①

～これから生きていく上(人生)で大切にしていきたいこと、  
価値観は何だろうか～

#### サブテーマ②

～郡上でのライフスタイルにはどのようなものがあるだろうか～

#### サブテーマ③

～若者が郡上で生活していくには何が必要か～



### サブテーマ①

～これから生きていく上(人生)で  
大切にしていきたいこと、価値観は何だろうか～

- ▶ 自分のやりたいことをやる
- ▶ 人と関わる(家族を含め)
- ▶ 目標を持つ
- ▶ 楽しく生きる
- ▶ 健康であきらめない心・お金があること
- ▶ 自分のために使える時間があること
- ▶ 健康・周囲との関係・ゆっくり過ごしたい
- ▶ 散歩できるような自然・職・福祉・地域の経営

以上のことから

環境・時間・職・人間関係・意思・お金

が重要

### サブテーマ②

～郡上でのライフスタイルにはどのようなもの  
があるだろうか～

[自然]

- ・美しい自然と共存する
- ・自給自足(釣り、猟→ジビエ、農業、山菜採り)
- ・ものづくり

[協力]

- ・近所の人と助け合いながら生活(職業)
- ・自分のスキルを活かして起業する
- ・第6次産業・観光業
- ・パソコン・インターネットでの仕事

[その他]

- ・車で生活 ・昼寝 ・アウトドア

### サブテーマ③

～若者が郡上で生活していくには何が必要か～

#### 「支援」

- ・住居の提供(空き家の活用・シェアハウス)
- ・働く場所(安定した収入)
- ・子育て支援(補助金・託児所)

#### 「施設」

- ・移住者が相談できる場所
- ・スーパーや病院など暮らしに欠かせない施設
- ・公共交通機関の整備
- ・教育機関

#### 「地域協力・ 人間関係」

- ・地元住民の協力や地元の方への理解
- ・特に若者であれば同世代の仲間がほしい
- ・地域の集まりや行事への積極性

## 実現のために取り組むべきこと

#### ▶ 地元企業の協力

- ・地域貢献活動としての就職先の保持
- ・会社の寮としての空き家利用など

#### ▶ 地域住民との交流

- ・同年代の人同士での会合
- ・相談所や交流の場となる施設
- ・祭りなどの行事

#### ▶ 内部・外部への情報発信

- ・地域おこしとしての活動の地域への周知・回覧板などの利用
- ・他の地域への見学や講義
- ・郡上の良さ、取り組み、支援の内容などを外部へ発信
- ・不安感を和らげる

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.07.08 2017年11月1日発行号

VOL.32



### 「郡上に住み、働くこと」を考える

7月8日(土)、郡上市明宝において第3回ぎふフューチャーセンターを開催しました。当日は、明宝レディース、ジビエ工房めいほうといった明宝ならではの施設を見学した後、築100年という古民家源右衛門において「郡上に住み、働くこと」について考えました。岐阜大学・岐阜経済大学の学生、国際交流員、地域の方々といった多様な方々が参加し、終始和やかな雰囲気の中対話は進みました。

人生で大切にしていきたいことや郡上でのライフスタイルを話し合った後、それらを踏まえて「若い世代が郡上で働き生活するために必要なこと」について意見交換を行いました。発表では、「楽観的な価値観」など移住者側の心構えや「地域の人々が意見交換できる場」など受け入れる側に求められる工夫なども提案されました。



各グループからの  
意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- 地元の人と関わる機会や、移住者同士で意見交換ができる場をつくる。
- 郡上の暮らし体験ができるようにする。
- インターネットを利用して情報発信し、郡上の自然を生かした職業や、観光業に繋げ、若い世代を呼び込む。

#### 今後の展開

提示された意見は、今後、岐阜県や郡上市の移住定住施策の参考とされることが期待されます。

#### 担当者の感想

(岐阜県清流の国づくり政策課移住定住係)

人口減少社会においても自分が今住んでいる地域や生まれ育った地域など、それぞれの地域が活力を保ち続けられるよう、次世代を担う大学生の皆さんの活躍に大いに期待したいと思います。



ジビエ工房めいほう  
施設管理者

元満 真道 さん

#### 気持ちがあればつながれる!

九州から岐阜市を経由し、郡上に移住してきました。自分にとって「気持ちがいい」と思えることが身近にあって、豊かに生活できています。移住を考えている人へ自分自身に何かやりたいという気持ちがあれば、いろんなものと繋がっていきます!



岐阜経済大学  
経営学部3年

高橋 脩 さん

#### 新しい生活スタイルが生まれる。

地域に関わる仕事がしたいので、その参考になればと参加しました。移住者の方には、これをやりたい!と思って来ている人が多いと感じました。今後は、デジタルに頼らない生活スタイルが生まれて、それも新しい生き方につながると思います。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター

TEL.058-293-3168

http://www.ccscc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccscc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点





第4回 ぎふフューチャーセンター

子育て世代等若者が来たくなるような  
地域体験ツアーを考えよう

平成29年8月29日（火）

会場：中津川市阿木中の島公園

主催：岐阜大学・中津川市



「地（知）の拠点整備事業」  
平成 29 年度 第 4 回 ぎふフューチャーセンター

主催	岐阜大学、中津川市
会場	中津川市阿木地内 中の島公園内
日程	平成 29 年 8 月 29 日（火） 13：00～16：30
背景	中津川市内において高齢化率ワースト 2 である阿木地域では、子育て世代等若者が定住してくれることを望んでおり、この地域課題に対し、地域住民も巻き込んだフューチャーセンターを実施することで、今後地域で展開できそうなアイデアの創出を提供する。
目的	今回のフューチャーセンターでは、阿木地域の魅力を参加者に発見（再確認）していただく場を創出する。また、学生が、地域の現状及び課題を地域住民等から直接対話を通じ確認する場の創出及び地域活動について考えるための学習機会とする。
テーマ	子育て世代等若者が来たくなるような地域体験ツアーを考えよう
サブテーマ	(1) 阿木地域の魅力や活用できそうな地域資源は何か (2) 子育て世代等若者が来たくなるような体験はどんなことか (3) 阿木地域における体験ツアーを考えよう
参加者構成	参加者合計 27 名（5、6 名グループ×5 グループ） ・学生 6 名（岐阜大学 3 名・他大学 3 名） ・阿木地域住民 18 名 ・自治体職員等 3 名（中津川市職員 2 名・岐阜大学 1 名）
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	伊藤栄一 地域コーディネーター（岐阜大学地域協学センター）
当日のスケジュール	13：00～ 阿木地内見学（マイクロバスにて） ⇒阿木地内の風景や主な地域資源を FC 開催前に見学する （10 分休憩含む） 14：00～ 開会（フューチャーセンターの主旨及び今回の目的説明） 14：10～ 情報提供（阿木地域についての座学：映像含む）（20 分） 14：30～ アイスブレイク（グループごとの自己紹介含む）（10 分） 14：40～ セッション①（30 分） 「阿木地域の魅力や活用できそうな地域資源は何か」 15：10～ セッション②（20 分） 「子育て世代等若者が来たくなるような体験はどんなことか」 15：30～ セッション③（30 分） 「阿木地域における体験ツアーを考えよう」 16：00～ まとめ発表（25 分） 16：25～ 閉会
FC 後の展開	・阿木地域住民の方へこの結果を報告しつつ、今後、阿木地域の地域づくり組織で実施する移住定住等の取り組みでは、どんなことが取り組みそうかななどの協議を行う。 ・また、現在ある阿木地域の移住体験施設の利用向上も含め、関係団体や地域の方と協議をしながら、移住促進のための取り組みへと展開する。
出された意見	【グループ 1】 ●阿木の魅力や地域資源 ・地域の食べ物（米、トマト、そば、みそ、しょうゆなど） ・自然環境（澄んだ空気、森林、川、風景） ・名所（大いちょう、トンネル） ・人の良さ、文化、お祭り など ●阿木で体験できるといいと思うこと ・夕日を見る、写真（風景、名所など）撮影 ・お宝探検、三世代交流（地域内住民の交流）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者との対談 など</li> <li>【グループ2】</li> <li>●阿木の魅力や地域資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境（山、田んぼ、川がきれい、イチョウが立派）</li> <li>・地域の食べ物（野菜、そば、お米）が美味しい</li> <li>・災害が少ない ・のんびりできる ・人が温かい</li> <li>・子どもが遅く育つ など</li> </ul> </li> <li>●阿木で体験できるといいと思うこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・山菜取りなどの収穫体験 ・田植え体験 ・山登り ・星空観察</li> <li>・三世代交流 ・蕎麦打ち ・自然遊び など</li> </ul> </li> <li>【グループ3】</li> <li>●阿木の魅力や地域資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然風景が良い ・静か ・保育園から高校まで地域内にある</li> <li>・つりができる ・子育てしやすい ・人が優しい、温かい</li> <li>・移住者が多い ・街に近い など</li> </ul> </li> <li>●阿木で体験できるといいと思うこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験（古民家での宿泊、地域の方との交流 など）</li> <li>・自然体験（星空観察、森や川で遊ぶ、魚釣り、そば打ち など）</li> <li>・観光地を見に行く（明智鉄道、大いちょう、阿木川ダム、風神神社など）</li> <li>・家づくり（古民家リフォーム など）</li> </ul> </li> <li>【グループ4】</li> <li>●阿木の魅力や地域資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境（田園と山の景観、畑の花、季節のにおい、水がきれい）</li> <li>・バーベキュー ・鍾乳洞 ・明智鉄道 ・阿木城跡</li> <li>・カヌーができる ・川遊びができる など</li> </ul> </li> <li>●阿木で体験できるといいと思うこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・炭焼き体験 ・林業体験や木工体験 ・米作り体験</li> <li>・草木染体験 ・釣りやキャンプ ・サイクリング</li> <li>・蛍狩り ・日常的な子育てを体験 ・多世代交流 など</li> </ul> </li> <li>【グループ5】</li> <li>●阿木の魅力や地域資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境（山の景観、きれいな水や川、田んぼがきれい など）</li> <li>・名所（大イチョウ、トンネル、明智鉄道 など）</li> <li>・大きな広い民家 ・騒いでも大丈夫（隣近所に気兼ねなく居住）</li> <li>・子どもたちが思いっきり走ったりできる ・車があれば街まで近い</li> <li>・子育て支援グループの人的資源 など</li> </ul> </li> <li>●阿木で体験できるといいと思うこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・そば打ち体験 ・明智鉄道乗車 ・農業体験 ・ジビエ</li> <li>・さわ上り（きれいな川を体験） ・バーベキュー</li> <li>・ツリーハウス ・トレイルラン ・サイクリング など</li> </ul> </li> </ul>
<p>担当職員感想 (中津川市市民協働課)</p>	<p>地域住民が気付かない視点で阿木地域の魅力等を認識することができた。また、阿木地域の移住者の方も多く参加いただいたことで、阿木地域のどんなところを気に入って移住しているかなどを従来阿木地域に住んでいるかたが気付かない視点なども共有することができた。</p>
<p>自治体等との調整過程</p>	<p>4月 阿木地域との調整開始 4～5月 阿木地域及び岐阜大学（地域協学センター）との協議 8月 ファシリテーターとの打合せ</p>
<p>企画担当者所見</p>	<p>参加者同士での活発な意見交換等ができ、また阿木地域住民同士での新たなつながりもでき、全体としてはよかったと感じている。 反省点としては、地域住民の参加者に比べ、学生の参加が少なく、できれば、もう少し多く参加者を募ることができるとよかった。今回、何故学生の参加が少なかったのか（学生の夏休み期間だから？もしくは、中津川という地域が遠方だから？）などの原因をしっかりと把握し、地域コーディネーターとしてどうすべきだったか等を振り返り、次回の企画へ活かしたい。</p>

(地域コーディネーター (中津川市) 中尾まゆみ)

平成29年度第4回ぎふフューチャーセンターアンケート結果

参加人数27名 回答者21名 回答率77.8%

1. 性別

①男性15名 ②女性5名 無回答1名

2. 年代

①10代2名 ②20代5名 ③30代1名 ④40代以上3名 ⑤50代1名

⑥60代以上8名 ⑦回答なし1名

3. 所属

①大学(学生)6名 ②一般(地域)10名 ③自治体4名 ④大学(教職員)0名

⑤その他0名 ⑥回答なし1名

4. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。

①1回目12名 ②2回目5名 ③3回目2名 ④4回目0名 ⑤5回目以上1名

⑥回答なし1名

5. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた19名

②さまざまな知識や経験を持つ人(他の学校、大学、行政など)と知り合えることができ9名

③大学又は行政が身近な存在に感じられた4名

④その他(以下意見:原文のまま)2名

- ・多くの人が集まれば、異なった多くの考えがありとても有意義
- ・地域の魅力を感じさせた

6. テーマについて、充分、対話に参加(自分の意見を言うことが)できましたか。

①できた20名 ②どちらでもない0名 ③できなかった0名 ④回答なし1名

7. テーマについて、グループのメンバーの考えを聞いたりすることができましたか。

①(聞くことが)できた19名 ②どちらでもない0名 ③(聞くことが)できなかった0名

④回答なし2名

8. 地域(自治体も含む)が移住政策に取り組んでいることを以前から知っていましたか。

①知っていた16名 ②知らなかった4名 ③無回答1名

9. 若者の移住・定住について関心はありますか。

①ある19名 ②ない0名 ③どちらでもない1名 ④無回答1名

10. 今回のFCで提案された内容を今後のあなたの取組みに参考または活用したいと思いますか。

①ある19名 ②ない1名 ③どちらでもない0名 ④無回答1名

11. 今回のFCに参加して、今後、地域の活動や取組みに積極的に参加しようと思いますか。

①これまでに以上に参加しようと思う4名 ②参加しようと思う16名 ③どちらとも言えない1名

④あまり参加しようと思わない0名 ⑤参加しない0名

12. 今後、ぎふFCに参加したいですか。

①参加したい6名 ②テーマに興味があれば参加したい15名 ③参加したくない0名

④その他0名

13. 今後、どのようなテーマのぎふFCに参加したいと思いますか?具体的にお書きください。

- ・地域活動、活性化
  - ・人間形成、人とのつながり、係わり方、学生と協働で行う地域活性化、移住、移民
  - ・自然を活かした町づくり、教育、地域活性化、地方移住、ビジネス、地域活性
14. 今回のぎふFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう(又は業務に活かそう)と思うこと、③感想などをご記入ください。

・中津川の知らないトコロを発見することができました。都市部でも取り組んでいる子育て支援が、中津川の過疎といわれる地域でもあることはオドロキでした。”
・若い人の意見、考え方がいろいろ聞けて良かった。
・今、考えているイベント等は生かせればと思います。
・阿木へ若者がきていただくような地域にしたいと思っています。ぜひ良い考えを出して下さい。
・色々な世代の考えを知ることができ、とても楽しい時間でした。ありがとうございました。
・各人により、多くの考え方があり、どれも前向きで素晴らしかった。地域の将来に希望を持ちたい。
①阿木地域の魅力、③WSが、非常におもしろく、時間を忘れて行うことができた
①いろいろな世代の方の話聞いて阿木の知識が増えたと、外から見たときと中から見たときで見え方が変わることが分かった。
・阿木という地域という魅力について再発見することができ、また若者移住のためにどんなことをしたらいいかを考えるいい機会になった。
・まだまだ阿木の知らない所があったんだなあと思いました。参加して、あらためて、阿木が良い所だと思いました。
・今までは個人的に考えていたが、地域としても体験つき民泊に協力できればという思いが生まれました。
・子ども、移住者、住民等、様々な立場の人と話をさせていただいたことによって、様々な視点考え方を知ることができた。地域リーダー育成プログラムで実際に移住者を増やすための活動をしていくことになるため、今日話をしたことを活かしていきたい。
①普段関わることのない立場か年代の人と会うことができたので、考え方を知ることができました。また、その中でどう自分の考えを伝えるか、ということを考えるのも勉強になりました。
②地域のイベントなどに参加したいです。



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.08.29



### 子育て世代等若者が来たくなるような地域体験ツアーを考えよう

8月29日(火)に中津川市との共同開催で、阿木地域の中の島公園で、第4回目ぎふフューチャーセンターを開催しました。今回のフューチャーセンターは、大学生6人、阿木地域住民18人、中津川市職員2人、岐阜大学職員1人が集まり、「子育て世代等若者が来たくなるような地域体験ツアーを考えよう」をテーマに考えました。

5つのグループに分かれて「阿木地域の魅力や活用できそうな地域資源」「若者が来たくなるような体験」を洗い出し、それぞれのグループで阿木地区を体験するツアー案を出すことができました。



各グループからの意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- 民泊を活用した移住者との対談ツアー
- 春夏秋冬 季節に合わせた阿木体験
- 生活体験ツアー
- 遊びながら田舎の現実を知る、阿木ってこんなトコ!
- 夏と冬の阿木地区自然体験ツアー

#### 今後の展開

現在ある阿木地域の移住体験施設の利用向上も含め、関係団体や地域の方と協議をしながら、移住促進のための取り組みへと展開する。

#### 担当者の感想(中津川市阿木事務所)

人口減少社会においても自分が今住んでいる地域や生まれ育った地域など、それぞれの地域が活力を保ち続けられるよう、次世代を担う大学生の皆さんの活躍に大いに期待したいと思います。



移住者  
松尾 愛子 さん

#### 阿木の魅力を再発見できた

阿木の自然の中で子育てをしたくて移住してきました。ぎふフューチャーセンターは初めての参加で、阿木の魅力を再発見できて、自分の選択が良かったんだと改めて思えました。今後はこの魅力を自分でも発信していくようにしたいと思います。



名古屋市立大学3年  
古井 千景 さん

#### 地域の生の声を聞くことが出来た

地域活性化に興味があってNPOの活動に個人的に参加してきたけれど、こうして地元の大人の方も大勢いる場所は初めて。生の声を知れるのがとても新鮮だった。実際に何かをやるときには地元の人と一緒にやらないといけないから、とても良い機会でした。



**CCSC**  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccscc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3167 [E-Mail] ccscc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点





第5回 ぎふフューチャーセンター

若い世代の白川茶ファンを増やそう

平成29年9月27日（水）

会場：白川町役場

主催：岐阜大学



「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 5 回 ぎふフューチャーセンター	
主催	岐阜大学、「やさ茶」学生プロジェクト
会 場	白川町役場・会議室（岐阜県加茂郡白川町河岐 715）
日 程	平成 29 年 9 月 27 日（水） 14 時 00 分～16 時 30 分
背景と目的	<p>岐阜県の白川茶は、高い香気などの特徴を活かしてブランドが構築されてきた。しかしながら、“日本茶を淹れて飲む習慣”の減少などが影響して茶葉の消費量が減少し、更には、生産地域の過疎化・少子高齢化も関係して茶葉生産農家の生産性の低下と後継者不足といった課題が顕在化している。</p> <p>本企画は、岐阜大学生、茶葉生産農家、茶商、役場職員等の関係者が一同に会して、若い世代（次世代）による白川茶の消費を増やすため、現状課題やその解決法等について議論して、実践可能な方策等を見出すものである。</p>
テーマ	若い世代の白川茶ファンを増やそう
内容	①白川茶の現状と課題説明（20 分） 茶商：㈱白川園本舗、茶葉生産農家：宇津尾茶生産組合 ②KJ 法の説明（10 分） 岐阜大学地域協学センター ③グループ討論（60 分） ④成果発表・質疑（30 分） ⑤全体討論および総括（30 分）
参加者構成	参加者合計 24 名（4～6 人×5 グループ） ・岐阜大学生 8 名 ・白川町・東白川村職員 6 名 ・茶商 5 名 ・生産農家 2 名 ・農業協同連合会 1 名 ・東濃信用金庫 2 名
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	岐阜大学工学部 神谷浩二 教授
当日のスケジュール	8:30 岐阜大学 発（JR 岐阜駅経由） 10:30 ㈱白川園本舗・七宗御殿 着 → お茶淹れ体験 13:30 白川町役場 着 14:00～16:30 ぎふフューチャーセンター 19:00 岐阜大学 着（JR 岐阜駅経由後）
出された意見	A 班：1 から茶作りに携わろう ・土づくりから茶摘みまで携わることで愛着を持ってもらう ・インスタ映えする茶畑等で携わる人のすそ野を拡大する  B 班：茶摘みでギネスに挑戦!! ・茶摘みの人数か何かでギネスに挑戦 →ギネス認定茶で知名度 UP! ギネス認定がダメだったら「ギネスに挑戦茶」でも良い。  C 班：#白川茶 ・若い世代に SNS でアピール ・お茶の味等分からなくても良いから、まず白川茶を知ってもらう ・そのために茶畑、お茶ソフトクリーム等インスタ映えするものでアピール ・人の集まる駅等に「#白川茶」の看板を立てて検索してもらう  D 班：白川茶を知るツーリズム ・白川茶と言われても、お茶の淹れ方も知らないし、お茶と言えば静岡とか京都のイメージ ・高校生、大学生はお茶ばなれしているペットボトル世代 →高校生、大学生を対象に白川茶 PR のツーリズムを実施 広報…テキストより写真重視、ピースを集められるようなツーリズム 体験を組み込む（淹れる・作る・香をきく）ことで知ってもらう

	<p>E班：問題点から提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そもそも知名度が低い→白川茶レストランを展開</li> <li>・家に急須がない→茶器にも工夫。東濃には名工も多いので作ってもらう</li> <li>・お茶はペットボトルで飲むものと思われている</li> </ul> <p>→水だし茶のおいしさを知ってもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地柄量産できないので高級路線でないとツライ</li> </ul> <p>→ファーストクラスで使ってもらう等、富裕層の選択肢にってもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーヒーの方が好き</li> </ul> <p>→スタバで日本茶メニューを提供する</p> <p>→スポーツドリンクで淹れてみる等新商品を開発</p>
今後の展開	<p>B班のアイデア（ギネスに挑戦）を5月の新茶の時期に実行することを目指して動くこととした。</p> <p>&lt;追加協議で出た内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規模感として数百人ならすぐ集められそう。</li> <li>・例えば500kg 摘めば100kgの製品ができるので、参加費を取って製品を返せば良い。</li> <li>・学生チーム×地元チームで実行。</li> <li>・クラウドファンディングや地元企業の協賛で資金調達する。</li> </ul>
自治体等との調整過程	<p>9月6日 (株)白川園本舗と打合せ(地元との調整を依頼)</p> <p>その他、上記日程の前後にメール・電話にて随時調整</p>
企画者所見 (岐阜大学工学部教授 神谷浩二)	<p>地域(地元)の方々の思いに対して、学生の客観的な意見や新たな視点での意見等が融合することによって、次に繋がる成果が得られたことは有意義であった。特に、アイデアの実現に向けて、地元の若い世代グループと学生グループによって新たなチームを形成して、具体的な活動を進めることとなり、学生にとって通常の学業で得られない貴重な経験であり教育的効果も高いと考えられる。</p>
企画担当者所見	<p>明確にサブテーマを区切らない進行の結果、各チーム多様な話し合いになったことは興味深かった。例えばE班は想定したような課題の洗い出しからそれへの対応策として話が進んだが、A班はどんな体験なら楽しいかを軸にお茶の生産過程を農家からじっくり聞くところからスタートした。これは「担い手不足」、「知名度不足」、「生活必需品から嗜好品への変化」といった分かりやすい課題が情報提供で示されたからこそ可能であったと思われる。また、今後の展開に向けた話し合いまでをその場で行ったことで、出したアイデアが形になる道まで示されたことは非常に刺激的であった。</p>

(地域協学センター助教 塚本明日香)

平成 29 年度第 5 回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果

参加者 24 名 回答者 24 名 回収率 100%

【参加者】

1. 男女比 ①男性 19名 ②女性 5名  
 2. 年代 ①10代 1名 ②20代 9名 ③30代 6名 ④40代以上 8名  
 3. 所属 ①大学 8名 ②自治体関係 6名 ③茶商 5名 ④農業関係 3名 ⑤金融機関 2名

【フューチャーセンターについて】

4. 参加回数 ①1回目 24名 ②2回目、③3回目、④4回目、⑤5回目以上 0名  
 5. 参加したことによる影響（複数回答）  
 ①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 21名  
 ②さまざまな知識や経験を持つ人と知り合えることができた 7名  
 ③大学又は行政が身近な存在に感じられた 6名  
 ④その他 1名（将来、これからやりたいことをより具現化できた）  
 6. テーマについて、充分対話に参加（自分の意見を言うことが）できましたか。  
 ①できた 21名 ②どちらでもない 2名 ③できなかった 1名  
 7. テーマについて、グループのメンバーの考えを聞くことができましたか。  
 ①できた 24名 ②どちらでもない 0名 ③できなかった 0名

【テーマに関連して】

8. 日常生活において、お茶はどれくらいの頻度で飲んでいきますか。  
 ①毎日 21名 ②週に2~3回 0名 ③たまに飲む（月に数回） 3名 ④ほとんど飲まない 0名  
 9. お茶を飲む場合、どのようにして飲んでいることが最も多いですか。  
 種類：①紅茶 3名 ②日本茶 24名 ③中国茶 1名 ④その他 0名  
 飲み方：①茶葉から淹れる 16名 ②市販のティーパックで淹れる 2名  
 ③ペットボトルで飲む 11名 ④粉末 1名 ⑤その他 1名（水出し）

【その他】

10. 今後ぎふFCに参加したいですか。  
 ①参加したい 8名 ②テーマに興味があれば参加したい 15名  
 ③参加したくない 0名 ④その他 0名  
 11. ①学びになったこと、②今後、活動してみようと思うこと、③感想などをご記入ください。

地域課題の解決には多くの分野の人の意見があると滑らかに議論が進むんだと感じた。
若い方の日本茶への認識を知ることができた。SNSでの発信が本当に大切になってくる時代、もっと上手に活用していかなければならないと感じました。ありがとうございました。
茶摘みでギネスに挑戦!!を成功させる
ありがとうございました。
今日のお茶淹れ体験で一番リラックスできるお茶の飲み方を体験できました。急須を使ったお茶淹れのメリットはなかなか知りませんでしたが、今回の体験でやっとわかるようになりました。そして白川茶も知るようになりました。これから急須でお茶淹れしたいと思っています。
面白いアイデアと色んな意見にふれることができておもしろかったです。
①お茶づくり、飲み方を知ることができた。色んな視点からアピールを考えれた。②「#白川茶」の案。③1つのプロジェクトを決めるために様々な人の意見を聞いて、そんな視点もあるんだ!という発信があって面白かった。
①新しい意見②ギネスに挑戦
①自分の意見を言うことが難しい（伝えること）②①をうまく行えるように③ここでしか大人の方と話す機会はなかったのよ良かった
①様々な分野の方々の意見から、実際にやってみようということでこれから先につながると感じた。②今後、今回の話し合いによってでた意見を実行に移すので精力的に活動にかかわっていきたいと思う。
勉強になりました。お互い協力しあい、良い発展になればと考えています。ありがとうございました。
若い学生の方々の意見が聞いて大変よかったです。ありがとうございます。
観光・まちづくり・お茶について、より専門的な研究をしようと思いました。
8月に白川支店に転勤してきました。これから白川を覚えてお役に立てるようがんばります。
学生さんと触れ合うことで学ぶことは多く、若い方と一緒に物事を進めて行けるようになりたい。
様々な立場の方のお話がうかがえて良い経験になりました。

※「②今後、活動してみようと思うこと」に○を付けた回答もあった。



# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.09.27 2017年12月1日発行号

VOL.33

### 若い世代の 白川茶ファンを増やそう

9月27日(水)に、白川町等の協力を得て第5回ぎふフューチャーセンターを開催しました。午前中に白川園本舗・七宗御殿でお茶淹れを体験した後、白川町役場に場所を移して「白川茶のファンを増やすために何が出来るか」をテーマに、自治体職員6人、茶商5人、農業関係3人、金融機関2人、大学生8人で5グループに分かれて話し合いを行いました。

かつて生活必需品だったお茶が今は嗜好品として選択肢の一つに変化していること、茶葉からお茶を淹れて飲む習慣が少なくなっていること、白川の土地柄で茶葉の量産が難しいこと等、白川茶の現状と課題を踏まえて具体的なアイデアを出し合い、それぞれのグループでまとめて発表。今後の実現に向けて話し合いました。



各グループからの  
意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- 1から茶づくり ● 茶摘みでギネスに挑戦!!
- 白川茶を知るツーリズム
- 「#白川茶」でアピール ● 茶器にも工夫を

#### 今後の展開

今回出たアイデアのうち「ギネスに挑戦!!」案について、来年の新茶での実現を目指して、学生チームと地元チームが実際に活動をしていきます。



美濃白川茶商會 会長  
安江 真治 さん

#### ぜひ白川茶を飲んでほしい

学生さんにまとめて頂いて、集中して深く話し合えたと思います。昔から味と香りの白川茶でPRして、生産者が大切に育てて頂いた葉っぱを我々が製品にしてお届けしていますから、多くの方に飲んでいただけるようになると嬉しいです。



岐阜大学  
工学部4年  
奥村 健太 さん

#### きっかけを作っていく

僕の家では、僕が白川茶に関わったことをきっかけにお茶を飲む習慣が少し復活しました。フューチャーセンターは初参加ですが、銀行や農家など色々な立場の人と話ができ、アイデアも実行することになったのすごいと思いました。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点





第6回 ぎふフューチャーセンター

若者よ、投票に行こうⅢ

平成29年10月2日（月）

会場：みんなの森 ぎふメディアコスモス

主催：岐阜大学・岐阜市選挙管理委員会・岐阜市



「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 6 回 ぎふフューチャーセンター	
主 催	岐阜大学（地域協学センター）、岐阜市選挙管理委員会事務局、岐阜市
会 場	みんなの森 ぎふメディアコスモス（1F かんがえるスタジオ）
日 程	平成 29 年 10 月 2 日（月）14:00～16:10
背 景	平成 27 年 6 月に改正された公職選挙法により選挙権年齢が引き下げられ、満 18 歳以上満 20 歳未満の者も選挙権行使が可能となった。 昨今、選挙の投票率については全国的に低下しており、岐阜市においても例外ではない。その中でも年齢が若いほど関心度や投票率が低い傾向にある。日本の若者は国際的に比較して「自分の行為が政治に影響を与えられる」認識が低いという問題がある。
目 的	これまで開催した「若者よ、投票に行こう」の FC の結果を踏まえ、社会全体で主権者意識を高める方法を大学生と市民等が議論することで、選挙啓発や教育の方法等、若者が投票するようになるためのアイデアや方法を考える。
テーマ	『若者よ、投票に行こうⅢ』
サブテーマ	①なぜ 18 歳から 19 歳にかけて投票率が下がるか？ ②19 歳を社会（政治）へ巻き込むために、学校（小中高大）、地域社会に何ができるのか？
参加者の構成と人数	参加者合計 24 名（4、5 人×5 グループ） ・学 生 9 名（岐阜大学 8 名、愛知教育大学大学院 1 名） ・岐阜市職員 11 名 ・市民 4 名
対話の方法	K J 法
ファシリテーター	田中 伸 教育学部准教授
当日のスケジュール	14：00～ 開始（10 分） 概要説明 過去の FC「若者よ、投票に行こう」の様子を紹介 14：10～ 情報共有（5 分） 岐阜市選挙管理委員会（過去の投票率データ（全国、岐阜市）等の紹介） 14：15～ 話題提供（25 分） 田中准教授：「投票は目的？手段？」を紹介 小栗優貴若者選挙ネットワーク副代表「若者の政治意識を高める取り組み」 14：40～ セッション①（20 分） 「なぜ、18 歳から 19 歳にかけて、投票率が下がるのか？」 15：00～ 発表（10 分） セッション①についてグループ毎に発表 15：10～ セッション②（25 分） 「19 歳を社会（政治）へ巻き込むために、学校（小中高大）、地域社会に何ができるのか？」 15：35～ まとめ（5 分） 発表できるようグループ毎にまとめ 15：40～ 発表・コメント（25 分） グループ毎に発表（5 グループ×2 分） 16：05～ 振り返り・アンケート・閉会（5 分）
出された意見	サブテーマ①を題材として意見を出した（セッション①）後、それを克服するための方策としてサブテーマ②を題材に意見を出し合った（セッション②）。 【1 グループ】 セッション① ・自分の投票行動の意義が見えづらい ・投票率を上げているのは、高校在学中の 18 歳の投票行動ではないか ・選挙前にはたくさんあった候補者についての情報が、選挙後には減ってしまうため セッション② ・ネット投票を導入する

- ・日ごろの活動について、演説ではなく、ブログ等を活用してもっと情報発信してほしい（議員に対しての意見）
- ・個人が、前回投票した候補者や政党の記録を何かの形で見えるようにできないか
- ・公約の達成度合いが分かるようになれば、投票のひとつの判断材料になるのでは
- ・国会での立法作業に、国民投票で賛否を投じるようにするなど、国民が投票するくせをつけさせるのと同時に、絶えず情報に触れさせることが必要

## 【2グループ】

### セッション①

- ・自分が投じた1票の価値が感じられない
- ・高校を卒業し、大学、専門学校へ進学することにより、集団への帰属意識が薄れるのではないか（周囲のみんなが選挙に行かないからという理由で、選挙に行かなくなるのでは？）
- ・大学や専門学校では、選挙啓発が少なくなるから（高校までは、出前授業がたくさんあったが、進学後はそれが減るため）
- ・大学等の進学にあたって、住民票を変更せずに住所が変わるため、また、期日前投票にも行かないから
- ・大学生は、予定が埋まっているため、投票に行く時間も予定が入っている
- ・誰に投票してよいか、判断できるほどの知識がない

### セッション②

- ・ネット投票の導入、投票日ではなく投票週間の導入等の投票手段の改革や地域での投票への呼びかけ
- ・1票の価値について話し合う機会をつくるなど、投票に対する意識を変える授業を設ける
- ・学校時代の生徒会の選挙制度を見直す（学校の先生が推薦する生徒が立候補する生徒会の状況や先生の許可があることしか生徒会の活動としてできないという状況を改める）

## 【3グループ】

### セッション①

- ・高校から大学進学するという環境の変化により、選挙よりも遊びやアルバイトを優先するため
- ・大学進学等で下宿することで、生活環境が変わるから
- ・19歳になると、18歳選挙権の特別感が薄れるため
- ・政治に対するネガティブな意識があり、投票に意義が見いだせない（自分の投票行動により社会を変えられないと思っている）
- ・18歳までは、学校で情報を得ることができたが、その後は進学、社会に出るなどの理由により、自分で情報を取得しないといけなくなるし、情報の集め方も分からないため

### セッション②

- ・投票所へ行くという抵抗感をなくすため、ネット投票を導入
- ・選挙合コンを開催し、政治に対する関心を深めたり、関心を持つ人との出会いの場をつくる
- ・政治に対するネガティブな情報が多い（特にマスコミ）ので、ポジティブな情報が流れるようにしたり、議員活動の広報を義務化する
- ・選挙に対する意識の高い層や低い層とは異なる中間層が、関心を高めるような工夫をする（選挙広報等をカラー刷りにするなど見やすくする工夫を施す）

## 【4グループ】

### セッション①

- ・18歳、19歳の未成年者自身が選挙に関心がない
- ・18歳は就職や進学をしたばかりだが、19歳になると仕事や予定も18歳当時と比べ増えるため
- ・政治で扱っている内容が身近な事柄ではないため、ある程度の年齢に達しないとそれを理解することができないから（自分自身の投票行動が、自分自身の事柄に反映されるのが50歳くらいにならないと起きないから）投票行動に結びつかない

### セッション②

- ・選挙が身近でないということを解決するため、自分たちが社会に参加していくことが大切であり、よい結果をもたらすということを子どもたちに伝

	<p>える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参加や社会的課題を解決するために個人の意見が大切であるということを感じさせることが重要(自分たちのした行動の効果が見えるようにする)</li> </ul> <p>【5グループ】</p> <p>セッション①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳という話題性や特別感があって投票に行くが、19歳になるとそれが薄れるから</li> <li>・大学進学でニュースを見なくなったり、高校までは学校の先生に選挙に行くように言われていたが進学後はそれがなくなるなどの環境の変化があるから</li> <li>・選挙に関心がない、社会に不満がないから</li> </ul> <p>セッション②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての年齢層に対して、投票に行くポイントが貯まるポイント制度を導入し、すべての年齢層の投票率をあげる</li> <li>・大学での選挙に関する教育を充実させたり、当選した議員が何を実現させたかということを知ることが出来る機会を設ける</li> <li>・マイナンバーを利用した投票制度やネット投票を導入するなど、投票手続きを簡素化する</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙管理委員会が行う主権者教育などをはじめとした選挙啓発事業の場面で、今回の対話で出てきた意見を参考とする。</li> <li>・衆議院議員総選挙における学生による選挙啓発（岐阜大学期日前投票所、J R岐阜駅北口、アピタ各務原店の各所での選挙案内配布とF C岐阜ホーム戦での選挙P R）のきっかけにつながった。</li> </ul>
自治体等との調整過程	<p>4月14日 選挙管理委員会担当者と打合せ</p> <p>5月29日 ファシリテーターと打合せ</p> <p>8月3日 選挙管理委員会担当者と打合せ</p> <p>9月8日 ファシリテーターと打合せ</p> <p>9月26日 選挙管理委員会担当者と打合せ</p> <p>10月2日 フューチャーセンター開催</p>
報道等	<p>10月3日 中日新聞朝刊、岐阜新聞朝刊、毎日新聞朝刊</p> <p>10月7日 読売新聞朝刊</p>
担当職員感想 (岐阜市選挙管理委員会事務局)	<p>衆議院解散により、このF Cが衆議院議員総選挙直前での開催となった。それにより、F Cの開催自体が選挙への啓発や投票意識の醸成に効果をもたらすことができた。</p>
企画担当者所見	<p>若者の低投票率という即座に解決することが困難な課題に対しては、同じテーマで継続的に開催していくことにもその意義が見出せると考える。一方で、選挙を話題とした対話の場が社会で創出されることで、市民ひとりひとりの主権者意識に対する自覚が促されることが期待される。</p>

(地域コーディネーター(岐阜市派遣) 大野 厚胤)

平成 29 年度 第 6 回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果  
 参加者 24 名 回答者 24 名 回収率 100%  
 (うち岐阜市職 11 名)

1. 性別

①男性 15名 ②女性 9名

2. 年代

①10代 ②20代 14名 ③30代 3名 ④40代 5名 ⑤50代 1名 ⑥60代 1名 ⑦70代以上

3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 14名 ②2回目 7名 ③3回目 ④4回目 1名 ⑤5回目以上 1名

4. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 20名  
 ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた 10名  
 ③大学又は行政が身近な存在に感じられた 3名  
 ④その他

5. 政治に関心がありますか？

①とても関心がある 6名 ④まったく関心がない 0名  
 ②少し関心がある 12名 ⑤その他 0名  
 ③あまり関心がない 6名

6. 今後、選挙(例えば、衆議院議員総選挙)に行こうと思いますか？

①必ず行こうと思う 22名 ④わからない 0名  
 ②興味があれば行こうと思う 1名 ⑤その他 0名  
 ③行こうと思わない 1名

7. (6で③「行こうと思わない」と回答した場合のみ) 今後、選挙に行こうと思わない理由は、  
 何ですか？

①政治に関心がない 1名 ③支持できる政党等や候補者がいない 0名  
 ②政治に不満や不信がある 0名 ④その他 0名

8. 今後、ぎふFCに参加したいですか？

①参加したい 1名 ②テーマに興味があれば参加したい 21名 ③参加したくない 2名 ④その他 0名

9. 2回の研修(座学・実地)を行いました。どのように感じましたか。(岐阜市職員のみ)

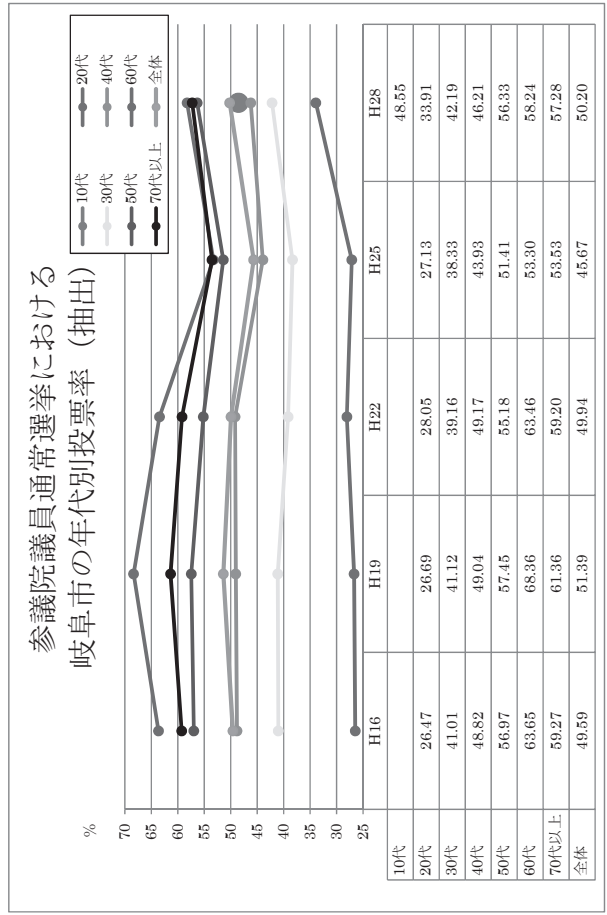
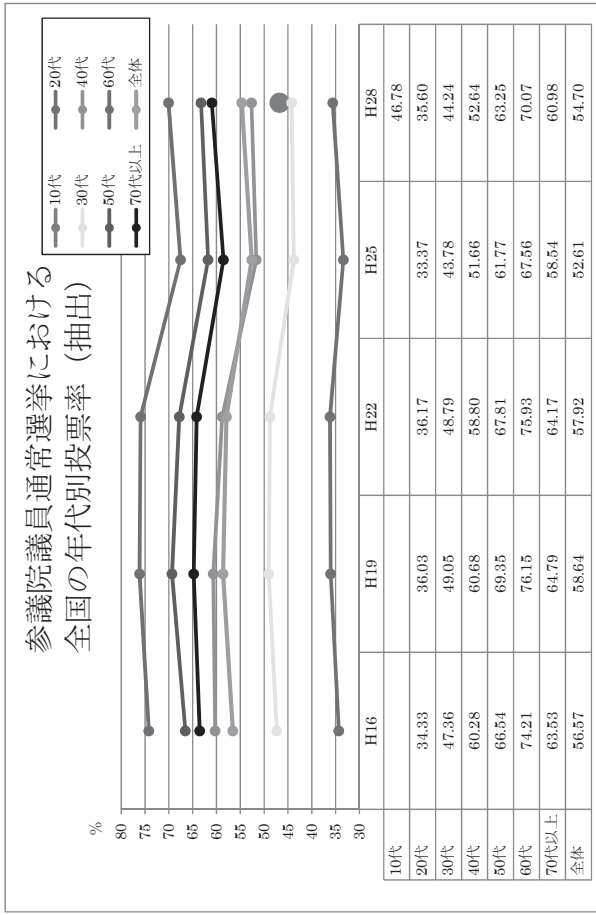
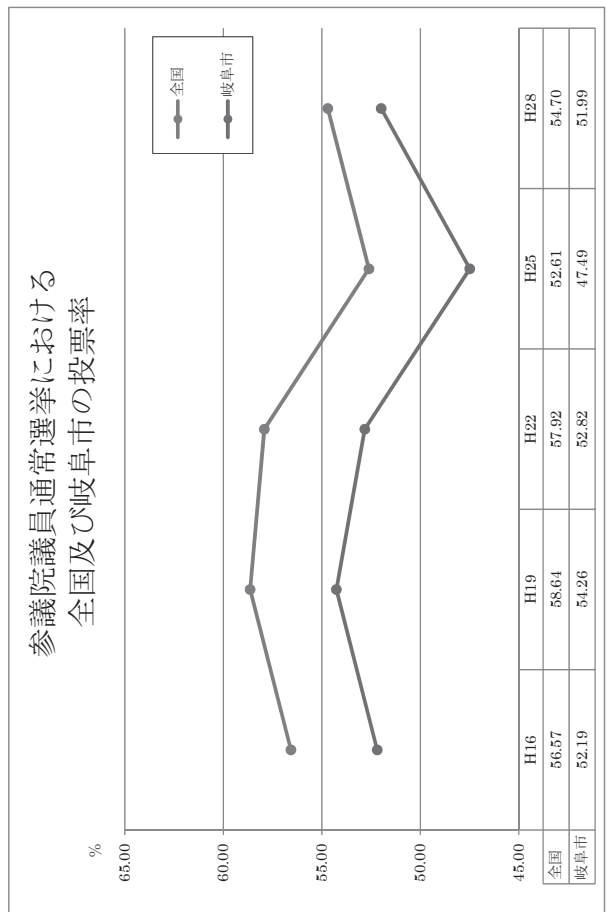
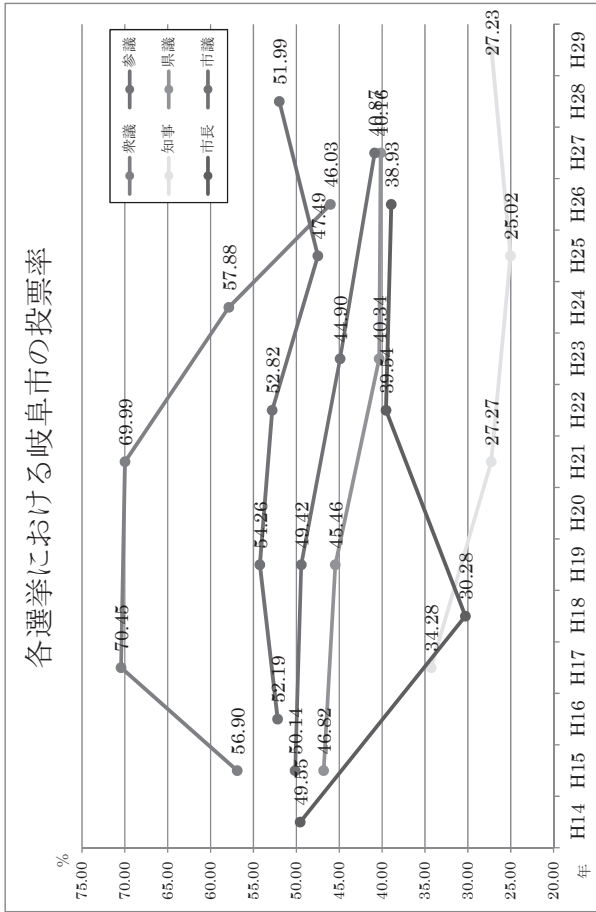
①座学・実地の両方の研修がよい 8名 ③実地研修だけでよい 0名  
 ②座学研修だけでよい 1名 ④わからない 2名

10. FCを事業で活用してみたいと思いますか。(岐阜市職員のみ)

①是非活用したい 0名 ③活用したくない 0名  
 ②機会があれば活用したい 11名 ④わからない 0名

11. 今回のFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう(又は業務に活かそう)と思うこと、③感想  
 などをご記入ください。

・相手のいけんを否定せず、どんどん意見を出す手法は、他のワークショップ等でもいかしていきたいです。 ①大学生と話して、様々な意見を持って、行動していることが分かった。②大学生、一般それぞれ意見を出し合うと自分が考えていなかったアイデアが出たと思った。③意見を出しただけになってしまった。議論する時間がほしいと思った。
・ワークショップ等で活用し、議論が活発になる様にしたい。 ・学生たちのスピーチの姿勢に関心しました。投票という身近なテーマを扱った討論でしたが大変有意義なものでした。
①普段関わる機会の少ない方々と意見を交わすことで自分の見識を広めることができた。②今後の競輪事業の運営に関して、多様な意見を出してもらえれば場がもうけられると思う。③自分1人では出てこないような意見が出てきておもしろかったです。
①自分とは異なる視点からの意見を聞いて、チームとしてまとめる過程は今後の行政業務に活かせると感じた。②他者の意見をうまく受け入れること。③身近でありながら、なかなか解決出来ないテーマで時間が足りなく感じられるほどだった。今後の業務に活かせるものが得られたと思う。 「選挙の投票率を上げる」というお題で考えた時、自分には思いつかない考えを話し合いの中でたくさん聞くことができ、とても勉強になりました。将来教師になるので、これから教えていく子どもたちの将来を考えた社会科教育をしていきたいと思いました。
①もう一度、選挙啓発に関する問題点を明らかにすることができた。②自身が行っている活動に教育面から新たな視点が見られた。アプローチを今後考えていきたい。③トイレ休憩が5分もあればうれしかった。
①年代や所属が違う方達と話したことで、自分では思いつかないようなアイデアを知ることができました。また、大人(社会人)が自分たちの意見をしっかりと聞いてくれるという貴重な機会を頂けたことがとても良い経験になったと思います。②将来教員になる予定なので、主権者教育をぜひ現場で実践していきたい。③もう少し、最後に全体で意見を話せる機会があるととても学びを深められると思いました。グループワークは楽しかったです。
①たまたま集まった人たちで、問題点も改善方法のアイデアがたくさん出るのにも関わらず、低投票率が続いている。結局は投票自体も啓発も個人の意識を高めなければならない。②議員に直接、対面してみたい。③時間も最小限で適切であった。投票率向上の活動をしている方の話を聞いてみたい。
①②一人では思いつかない事が多く出て興味深かった。学校で変えていきたい事が多くあったので、もし教員になったら活かしていきたい。③学生だけでなく、いつもとは異なる議論が飛び面白かった。ファシリテーターをする機会も減多にないのでもいい機会だった。
①教育学部であるため、学校から外へ出たことがないです。なので、社会人である地域の方々と一緒に議論を行うことで、自分では見えてこない考えや見方ができるので、貴重な体験となりました。②地域の方々協力して、授業を作っていく大切さを改めて感じました。地域の方にしかわからないことがあって、その点を授業へ反映させたいと思います。③多くの人と関わり一緒に活動する大切さがわかりました。
①18歳、19歳といった若い世代から、「社会をよくしたい」という願いをもって投票したり、社会に対して自分が行った行動が、社会にどう反映されるか考え、投票する先を考えたりできるような教育が必要だとわかりました。②授業で、社会に参画する活動をとり入れていきたいです。
①18歳の投票率より19歳の投票率が低いことは知らなかった。選挙を目的にはいけないと学んだ。②投票の前にはネットや新聞で情報収集を前回よりした。また、投票後の議員の活動についても調べたい。③投票を目的にしている部分があったので、もっと政治に関心をもって大人としていろいろ知らなければと思った。
①主権者意識の改革として、学校の中での選挙を改革しようとする考えはなかったので、早期からの改革ということでもとても学びが深まった。②次回の選挙にも積極的に参加したり、啓発活動にも積極的に参加したいと思った。③学生だけでなく行政の方と話す中で、同じ大人でも年代が異なることで考え方も異なるので、非常に有意義だったと思う。幅広い年代がいることで、年代ごとでふせんの色を変えることで、考え方の違いも明確になると思うので、そういった取り組みも面白いと思った。
③社会参加については選挙だけでなく、多くの機会があるが、国民の権利や義務として関わっていく必要がある。皆が共に作る社会でありたいし、そう願っている。
さまざまな立場の方が参加する中で、有意義な時間になった。さまざまな見方を知ることができ、自分にはない考えを得ることができた。今後も選挙・政治に関心をもつとともに自分から積極的に参加する姿勢をもち続けたい。





## 若者よ、投票に行こうⅢ

### —投票は目的？手段？—



岐阜大学教育学部  
 田中 伸 (TANAKA, Noboru)  
 nobol@gifu-u.ac.jp

## 過去2回のテーマ

- 1回目 **なぜ、若者は選挙へ行かない？(分析)**
- ①「日本の若者はなぜ選挙へ行かないのか」
  - ②「若者が選挙へ参加するにはどうしたらよいか」
- 2回目 **主権者？私たちに出来ること(提案)**
- ①「主権者をどう育成するのか？」
  - ②「18歳選挙権へ向けて、自分たちに何ができるのか？」



## 10代の投票率は・・・

### —10代が考える政治とは？—

選挙区	18歳	19歳	20歳	20代
三重	58.2%	51.1%	54.8%	45.3%
高知	49.3%	37.5%	35.2%	26.6%
東京	62.2%	53.8%	46.9%	39.1%
滋賀	54.2%	47.0%	51.2%	39.7%
2016参院選全国投票率	54.5%	45.7%	51.2%	33.4%



1回目(6月14日)公示前

- 今の政治にどの程度関心がありますか？
- 選挙権年齢が18歳以上に引き上げられたことは知っているか？よかったか？
- 候補者を知っているか？
- 政治や社会の動きについて、どこから情報を得ているか？
- 投票へ行くか？行かないか？なぜ？

2回目(6月27日)公示後

- 今の政治にどの程度関心がありますか？
- 7月10日投開票の参議院選挙で、候補者や生徒の情報を何で得ていますか？
- 投票に行きますか？
- 投票先を選ぶ際に重視したことを教えてください
- 有権者として、わからないことや不安に思うこと

3回目(7月4-5日)選挙前

- 候補者の何を重視して投票しますか？
- 政治や社会問題についてあなたが知っていることは？
- 選挙期間中に、インターネットを使って行っていることは？

4回目(7月13-15日)選挙後

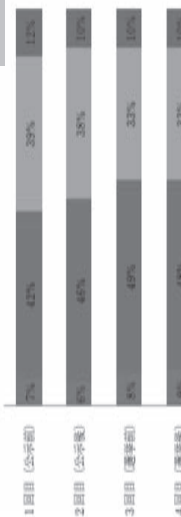
- 学校での学びは選挙へ生きましたか？
- 岐阜選挙区の開票結果をどう感じましたか？
- 政治や社会問題について友人と話すことはありますか？
- 若い世代の投票率を上げるために必要なことは？
- 今回の選挙を通じて政治や社会問題で考えたことはありますか？

統計調査:  
 若者は何を考えている？  
 with 朝日新聞  
 一岐阜県内S高校、K高校  
 @公示前・公示後・選挙前・選挙後



## 政治への関心 推移

■大いにある ■ある程度ある ■あまりない ■まったくない

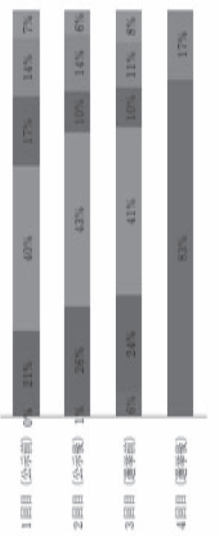


## 参院選岐阜県投票率

18歳：54.5%  
19歳：45.7%

## 「投票に行くか」推移

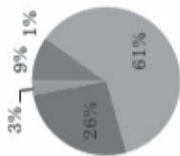
■行った ■必ず行く ■できれば行く ■迷い ■たぶん行かない ■行かない



・政治的関心は微増  
(49%→57%)  
・最終的には83%が投票へ！  
(最初から61%が関心有り)

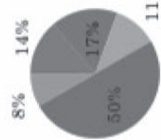
## 9. 投票に行く理由 (100人対象)

- 政治を変えたい
- 権利だから
- その他
- 投票したい先がある
- 興味がある



## 10. 投票に行かない理由 (38人対象)

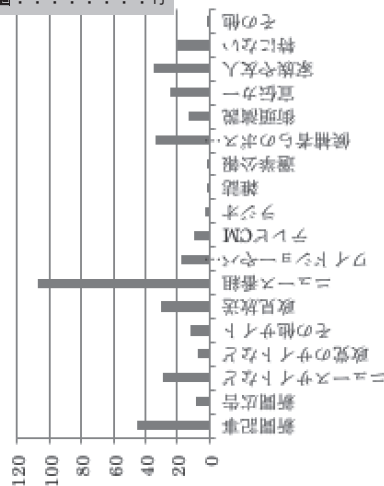
- 政治は変わらない
- 自分にメリットがない
- その他
- 投票したい先がない
- 興味がない



・投票へ行く理由(権利):61%  
・投票へ行かない理由  
(メリット・興味無し:61%、社会は変わらない:14%)

## 2回目

### 2. 候補者や政党の情報を何で得ているか (複数回答可)



■ 2. 候補者や政党の情報を何で得ているか

■ 1. 候補者や政党の情報を何で得ているか

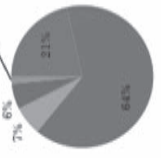
ネット世代にもかかわらず、ニュース番組や新聞記事など、流れてくる(示される)情報が多い。

## 2回目

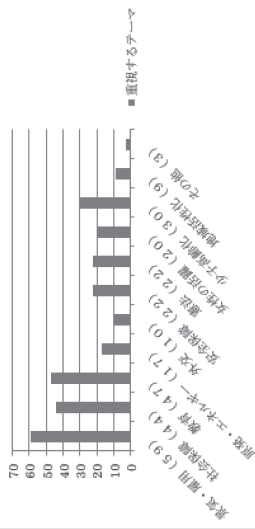
## 3回目

### 3. 投票先を決めるときに重視したor したいこと (128人対象)

- 人脈やイメージ (26人)
- 政党や団体 (8人)
- その他 (2人)
- 政策、公約 (78人)
- 他人の意見や評価 (7人)



### 4. 重視するテーマ (128人対象)

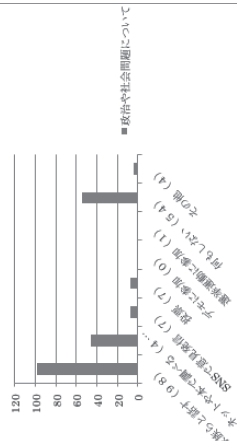


・岐阜選挙区(候補者)の政策を分析してはいない

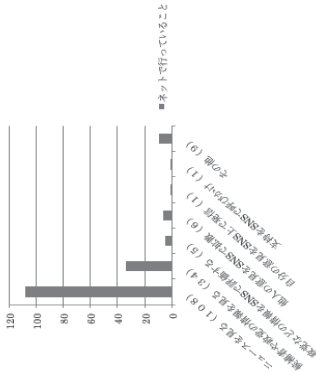
## その他項目

### 3回目

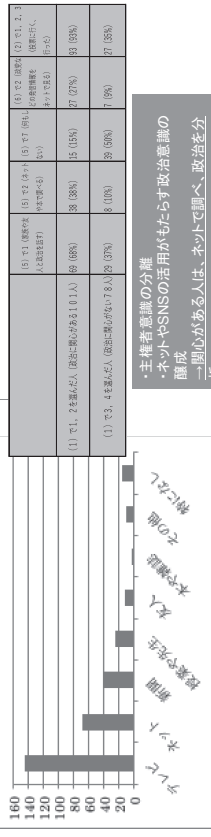
5. 政治や社会問題について行っていること



6. ネットで行っていること



7. ニュースの情報源



・主権者意識の分離  
 ・ネットやSNSの活用がもたらす政治意識の醸成  
 → 関心があがる人は、ネットでも調べ、政治を分析

## 今回の選挙を通じて考えたことは？

### 4回目

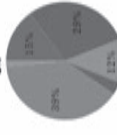
3. 学校の学びが生きたか

■大いに生きた (28人) ■ある程度生きた (19人)  
 ■あまり生きたなかった (18人) ■生きたなかった (1人)



4. 選挙の結果をどう感じるか

■よかった (26人) ■ある程度よかった (51人)  
 ■あまりよくなかった (21人) ■まったくよくなかった (6人)  
 ■分からない・答えない (8人) ■その他 (3人)



- ・もっと新聞を読んで各政党の政策について勉強考えていかなければならぬと思った。
- ・当選してから個人的な問題を起こしたり、他の人に大きな迷惑をかけるような人に投票すべきだと思った
- ・なんかおもしろいんじゃないか
- ・アベノミクスってなんですか。今、世界で起きているテロに対する対策はなんですか。
- ・投票所に高校生がたふさぐんいた。
- ・「分からないから、どこに入れても同じだから」と言ってる若者たちに投票に行くようにしてほしい。ニュース見てると腹立つ。
- ・一人の一票も出さずことが大事だと改めて感じた。
- ・若者の投票率が低いと言われる中で自分たちの票がどこまで届くのか不安に思う。

## 理念と実態のギャップ

民主制  
 (制度としての民主主義)

現実社会の文脈  
 熟議

民主政

(振る舞いとしての民主政治)

## 本日のテーマと流れ

1:「なぜ、18歳から19歳にかけて、投票率が下がるのか？」

2:「19歳を社会(政治)へ巻き込むために、学校(小中高大)、地域社会に何ができるのか？」

共有・議論

ハード面だけではなく、ソフト面も！

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.10.02



### 若者よ、投票に行こうⅢ

10月2日(月)に岐阜市選挙管理委員会との共同開催により、みんなの森 ぎふメディアコスモス(岐阜市)で、岐阜大学生をはじめ、一般市民、岐阜市職員の皆さん等24人が参加し、「若者よ、投票に行こうⅢ」をテーマに第6回ぎふフューチャーセンターを開催しました。

まず、参加者は岐阜市選挙管理委員会事務局の担当者からこれまでの投票率データ(全国、岐阜市)についての説明と岐阜大学教育学部田中伸准教授からの年代別の投票動向の事例についての話を聞き、情報を共有しました。

18歳と19歳では19歳の投票率がどの選挙においても低下していることに着目して議論を行った後、「19歳を社会(政治)へ巻き込むために、学校(小中高大)、地域社会で何ができるのか?」について意見交換を行いました。

グループワークでは、「社会参加や社会的課題を解決するために個人の意見が大切であるということを感じさせることが重要」といった提言がありました。



各グループからの  
意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- 政治家には、ブログ等を活用してもっと情報発信してほしい
- 学校の生徒会選挙を見直して、選挙の意義を見出させては
- 選挙公報をカラー刷りにするなどもっと見やすく
- マイナンバーを利用した投票制度やネット投票の導入

#### 今後の展開

今回の対話で出てきた意見は、選挙管理委員会が行う選挙啓発事業等の取り組みの参考とされます。

#### 企画担当者所見

選挙を話題とした対話の場が社会で創出されることで、市民ひとりひとりの主権者意識に対する自覚が促されることが期待できると思われる。



岐阜市職員  
寺本 直道 さん

社会とつながっているということを伝えたいボランティアのような形で、地域の子ども達を相手に卓球のコーチをしているので、そこで関わる子ども達に、みんな社会とつながっているということを伝えることで、選挙の大切さを理解してもらいたいと思います。



岐阜大学  
教育学部4年  
河合 香穂里 さん

若者が選挙に行かない原因は、私たちの身近なところに同じグループの社会人の方が、話を丁寧に聞いてくれたので、話しやすい雰囲気でした。若者が選挙に行かない原因は、身近にあると思いますが、それを乗り越えて、関心を向けさせるのは難しいと改めて感じました。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3167  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第7回 ぎふフューチャーセンター

まちづくり活動実践講座  
「市民から地域活動を提案する」

平成29年10月18日（水）、11月9日（木）

11月22日（水）、12月7日（木）

会場：高山市役所

主催：岐阜大学・高山市・飛騨高山大学連携センター



「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 7 回 ぎふフューチャーセンター	
企画名	まちづくり活動実践講座「市民から地域活動を提案する」
主催	高山市、岐阜大学、飛騨高山大学連携センター
会場	高山市役所
日程	【第 1 回】平成 29 年 10 月 18 日（水）19:00～21:00 【第 2 回】平成 29 年 11 月 9 日（木）19:00～21:00 【第 3 回】平成 29 年 11 月 22 日（水）19:00～21:00 【第 4 回】平成 29 年 12 月 7 日（木）19:00～21:00
背景と目的	<p>高山市では平成 27 年度から市民協働のまちづくりを推進し、市全域を 20 の地域に分けた「まちづくり協議会」が発足し、まちづくり活動が実践されている。このことから地域組織の活動範囲が拡大したことにより、地域の課題も多様化し、今後の活動を効果的に運営するために若者を取り込んでの課題解決に取り組むことが求められている。</p> <p>そのため、高山市では、平成 28 年度に地域の若者を対象に「まちづくり実践講座 地域の未来を語る会（※COC 事業の一環）」を実施し、その結果から若者は地域に興味を示し、地域活動についても様々なアイデアを持ち、関わる場があれば参加したいといった意見が多く、若者の意欲的な姿勢が感じられた。</p> <p>本講座では、昨年度の講座の取組みに引き続き、若者が地域で実施したい活動を企画し、まちづくり協議会に提案する場をつくり地域活動への参画を後押しする。まちづくりに参画できる人材の育成を目的とし、事業の企画方法を学び、様々な人や地域についての意見交換を行うことでネットワークづくり及び、意見を集約して効果的な事業の組み立てを身に付ける。</p>
テーマ	市民から地域活動を提案する
サブテーマ	【第 1 回】 やってみたい、やりたい地域活動を話し合う 【第 2 回】 実現するための課題さがし 【第 3 回】 事業の企画案を作成 【第 4 回】 企画案の発表・提案
参加者構成	参加者：29 人（平成 28 年度実績：参加者 12 人、新規参加者 17 人） ※参加者を 4 つのグループに振り分け 1 グループ名：「やみなべ」（8 人）※地区混合 2 グループ名：「スポーツバンド」（7 人）※地区混合 3 グループ名：「アクティブプロジェクト」（9 人）※一之宮同一地区 4 グループ名：「チーム☆こくふ」（5 人）※国府同一地区
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	岐阜大学地域協学センター 准教授 大宮 康一 氏 岐阜大学地域協学センター 助教 塚本 明日香 氏
当日のスケジュール	<p>【第 1 回】</p> <p>19:00～ 開会・あいさつ 19:05～ COC セミナー『The 学』「大学生は、こんなことをやっている」 講師：岐阜大学地域協学センター 准教授 大宮 康一 氏 19:35～ フューチャーセンター ・概要・趣旨説明・グループリーダー決定（15 分） ・グループワーク・まとめ（60 分） 「各グループでやってみたい地域活動について話し合う」 ・発表 各グループ 2 分程度（10 分） ～21:00 閉会</p> <p>【第 2 回】</p> <p>19:00～ フューチャーセンター ・概要・趣旨説明・振り返り（15 分） ・宿題「地域で実践したい活動（目的・課題等）」の共有（10 分） ・グループワーク・まとめ（85 分） 「（企画を）実現するための課題さがし」 ・発表 各グループ 2 分程度（10 分） ～21:00 閉会</p> <p>【第 3 回】</p> <p>19:00～ フューチャーセンター</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概要・趣旨説明・振り返り (15分)</li> <li>・グループワーク (100分)</li> <li>「事業の企画案を作成」 <ul style="list-style-type: none"> <li>i) 様式に沿って企画案の作成</li> <li>ii) 企画案の発表・提案に向けた資料作成</li> </ul> </li> <li>・発表会に向けての説明 (5分)</li> </ul> <p>～21:00 閉会</p> <p>【第4回】</p> <p>19:00～ フューチャーセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要・趣旨説明・各グループ事前打ち合わせ</li> </ul> <p>19:30～ 企画案発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会・あいさつ・事業説明 (15分)</li> <li>・4グループからまちづくり協議会へ企画案の発表</li> <li>※発表…各グループ説明10分、質疑5分</li> </ul> <p>19:50～ 講師講評</p> <p>～21:00 アンケート・閉会</p>
FC 後の展開	<p>講座最終日に開催された発表会に参加できなかったまちづくり協議会の役員に対し、役員会の場で企画したものを発表し、意見交換が実施された。企画案については、今後まちづくり協議会の事業計画に盛り込んでいくかを検討されることとなった。参加者が本講座で学んだ手法を活用し、今後のまちづくりへ積極的に参画することが期待できる。</p>
【第1回】 出された意見	<p>「やってみたい、やりたい地域活動を話し合う」</p> <p>内 容：それぞれの参加者が感じている地域の課題とやってみたい地域活動について意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆グループ名：やみなべ</li> <li>＜地域の課題＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子体験のイベントを行っても母親ばかりが参加して、父親の参加が少ない。</li> <li>・それぞれのまちづくり協議会で行っているイベントをあげたところ、子ども関係や防災・安全にかかわるものが多かった。</li> </ul> </li> <li>＜やりたい事＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと高齢者が触れあう事、インスタの利用。</li> <li>・過疎化をとめるために、若い世代に地域を知ってもらえる事。</li> </ul> </li> <li>◆グループ名：スポーツバンド</li> <li>＜地域の課題＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの地域もイベントに飢えており、いろいろやりたいことがある。</li> </ul> </li> <li>＜やりたい事＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの地域から様々なやりたいことが出た。</li> <li>・子ども中心のイベントを行う。子どもの親や大人を集客できる。</li> </ul> </li> <li>◆グループ名：アクティブプロジェクト</li> <li>＜地域の課題＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を盛り上げるためにみんなが参加できるイベントを開催しても若い人が参加してくれない。</li> </ul> </li> <li>＜やりたい事＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が参加するイベント。</li> <li>・クラフト、農業（収穫）、街を知ってもらうためのスタンプラリー。</li> </ul> </li> <li>＜実践のための取組＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・一之宮町まちづくり協議会では若い人の意見を吸い上げるために30～40代で構成された“アクティブプロジェクト”を立ち上げた。</li> </ul> </li> <li>◆グループ名：チーム☆こくふ</li> <li>＜地域の課題＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントを開催しても中高生がなかなか参加してくれない。</li> </ul> </li> <li>＜やりたい事＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生をターゲットにしたもの。地域になくなった映画館やデートスポットになるもの。</li> <li>・地域の魅力を発見、再認識して広めたい。</li> <li>・中高生をターゲットにし、最終的に地元に戻ってきてもらえる事。</li> </ul> </li> </ul>

<p>【第2回】 出された意見</p>	<p>「実現するための課題さがし」 内 容：地域で実践したい活動（目的等）について各グループで意見を集約し、企画案の組み立てと実現するための課題や解決方法について話し合いを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆グループ名：やみなべ        &lt;やりたい事業&gt;防災サバイバル体験        &lt;実施の目的&gt;        ・有事に慌てないように、堅苦しくなく、楽しんで避難所で過ごす知識を学ぶ。        ・地域住民同士がお互いを知る（顔見知りになる）        &lt;理由・課題&gt;父親の地域活動への参加が少ない。        &lt;課題対策方法&gt;地域の方のノウハウをいかす。</li> <li>◆グループ名：スポーツバンド        &lt;やりたい事業&gt;達人教室        &lt;実施の目的&gt;地域の良さや魅力を子ども達に知ってもらおう。        &lt;理由・課題&gt;地域の後継者として子どもに地元に残ってほしい。        &lt;課題対策方法&gt;子供たちが自ら経験、体験することで、その達成感を味わい地元を好きになってもらう。</li> <li>◆グループ名：アクティブプロジェクト        &lt;やりたい事業&gt;イベント（クラフト、農業収穫、街を知ってもらうためのスタンプラリー）        &lt;実施の目的&gt;一之宮地区を盛り上げる        &lt;理由・課題&gt;        ・まちづくりに関心を持っていない。        ・若い人がイベントに参加してくれない。        &lt;課題対策方法&gt;        ・SNSの利用、ブログの立ち上げ、手伝っていただける方を募集する</li> <li>◆グループ名：チーム☆こくふ        &lt;やりたい事業&gt;ファッションショー        &lt;実施の目的&gt;高校生に楽しんでもらいたい。        &lt;理由・課題&gt;        ・若者対象のイベントが少ない。        ・若者が集まる場がない。        &lt;課題対策方法&gt;        ・女子高校生が参加し楽しむことで、男子高校生も引き込む。        ・周知はSNSの活用や学校でチラシ配布等。</li> </ul>
<p>【第3回】 出された意見</p>	<p>「事業の企画案を作成」 内 容：事業を実行するために、今までの意見を整理して効果的に事業展開できるように企画書を作成した（※別紙のとおり）</p>
<p>担当職員感想 （高山市）</p>	<p>本講座をとおして、課題の発掘から事業の組み立て方を学び提案することで、自分たちの思いが一步実現に近づいたことへの喜びや自信を得たと感じている。各まちづくり協議会は若者のアイデアやパワーを望んでおり、この講座を機に若者のまちづくりへの参画が進むことを期待する。</p>
<p>自治体等との調整過程</p>	<p>8月上旬 高山市と講座実施について打合せ 9月下旬 高山市と企画内容について打合せ</p>
<p>報道等</p>	<p>岐阜新聞 朝刊 (H29.10.20) 岐阜新聞 朝刊 (H29.12.12)</p>
<p>企画担当者所見</p>	<p>全4回という形のため、全ては出られない参加者も少なからずいたが、いずれのチームも上手くフォローされていた点は良かった。同一地区のチームは地区でも引き続き協議もされていたようで、実際の活動が活性化される刺激となったようである。</p> <p>一方で、普段発言できない若者の意見を形にしたいという今回の主旨において、同一地区でのチーム構成は日ごろの人間関係がそのまま持ち込まれるため難しさを感じる場面もあった。実際に活動されている方々が「次に何をするか」を考え、企画作成をされ、いくつかは実行される見込みであることから、地域への還元という意味では有意義なフューチャーセンターになったと思われる。</p>

（高山市協働推進課、飛騨高山大学連携センター、地域協学センター大宮・塚本）

1. 全体的に本講座はいかがでしたか。

- ①良かった 12名 ②普通 6名 ③良くなかった 1名

・企画を考えられたし、いろいろ勉強になりました。 ・人前で話す機会がなかったので勉強になりました。  
 ・4回ということで長！って思ったが、内容が勉強になった。 ・どのように企画を立てたら良いかわかった。  
 ・他の地域の方の問題を解決していく考えが聞けて良かった。 ・企画の仕方等わかりやすかった。  
 ・企画書を作成する事により、思っている事が形になりそうになることが学べた。 ・他のまち協の方と交流できた。  
 ・課題を見つける～解決方法を探す～企画する～事業の実施 までの流れがよく理解できた。  
 ・もう少し講義部分があってもよかったです。コンセプトがわからず、参加している方がいたので、そのあたりを明確にするとおおい。

2. 講座に参加して、事業の企画方法等について理解できましたか。

- ①よく理解できた 6名 ②おおそ理解できた 13名  
 ③あまり理解できなかった 0名 ④理解できなかった 0名

・自分が一番苦手とする部分を段階をふんで学ぶことができた。 ・回数を多くして勉強したい。  
 ・まず問題点をさがすところからはいつていったのがよかった。 ・知らないことも多く勉強になった。

3. 今回の講座は全4日間でしたが、4日という講座の長さは適当ですか。

- ①適当 12名 ②もっと長い方がよい 1名(約6日) ③もっと短い方がよい 6名(約1～2日)

・短いながらも組み立てる時間がありました。 ・12月はとても忙しいので、すこし時期を考えてほしい  
 ・同じ人が最初から最後まで参加できるようにした方がいいと思った。 ・4日でなんとなく理解できた。  
 ・何回も時間をつくるのが難しく、4日間合わせるのが大変、なかなか全日程に参加出来なくなる。  
 ・長い方がいいか、短い方がいいかというよりは、1日完結してほしい(2h～8h)

4. 事業を企画する場合、どのようなグループで企画することが適当だと思いますか。【複数回答】

- ①同じ地域の人 10名 ②異なる地域の人 4名 ③同年齢 1名 ④幅位広い年齢層 8名  
 ⑤同性 0名 ⑥異性 2名 ⑦その他 4名

その他の具体的意見  
 ・その事に興味がある方々。 ・志が同じ人が集まるのが一番よい。目標、目的が同じ。  
 ・実際にすすめるなら同じ地域、企画案程度なら異なる地域。 ・支所地域、市内地域とわかる。

5. 今回の講座で企画したことや学んだことを、実際に地域で実践しようと思いませんか。

- ①実践しようと思う 15名 ②実践したいが自信がない 3名 ③実践しようと思わない 0名

・やらないと始まらないから。 ・地域性に合ったやり方、地域に合うようにアレンジして。  
 ・色々なアイデアがあり、やりたい物もあるため。 ・まち協で現在実践している。  
 ・全部できるかどうかは、もっと話をつめないといけないが、近いものができたらと思う。  
 ・今回の企画ではないかもしれないが、思いを企画書で作り提案していきたい。  
 ・まったく同じではなくとも、減災・防災に取り組みたい。

6. あなたは自主的にまちづくり活動に参加していますか。

- ①いつも参加している 7名 ②ときどき参加している 8名 ③参加していない 4名

参加していない理由は何ですか。【複数回答】

- ①時間がない 3名 ②興味がない 2名 ③参加の方法がわからない 0名  
 ④どんな活動をしているか情報がない 2名 ⑤その他 0名

・情報をもっとほしい。

7. あなたが思う地域の課題は何ですか。

・若い人が忙しい。 ・まちづくりへの関心が少ない。 ・町内会に加入していない人が多い。  
 ・過疎、町おこし。 ・年寄り向けのイベントしかない。 ・活動の輪がなかなか広がらない。  
 ・企画しても人が集まらない。役員がいつも同じ。マンネリ化。 ・地区の過疎化、少子化。  
 ・若者から老人が安心して生活できるまちづくり。 ・若者のイベント等への不参加など、若者の楽しめる場の提供。  
 ・若者がやりたいと思うには、やったら+α(メリット)があるという部分が必要と思う。そうすれば、活動して  
 くれる。真の若者が出てくると思う(単純に・・・)  
 ・自分以外の方がどうにかしてくれると思っているので参加もしない。  
 ・まち協など、地区のイベント等にでてくる顔ぶれが同じなので、もっとたくさんの町民がでてきたくなるイベント  
 を企画すること。  
 ・まち協を知ってもらうこと。町内のことを知ってもらうこと。  
 ・課題がうもれている。対応する人が限られている。事業の精査ができていない。同じ人がどこの会にもいたりする。  
 ・まち協の活動が理解されているとは言えない。いろいろな考え・意見をくみ取りきれていないところ。

Q8. 今後あなたが参加したい講座やご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

・今回のような実践講座。 ・先生が素晴らしかった。 ・課題整理の仕方。地域の組織づくり。  
 ・講座に参加する人の身になって講座を企画した方がよいと思う。我々はボランティアとして参加しているので、そ  
 の事を十分に考慮してもらいたい。  
 ・もっとまち協に携わっている方が参加された方がいいと思いました。参加者が少なく、関心のなさを実感しまし  
 ました。  
 ・今回のワークショップは、各地域の体験を持ちより、相乗効果がでたと思うので、このワークショップはとてもプ  
 ラスになった。何回かやることにより、グループメンバーが仲良くワイワイできたのがよかった。  
 ・「まち協と企業」又は「町と仲間」のお互いがWINWINの関係で、何か斬新なアイデアはないものか。やって  
 みて(行事を)メリット・デメリットを知ってみたい。どの地域もよく考えている。  
 ・町でのイベント等の実際やった場合のやり方等、成功例、失敗例など。  
 ・自分の地域外の方たちとの、まちづくりに対する思いを話せる場があるといいと思う。自分の地元は、それがあた  
 りまえになっているので気づきがない。  
 ・各まち協で考えられる共通の課題を話し合い解決することを考えられるようなもの。

1. 今回発表された各企画書はいかがでしたか。

(1) 防災サバイバル体験

- ①既に実施している **2名**    ②実施したい **5名**    ③参考にする **11名**    ④実施しない **0名**

<意見>

- ・9月の防災教室に取り入れてください。
- ・防災の活動はしていますが、興味ある内容であり、参考にさせていただきます。

(2) 達人教室

- ①既に実施している **0名**    ②実施したい **6名**    ③参考にする **12名**    ④実施しない **0名**

<意見>

- ・部分的にアイデアを利用したい。夏まつりに活用したい。
- ・とてもいい活動でやってみたくと思うのですが、すぐ実施とはいけそうにありません。ですが、地域の達人から学ぶという場を作りたいなと思います。

(3) アクティブマーケット

- ①既に実施している **0名**    ②実施したい **5名**    ③参考にする **11名**    ④実施しない **2名**

<意見>

- ・継続的事业という視点がいい。丹生川とアクティブプロジェクトの交流会を企画したい。
- ・毎月開催は大変なこと。何をやりたいのか十分わからない。
- ・おもしろい企画だと思います。夏祭りのバザーも若い方達担当のものもあっていいと思いました。

(4) サマコレ

- ①既に実施している **0名**    ②実施したい **6名**    ③参考にする **11名**    ④実施しない **0名**

<意見>

- ・高校生を引き込むという願いはすごく大事。この課題について丹生川でも考えたい。1つの活動で終わらず、いろいろ広がる可能性がある。
- ・高校生を巻き込むことが良いと思う。
- ・大変魅力的で、次年度夏祭りの参考にしたいと思います。

2. 若者が事業を企画する取り組みを今後、まち協の事業として実施しますか。

- ①既に実施している **4名**    ②実施予定である **9名**    ③実施しない **1名**

<理由>

- ・青年部による事業化。
- ・主催事業ではなく、応援事業として扱いたい。
- ・実施したい。
- ・これから企画できると良いと思う。
- ・若い力には花があり、明るさがある。

3. 貴まち協では、若者の意見を取り込むためにどのようなことを実施していますか。【複数回答】

- ①特に行っていない **5名**    ②がやがや会議 **5名**    ③アンケート **4名**    ④その他 **6名**

<その他：具体的意見>

- ・まちづくり協議会青年部を立ち上げ、月1回例会を行っている。2月計画で、事業を企画し実行を予定している。
- ・ワークショップ。
- ・青年部の設置。
- ・20代～30代の若者、15名で組織。話し合いしている。若者の意見を取り入れた事業にしたい。
- ・役員として若者を取り込んでいる。
- ・すでに取り組んでいる。役の方が若い。

4. 今回の講座についてのご意見や、今後取り上げてほしいテーマ・内容などについて、ご自由にお書きください。

- ・今後も続けてほしい。協力、参加したい。
- ・課題をしっかりと見つめることの大事さを痛感。
- ・新しい発想で行う為、地域を盛り上げる為にやはりチャレンジしていく必要があると思います。
- ・地域に関心や愛着について若者が何を思っているのか知りたい。
- ・アクティブマーケットの成果を後日発表してほしい。
- ・絵に描いた餅にならないよう、実際に実践いくような長い工程で向かっていけたらと思いました。
- ・企画に対しての今後の行動をお願いしたい。
- ・どの企画も大変興味深く、参考になる内容でした。是非実施された報告会を開催してほしいです。そして来年につなげてほしいです。
- ・若者が交流できる場がもっと多くできるとよい。
- ・若い人たちの熱い思い、地域への思いを知ることができて大変よかった。高山には宝がいっぱいあることを知り、頼もしく思いました。
- ・若い方達の発想はやっぱりいいなあと思います。現実問題は若い方達のスタッフが集めるのが大変というところですね。本日の提案を今後の事業の参考にしていきたいと思います。
- ・とても参考になりました。国府さんのは特によかったです

高山市まちづくり活動実践講座・企画書	
事業名称・グループ	達人教室・スポーツバンド
日程・会場	夏休み 7月下旬～8月中旬(週2日 計4回)・公民館
テーマ・コンセプト	伝統行事の継承
目的	後継者として地域に残ってほしい。 地域の良さを子ども達に知ってもらい「地元に残りたい!!」と思ってもらおう。
対象者(人数)	小学校 高学年 30～35名
実施内容	夏休み平日昼間(講師は音頭会の方々)練習をし、お昼ごはんを皆で食べて帰る <4コース>①「飛騨やんさ」の歌詞の意味を知る②やんさの節回し③唄の抑揚④唄と踊り

高山市まちづくり活動実践講座・企画書	
事業名称・グループ	防災サバイバル体験・やみなべ
日程・会場	平成30年10月7日(日) AM10:00～PM1:30(終了予定)・小学校
テーマ・コンセプト	楽しみながら防災意識を高め、いろんな人とつながろう! 実際に役に立つ知識を身につけよう!
目的	住民の防災意識の低さと地域住民同士のつながりが希薄であり、有事の際に不安を感じる。 地域住民が楽しく共に活動することにより、地域のみながつながり防災知識を学び、協働意識を高めたい。
対象者(人数)	地域住民 200～300名(※広報誌による募集方式とし、最大300名とする)
実施内容	①ワークショップ(10:00～11:00)A火おこし、Bロープワーク、Cティピー作り ②炊きだし(11:30～) ・1人分ずつのカレーとアルファ米を使ったカレーライス ・食器を汚さない工夫やレシピ等を配布し、実際に昼食として試食する ③展示・体験コーナー(10:00～13:30) ・避難所の1人あたりのスペースや段ボールベッドなどの展示、地域のハザードマップの展示、地震車による震度体験コーナー、消防署による放水や救命救急の実演や展示

高山市まちづくり活動実践講座・企画書	
事業名称・グループ	アクティブマーケット・アクティブプロジェクト
日程・会場	毎月第2日曜日 9:00～12:00(平成30年4月～) 町内各所(一之宮支所駐車場、一之宮公民館、モンデウススノーパーク、臥龍公園等の公的施設及び水無神社等の民間施設)
テーマ・コンセプト	多くの世代の交流と発信の場を提供する(多会場開催は、年配者の方々に来やすくする配慮もあり)農産物・工房生産品も含めた、何でも持ち寄りマーケット(食品出品品の保健所等の申請手続きもバックアップ)
目的	幅広い世代(特に若者)に、まち協がみんなで作り上げる楽しさをアピール出来る当企画のような小さなイベントを仕掛け、まちづくりに興味を持ってもらう。そのための窓口としてバックアップ出来る体制を整える。将来的には自発的にまちづくりにつながるイベントの企画・運営等が出来る人材を育てる。秋のまち協主催の文化祭開催時に、大きな規模で同時開催予定。
対象者(人数)	出展者:若い世代を中心として町外の人でも可(各会場10人程度) 来場者:子どもから年配者まで(各会場100人程度)
実施内容	出展者の事前募集を行い、出展数・人員の把握をする スペースの提供・割り振りを行う(駐車スペースの確保も) 出展物・シートなど出展に必要なものは、基本的に出展者が会場まで運搬・陳列・撤去する 雨天時は、基本的に中止にする(屋内会場確保出来る時は実施)

高山市まちづくり活動実践講座・企画書	
事業名称・グループ	サマコレ・チーム☆こくふ
日程・会場	8月第3土曜日(ふるさと夏まつりin国府の開催日)・国府町木曾垣内福祉の里
テーマ・コンセプト	高校生参加型ファッションショー
目的	若者が地域のイベントに参加しない。若者が楽しめる場所がない。 ⇒(高齢者・子育て世代・ファミリーなどの集まる・楽しめる場所はある) ○地域に対し、関心がない・愛着がない → ◎地域に関心・愛着を持てるイベントを開催する。
対象者(人数)	・高校生100人(企画チーム・当日参加)
実施内容	・ふるさと夏祭り内でファッションショーを実施する。会場内をサマーコーデで闊歩する。 ○企画段階から高校生に入ってもらおう。(高校生の募集) ・企画の発展(例:ミスコン&ミスターコン・特技プレゼン・フリーマーケット 浴衣部門設置・着付け教室・インスタ映え企画) ○企業連携 出店ブース設置・各業者のコーデ・アクセサリー関係

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2018年1月1日発行号

VOL.34



## 市民から 地域活動を提案する

2017.10.18



### 全体の流れ

#### 第1回(2017.10.18) やってみたい、やりたい地域活動を話し合う

- 講座「大学生は、こんなことをやっている」
- ワークショップ「やってみたい、やりたい地域活動を話し合う」

#### 第2回(2017.11.9) 実現するための課題さがし

- セッション①「その活動を実現するために大切な事、必要な事」
- セッション②「必要な物事を確保するために見えてくる課題は」
- セッション③「課題解決のための解決策を考える」

#### 第3回(2017.11.22) 事業の企画案を作成

- 発表・提案に向けた企画書と発表資料を作成

#### 第4回(2017.12.7) 企画案をまちづくり協議会に発表し提案する

### 今後の展開

まちづくり協議会の役員会の中でも企画内容を発表し、意見交換を実施した。参加者が今回学んだ手法を活用し、今後のまちづくりへ積極的に参画することが期待できる。

#### 担当者の感想(高山市協働推進課)

本講座をとおして、課題の発掘から事業の組み立て方を学び提案することで、自分たちの思いが一步実現に近づいたことへの喜びや自信を得たと感じている。各まちづくり協議会は若者のアイデアやパワーを望んでおり、この講座を機に若者のまちづくりへの参画が進むことを期待する。

高山市では平成27年度から市内全20地域に設立された「まちづくり協議会」を中心に高山市も関わりながら協働のまちづくりが実践されています。地域組織の活動範囲が拡大したため、今後の活動を効果的に運営するためには若者を取り込んだ課題解決に取り組むことが求められています。そのため、平成28年度に「まちづくり実践講座 地域の未来を語る会」を実施し、今回はそれに引き続き取組みとしてフューチャーセンターを開催しました。全4回の構成で、メンバーは地区混合の2グループと、同じ地区のメンバーで作る2グループの合計4グループでそれぞれ企画を提案しました。今回のフューチャーセンターは、若者が地域で実施したい活動を企画し、まちづくり協議会に提案する場をつくることで、地域活動への参画を後押しすることを目的としています。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター

TEL.058-293-3880

http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3881 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



第8回 ぎふフューチャーセンター

地域が岐阜大学に期待すること

平成 29 年 10 月 25 日 (水)

会場：岐阜大学地域協学センター

主催：岐阜大学





<p style="text-align: center;">「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 8 回 ぎふフューチャーセンター</p>	
主催	岐阜大学地域協学センター
会場	岐阜大学地域協学センターフューチャーセンタールーム
日程	平成 29 年 10 月 25 日（水） 14：45～16：45
背景	平成 25 年 12 月に地域協学センターが設置され、今年で 5 年目を迎える。これまで、地域協学センターは、全学的な組織として文部科学省の COC 事業（平成 25 年度採択）及び COC+事業（平成 27 年度採択）を展開、推進してきた。また、今年度で COC 事業が最終年度であり、地域協学センターの新たな拠点が開設される節目の年であることから、改めて大学と地域との連携を見つめ直す機会として、地域の多様な人たちが集うぎふフューチャーセンターを実施した。
目的	今回は、COC 事業採択当初に実施したぎふフューチャーセンターと同じテーマであえて実施し、地域から求められる岐阜大学のあり方、岐阜大学が育成する岐阜大生の人材像について、多様な意見や考えを汲みあげ、岐阜大学の COC 事業または COC+事業の発展的かつ継続的な取組みに反映させていくことを目指す。 フューチャーセンターで出された意見や考えは、成果として学内外に向けて発信する予定である。
テーマ	地域が岐阜大学に期待すること
サブテーマ	(1) これまでの大学と地域の連携状況について それぞれの立場でこれまで大学と連携した取組みを共有する (2) これまでの大学と地域との連携における課題について それぞれの立場でこれまで大学と連携した取組みを共有する (3) 今後、地域が岐阜大学または大学生に求めることは何か 大学と地域の連携のあり方と考える
参加者構成	参加者 21 人（4 グループ）：学生 8 人、教員 1 人、地域学センターコーディネーター 5 人、企業 2 人、自治体職員 4 人、地域 1 人
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター准教授
当日のスケジュール	14：45～ 開会（フューチャーセンターの主旨及び今回の目的説明） 15：00～ アイスブレイク（グループごとの自己紹介含む）（10 分） 15：10～ セッション 1（20 分） 「これまでの大学と地域の連携状況について」 15：30～ セッション 2（20 分） 「これまでの大学と地域との連携における課題について」 15：50～ セッション 3（20 分） 「今後、地域が岐阜大学または大学生に求めることは何か」 16：10～ まとめ・発表（25 分）1 グループ 3 分 16：35 閉会
FC 後の展開	・岐阜大学地域協学センターシンポジウムなどで成果を学内外に発信するとともに、COC 事業または COC+事業の発展的かつ継続的な取組みに反映させていく。
出された意見	<b>【1 グループ】</b> <セッション 1> ・大学教員との連携（大学の得意分野を生かす）：共同研究、地域企業との課題解決、セミナーの実施、公害対策など ・まちづくり：ぎふまちづくりセンターの開設・運営 ・インターンシップ：インターンシップの受入、統計に関するインターン、教育実習、NPO 法人による学生派遣 ・メディアコスモス：大学農場による農産物販売、教育学部美術講座の教員・学生による出展、学生ボランティアの受入 ・産学官連携組織の立ち上げ、企業誘致、産業振興 ・講義をとおした地域連携：フューチャーセンターの実施、古民家探索、

<セッション2>

- ・金、時間、スピードに関する課題
- ・外から見た大学：未知の場所、敷居が高い、文化（ものの考え方、環境）の違い
- ・本当に引き出すべき市民・住民の意見が出てこない
- ・意見の違いから人と人の衝突になることも
- ・行政担当者が気を遣いすぎ
- ・大学教員との連携：大学の教員の人柄が大きく影響する、特定の教員に依頼が集中、特定の教員がいなくなると困る
- ・学生：学生として地域連携の取組み方法がわからない、大人のほうが学生に求めることがわからない、学生へのリターンに時間がかかる

<セッション3>

○大学側の工夫

⇒ 文化を乗り越えた連携方法を大学側から提案

⇒ 地域連携のメニュー化（わかり易さ）

- ・世界の最先端を地域に（研究データの活用、AIの活用）
- ・起業の視点を持った学生の育成（起業・創業に対する取組み）

○学生に求められること

- ・発信力（自由な意見を出す）
- ・行動力（自分から外に働きかける、地域について知る機会を持つ）
- ・地域や地元に興味を持ってほしい（岐阜を知ろうとする学生）

○その他

- ・地域に門戸を開く（入りやすくする）
- ・教員や大学がもっと身近に
- ・地域のことを考えられる学生の育成、地域への興味を促す
- ・学生・教員の広い視点

【2 グループ】

<セッション1>

○行政：大学との包括連携協定、審議会委員の委嘱、懸案課題事項への助言

○FCの実施：羽島市でのフューチャーセンター実施

○企業：企業見学、共同研究、企業展、成果発表会、講義

○インターンシップ：地域協働型インターンシップ（NPO法人ORGAN）、自治体協働型インターンシップ（岐阜県）、寄り合いワークショップのインターンシップ

<セッション2>

○関係不足

- ・地域の人々の状況をきちんと把握する
- ・地域に溶け込む意識がどれだけあるか
- ・市民・県民との協働作業を呼びかけているか
- ・対等な立場で接する（壁を作っていないか、地域とのパートナーとしての意識はあるか）

・地域の人とのコミュニケーション不足

○ニーズとのマッチング

- ・ニーズをどう集めるか
- ・学生と企業との期待値が異なる
- ・学生のニーズをきちんと把握する

○情報

- ・窓口がわかからない
- ・周知不足（大学の発信力がない）
- ・最新動向を把握して取り組めか

○立地

- ・遠いとお金がかかる
- ・遠いと時間の調整が大変
- 時間がかかるので長く取組みたいが大学はできない

○学生の都会への流出

<セッション3>

○関係構築

- ・対等な立場、したしみやすさ
- ・頼って・たのんで、地域とパートナーとなるような情報発信

- ・さらなる企業・地域との協力関係
  - 地域愛
    - ・地域に貢献してほしい
    - ・岐阜を良く知ってほしい：岐阜県そのもの、県内企業
    - ・地域・県民との折衝窓口を設ける
  - 精神論（自由闊達な発想）
    - ・新しいことにチャレンジ
    - ・インターンシップや地域のイベントに参加する
    - ・まちづくりにおける助言・学生参加
    - ・日常でできない良い取組みをしてほしい
    - ・活動せよ！あばれる位がんばってほしい。
- ⇒（目標）岐阜の未来を作る、優秀な人材の育成、多文化（新しい文化を作る）、社会貢献、研究成果（ノーベル賞）

### 【3 グループ】

#### <セッション1>

- 学び：自然体験活動のスタッフ、フィールドワーク、子供たちとキャンプ、地域リーダー実践（上級）、ボランティア、生涯学習講師
- インターンシップ：受入先紹介、企業実習受入
- 産学連携支援
- 包括連携協定

#### <セッション2>

- ・お金を取ってくるのが大変
- ・大学（若者）の意見を反映するための財源
- ・学内連携
- ・地域にとってプラスになっているか疑問
- ・継続的な連携、連携事業のPDCAの回し方
- ・アクセスの悪さ、地理的に離れているため交流しにくい
- ・特定の地域に多くの大学・学生がくる
- ・大学への期待がはっきりしていない
- ・何が課題なのか行政・地域団体がよく理解していない
- ・授業内容・研究内容にしばられる

#### <セッション3>

地域協学センターが中心となり大学・学生・地域をつなぐ

- ・学生の地域への理解と愛着を深める
- ・地域志向学に関心を持つ学生を増やす
- ・地域に貢献する人材の育成
- ・地域をPRする機会を作る
- ・地域へ活動を広げる
- ・専門的な知見を指導してほしい、大学の治験の還元
- ・視野を広く持ってほしい
- ・岐阜だからこそできることに取り組んでほしい
- ・一旦都会へ出てもいつか地元に戻ってきてほしい

### 【4 グループ】

#### <セッション1>

- 学び：公民館大学、公開講座、マーサで演舞
- フィールドワーク：中山間地域、関ヶ原、郡上市石徹白
- ボランティア活動：学習支援ボランティア、柳ヶ瀬商店街
- 子供向け：長良川流域子ども交流会、アースレンジャー、ワークショップ
- フューチャーセンター：地域活性化、祭り、学生との会話
- 環境：お祭りで生き物展示、奈佐の浜プロジェクト（海岸漂着ゴミ）、達目洞環境保全

#### <セッション2>

- ・地域の求めるものとの不一致
- ・何を求められているかわからない
- ・地域も学生を取り込む努力をする
- ・地域への理解に時間がかかる
- ・一緒に汗を流す必要がある
- ・学生の問題意識にばらつきがある

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者意識、無関心層のとり込み</li> <li>・学生が学びを楽しむこと</li> <li>・地域から課題をあげてほしい</li> <li>・分かりやすい情報発信</li> <li>・学生は岐阜のことを良く知っているのか</li> </ul> <p>&lt;セッション3&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜にある大学として特色を出す+アピール</li> <li>・自分に地域に入って研究してもらう</li> <li>・地域への貢献を考える</li> <li>・地域に根ざす：地域によりそった取組み・理解</li> <li>・継続的な関わり、取組み、参加</li> </ul>
自治体等との調整過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月 地域協学センター現地コーディネーター、学生、県内自治体等に参加呼びかけ</li> <li>・10月 地域協学センター開所式における式典、関連企画との調整</li> </ul>
報道等	<p>10/26 岐阜新聞・岐阜総合</p> <p>10/26 中日新聞・岐阜版</p>
企画担当者所見	<p>今回のぎふフューチャーセンターは、地域協学センターの新拠点に係る開所式にあわせて、センター設立後（平成25年12月）に実施したフューチャーセンターと同じテーマ「地域が岐阜大学に期待すること」で実施したことで、地域、自治体、企業の方々から生の声を聞くことができた。やはり、まだ十分に地域にとけこむ大学を目指すうえで多くの課題があることを改めて認識させられた。一方で、次世代地域リーダー育成プログラムやインターンシップ科目をとおして、岐大生が地域と関わる機会が増えたことで、参加学生からは主体的で未来志向の意見がみられた。今後は、今回出された意見や考えを深めるためのフューチャーセンターを企画実施し、より一層地域に深く関わり、地域にとけこむ大学を目指していきたい。そのためにも、地域協学センターが学内外で地域連携の推進に一層貢献していかなければならないことも痛感した。</p> <p>また、今回は、開所式来賓の文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室改革支援第一係長 庄司祐介氏、係員 森田将悟氏が見学し、参加者の活発な対話を肌で感じていただくことができ、岐阜大学のフューチャーセンターを知っていただく良い機会となった。</p>

(地域協学センター准教授 大宮康一)

各グループからの  
意見・アイデア

## 今回のまとめ

### 【やみなべグループ】

やりたいこと：防災サバイバル体験  
地域の課題：防災意識の低さと住民同士のつながりの希薄さが、有事の際に不安  
→楽しみながら防災意識を高め、色んな人とつながろう!

### 【スポーツバンドグループ】

やりたいこと：達人教室  
目的：子どもに地域の後継者として残って欲しい  
→地域の良さや魅力を子どもたちに知ってもらい「地元に残りたい!!」と思ってもらう

### 【アクティブプロジェクトグループ】

やりたいこと：アクティブマーケット  
地域の課題：地域を盛り上げるためのイベントを開催しても若い人が参加してくれない

### 【チーム☆こくふグループ】

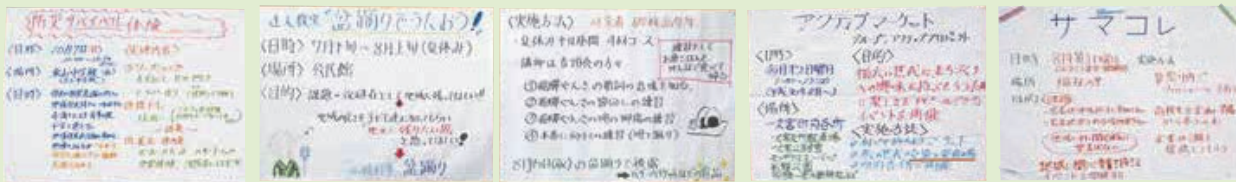
やりたいこと：ファッションショー  
地域の課題：若者対象のイベントが少ない。若者が楽しめる場所がない。  
→高校生を取り込み、高校生に向けて企画する

### 参加者の声

- どのように企画を立てたら良いかわかった
- 他の地域の方の考えが聞けて良かった

### 発表会来場者の声

- どの企画も大変興味深く、参考になる内容でした
- 若い人たちの熱い思い、地域への思いを知ることができて大変よかったです。頼もしく思いました。



## 大学と地域の 協働の在り方を考える

2017.10.25

平成25年12月に地域協学センターが設置されて5年目。今後さらなる地域協学を進めるために新たな拠点も開設され、10月25日に開所式を行いました。この節目に合わせて、改めて「地域が岐阜大学に期待すること」をテーマにフューチャーセンターを開催しました。

当日は、岐阜大学生の他、地域の方々や地元企業・自治体の方々にもご参加いただき、大変有意義な対話の場となりました。



各グループからの  
意見・アイデア

## 今回のまとめ

- 大学側から文化を乗り越えた連携方法を提案する
- 頼って、たのんで、地域とパートナーとなるような情報発信による関係構築
- 地域協学センターが中心となって大学・学生・地域をつなぐ

## 今後の展開

成果を学内外に発信するとともに、COC事業やCOC+事業の継続的な取り組みの中で今回の意見を反映させていく。

## 担当者の感想

(地域協学センター 大宮康一)

新拠点の開所式に合わせて、地域協学センター設立直後に実施したフューチャーセンターと同じテーマで開催した。地域、自治体、企業の方々から生の声を聴くことができ、まだ多くの課題があることを改めて認識することができた。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3168  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3167 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



第9回 ぎふフューチャーセンター

あったらいいな、こんな場所  
～多治見ながせ商店街～

平成29年12月9日（土）

会場：ヤマカまなびパーク多治見市学習館

主催：岐阜大学・岐阜県・多治見市





「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 9 回 ぎふフューチャーセンター	
主 催	岐阜大学、岐阜県、多治見市
会 場	ヤマカまなびパーク多治見市学習館 6 階 美術室
日 程	平成 29 年 12 月 9 日（土）
背景と目的	<p>商店街は、近年の中心市街地を取り巻く環境の激変により、全国各地において衰退に歯止めがかからない状況であり、岐阜県内の商店街についても同様である。商店街の各店舗が運営を継続できるだけの売り上げを確保し、商店街全体における売り上げを底上げし、各店舗の個店力をアップすることが必要であり、そのことが「真の商店街活性化」につながる。</p> <p>昨年度、多治見市のながせ商店街において、学生が現地調査を行い、商店街や地域の方の生の声を聴き、将来的に商店街が活性化できるような方策を考えた。意見の中には、若者や女性が集まるスペースをつくるなど、空き店舗の活用を提案するものがいくつかあった。</p> <p>今年度は、前回の提案を生かし、空き店舗の具体的な活用方法を話し合うことで、より活気ある商店街づくりをめざす。</p>
テーマ	「あったらいいな、こんな場所～多治見ながせ商店街～」 ながせ商店街の中で、実際に今後の活用方法が検討されている空き店舗（旧ワタナベ時計店）を中心として、若者が来たくくなるような具体的な活用方法を検討する。
サブテーマ	①つかもう！ながせの特徴【フィールドワーク】 ながせ商店街を散策し、雰囲気や魅力を肌で感じる。 ②生かそう！ながせにあなたの思い みんな（若者）が行きたくなる書店の特徴を考える。 ③描こう！未来のながせ 書店をベースに商店街を若者が集まる場所にするとしたらどのような施設や工夫が必要か。（書店の特徴に合う、また、商店街の雰囲気や街のもつ魅力を損なわないもの考える。）
内 容	○ フィールドワーク（ながせ商店街） ○ フューチャーセンター
参加者構成	大学生 11名 高校生 13名 地域の方 12名（地域の方・自治体職員等） 計36名
対話の方法	KJ法（発表 模造紙など）
ファシリテーター	多治見まちづくり株式会社 ゼネラルマネージャー 小口英二氏
当日のスケジュール	11：00～ 開始・フィールドワーク（大学生のみ・食事含む） 13：00～ フューチャーセンター開始・FCの説明 講演○多治見市の概況（地勢、人口、経済状況、商店街振興など） ○多治見まちづくり株式会社について 13：50～ セッション1 サブテーマ① 20分 14：10～ セッション2 サブテーマ② 20分 14：30～ セッション3 サブテーマ③ 20分 14：50～ まとめ 20分（発表に向けての準備） 15：10～ グループ発表 20分（発表時間 3分/1グループ） 15：30～ 講評 5分 小口氏 他 15：35～ アンケート
出された意見	IG ◇現状：老人が多い、人が少ない（柳ヶ瀬商店街と比べても少ない） ◇改善点：軽く飲食ができるカフェ、有名なラーメン店を呼ぶ、商店街を飲食街にする ◇書店について ・一人でもふらっと入れる書店、軽くおしゃべり（図書館とは違う雰囲気）、24時間営業、深夜営業、充電可 Wi-Fi、漫画のみの書店 ・学習席をつくる（テスト期間中）

	<p><b>2G</b></p> <p>◇現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・味噌煮込みうどんなど、レトロでおいしい店が多い</li> <li>・買い食いができる店が無い→若者が少ない</li> </ul> <p>→（トラックが怖いので）歩行者天国があるといい、ゴミ箱を設置する、駐車場を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河童に噴出しをつくり一言募集、毎月更新</li> </ul> <p>◇改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書店のアイデア</li> </ul> <p>1階 主婦・ベビーカーを押して入れる、もとの町並みを大切にす高齢者を対象にした本</p> <p>2階 学生向け参考書 →いろいろな年代が集まり交流できる、文房具販売</p> <p><b>3G</b></p> <p>◇現状：外観がきれいで統一感がある</p> <p>◇改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が楽しめる場所が無い→小腹を満たせる</li> <li>・高齢者が集まる場所が無い→くつろげるスペース</li> </ul> <p>◇こうしたい いろいろな世代の人が集まれる場所にしたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェはおしゃれすぎて敷居が高い→喫茶店(いろんな世代が集まりやすい、気軽に入れる)</li> <li>・文房具や惣菜などを販売→プラスワンの何か</li> </ul> <p><b>4G</b></p> <p>◇現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和のレトロな感じ、趣きがある</li> <li>・古くて寂れている感じ、人がいなくて淋しい、これとって特徴が無い、有名なはずの陶磁器の店が少ない</li> </ul> <p>◇改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河童や陶磁器を前面に押し出した商店街</li> <li>・タイルアートが店でできる、カフェの料理は陶磁器をメインにする(陶磁器に合う料理)→ファミリーでくつろげる、高校生が時間調整できる</li> <li>・勉強できる飲食店</li> <li>・書店に個々のスペース、話ができる場所、参考書、工業系の本(工業高校)</li> </ul> <p><b>5G</b></p> <p>◇現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力が無い</li> <li>・いいところがあってもあまり知られていない</li> <li>・夏祭りなどのイベントは人が集まる</li> </ul> <p>◇改善点・新しい魅力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街と商店街をつなげる</li> <li>・イベントを新たに作って情報発信→若者を集める(インスタ映え、小腹を満たす食べ物)</li> </ul> <p>◇店舗の改装</p> <p>1階 大人向けのスペース・読書</p> <p>2階 学生が騒げる場所 動物がいる、漫画が読める、陶芸の体験スペース、ハンモック</p> <p>地下(屋上) 大人が飲んだりするスペース</p> <p><b>6G</b></p> <p>◇現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい店舗が多い、若者向けの店が多い(空き店舗活用)</li> <li>・有名店がない、学生が立ち寄るところが少ない</li> <li>・カフェは敷居が高い</li> </ul> <p>◇改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モザイクタイルミュージアムが中心市街地に</li> <li>・TRPG(ボードゲーム)、ろくろ体験、クラフトショップ、タイルマン(筋肉マンのアニメカフェ)</li> </ul>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多治見市の中心市街地活性化計画の施策検討時に活用されることが期待される。</li> <li>・多治見まちづくり株式会社の今後の取組みに活用されることが期待され</li> </ul>

	る。 ・当日の参加学生のうち「フューチャーセンター実践」の受講者が平成 30 年 1 月 11 日（木）に現地において報告会を開催した（別添参照）。
自治体等との調整過程	4 月下旬 商業・金融課と開催することで調整 6 月 8 日 県・多治見市・多治見 TMO と打合せ 10 月 13 日 県・多治見市・多治見 TMO と打合せ 11 月 16 日 ファシリテーターと打合せ 12 月 9 日 フューチャーセンター開催 } 随時打合せ
報道等	平成 29 年 12 月 19 日付け 中日新聞朝刊
担当課感想	地元高校生の参加もあり、より具体的なアイデアが出され、大変有意義な機会であった。学生からは「良い経験になった。開店したらぜひ行きたい。」と言う前向きな意見もあり、学生にも良い体験になったかと思われる。県では、商店街における若手・女性事業者の事業参画の促進を図っており、こうした取り組みの成果を県内商店街に PR し、波及させていきたい。 (岐阜県商業・金融課) 商店街の活性化は難しい問題もあるが、こうやって考えることは楽しいことである。多くの人に参加し、楽しいと感じていただくことが、まちづくりの第 1 歩である。今日の参加者で、「商店街には、意外においしい店や魅力があっっておもしろい」と感じていただけたのであれば、またこういった機会に是非ご参加いただければと思う。(多治見市産業観光課)
企画担当者所見	ながせ商店街において 2 度目の開催となった今回は、高校生の参加も得て、盛大な FC となったことは大変良かったが、地域（商店街）の方々の参加が少なかったことは、開催日程等やテーマの調整について今後検討の余地がある。 ただ、地元の高校生と大学生という組み合わせは、双方にとって学ぶことが多く、新たな交流も生まれたようで、課題解決だけではないフューチャーセンターの意義を確認することができた。 地域からの学生に対する期待は大きく、ながせ商店街とは今後とも継続して取り組みを行っていくことが必要だと感じた。

(地域コーディネーター(岐阜県派遣)松原 裕子)

#### 平成 29 年度 第 9 回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果

参加者 35 名 回答者 31 名 回収率 89%

- 性別 ①男性 17 名 ②女性 14 名
- 年代 ①10 代 18 名 ②20 代 6 名 ③30 代 2 名 ④40 代 2 名 ⑤50 代 2 名 ⑥60 代 1 名  
⑦70 代以上
- フューチャーセンター（以下、「FC」という）の参加は何回目ですか。  
①1 回目 25 名 ②2 回目 4 名 ③3 回目 1 名 ④4 回目 1 名 ⑤5 回目以上 0 名
- ぎふ FC に参加して、あなたにどんな影響がありましたか。（複数回答可）  
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 28 名  
②さまざまな知識や経験を持つ人（地域、大学、行政など）と知り合えることができた 19 名  
③大学又は地域の人々が身近な存在に感じられた 6 名  
④その他（以下意見：原文のまま）  
・同郷の人と話せて楽しかった。  
・多治見についてもっと考えていきたいと思った。
- テーマについて、充分、対話に参加できましたか？  
①参加できた 27 名 ②どちらでもない 4 名 ③参加できなかった
- あなたの地元の商店街を利用したことはありますか。  
①週に 1 回以上 4 名 ②1 か月に 1 回程度 5 名 ③ほとんど行かない 19 名 ④その他  
・半年に 1 回程度（遠いから）  
・柳ヶ瀬なら月 1 回、地元なら週 1 回以上  
・通る程度で、利用することはあまりないです。

7. 商店街に対してこれまでどのようなイメージを持っていましたか。

あまりにぎわっていない。
ショッピングモールの劣化。
暗くて、あまり立ち寄りたとは思わないイメージ。
立地がいいのに内容が残念。
大型店舗の地方進出、人口減少、少子高齢化などから商店街の中の各店舗が閉店している(シャッター商店街)。 →なんとかしようとしている現状がある。
年寄りしかいない、古びた感じ。
ガラガラとしている。シャッター街が多い。若者向けではない。
お年寄り向け、シャッター、人が少ない。
シャッター、祭りのときだけ。
生活する中での楽しみ。
あまり行ったことがないですが、暗いイメージです。
暗い感じ。
イベント時は人は集まるが、それ以外ではまとまっていない。
お店に入りにくい。
最近シャッターどおりといわれるものが増えていると感じています。やはりイメージも空き店舗が多いイメージです。
廃れていく一方で、活気が無い。
廃れた印象。
昔からあるけどあまり興味が無く面白くないようなイメージ。
古い、暗い。
静かなイメージ。
暗い、シャッター閉まっている、何も無い、"商店街"って何？何するところ？高校生は行かない場所。
明るさが無く元気が無いイメージ。
行っても楽しむところがない。
薄暗い、シャッター街。
買い物しても品がそろわない。
シャッター街となっている、活発でないイメージ。
人とのふれあいができているんな世代と話せる和気あいあいとしたイメージ。昔ながらのお店があるイメージ。
ぱっとしない。

8. 今日のFCに参加して、これまでと商店街に対するイメージは変わりましたか？また変わったと回答された方は、どのように変わったかをご記入ください。

①変わった 26名 ②変わらない 4名

いろいろ新しくなっていたものの裏でこのような人たちが動いていたことを知りましたし、思っていたよりお店も入っていたので、もっと行ってみたいと思いました。
思ったよりも面白いところがあるんだと思った。
積極的に利用していきたいと思いました。
もっと発展の力になりたいと思った。
まちを良くしようと様々な取り組みをしていることがわかった。株式会社まで存在しているのは驚いた。
若い人向けのお店が多く驚いた。
実際に行くと魅力あるところである。レトロで逆がいい。
知らないだけでいいところはある。でも知らないのはないのとはほぼ一緒。→知ってもらう必要あり。
地元とは違うタイプの商店街なので、ながせ商店街さんだからその取り組み方がとても面白いと感じた。
多くのいい点があった。
大人の方がたくさん努力をしていると知って明るくなってほしいと思いました。
いろいろなお店がたくさんある。
必ず可能性というものが見つかるのだと気がつきました。
活気がないとあきらめるばかりで話し合っていないだけで、活性化させられる可能性はあるのだということが分かりました。
各々の商店街が各々の分野を押し出さないといけないと感じている→努力している。
まだまだこれから変わっていけると思えるようになった。
意外とおいしいお店もあるんだなあと思った。制服を買いに行ったことぐらいしか利用したことが無かったけれど行ってみたいと思った。
栄えるように様々な取り組みをしている。
私たちが動けば何かを考えられる可能性にあふれた場所、なくしてはいけない場所。
変えようとしている人や会社があることを知りました。未来があって、これからどのように変わっていくのか楽しみになりました。
発展していこうとしていることが身にしみて分かった。来年くらいにオープンするのであればぜひ行きたい。
以外に良いところがある。カフェが多い。
やれることはまだまだたくさんあると思った。
おしゃれな場所もあること。
現状の裏にある理由を知れた。
どう変化していくのか楽しみです。

## 9. 自由意見

<p>OFCCについて</p> <p>いままでこういう会に参加したことが無かったけど、活性化するためにどうしたらいいか考えるのはすごく楽しかった。大学生の方や大人の方の意見を聞いて自分の視野を広げられたと思うので良かった。</p> <p>気軽な感覚で参加しましたが、話し合いに参加している方の熱い思いがきけてよい刺激になりました。またぜひ参加したいです。本屋さんができるのがとても楽しみです。</p> <p>いろんな立場の人と話して見方が変わったし、これからについてもっと考えようと思った。もっとこのような場に参加したいと思った。</p> <p>普段接することの無い世代の方たちとお話できて楽しかったです。</p> <p>自分とは違う年代の人と話せて仲良くなれるのが楽しかったです。</p> <p>高校生の参加を促すことで、新鮮な意見を聞くことができた。</p> <p>街づくりに関することで今まで関心を持っていなかった商店街について、当事者意識を芽生えさせる効果があったと感じた。</p> <p>多くの人の意見を集めるのに良い企画であると思う。思いつかない発想もあって勉強になった。</p> <p>年代も違う方々と議論することができ、私はリーダーとして発表させていただいたので、大変貴重な経験をする事ができました。初参加だったので考えさせられることもたくさんあり自分にとってプラスになりました。ぜひ今後もこのような取り組みを続けていきたいと感じました。</p> <p>年や立場が違う人が集まったグループだからこそ、自分の意見や他の人の意見を聞くのがとても楽しかったし、目線の違いでこんなにも多種多様な意見が出るんだなと感じました。時間も最適でとても良かったです。またこのような機会があればぜひ来たいと思います。</p> <p>自分が住んでいる町を自分で変えられる企画をもっとやって欲しいと思った。すごく楽しかった。大学生の人が優しかった。付箋で意見を出す緊張なくていいので良かった。本当に学校でまたやりたい！友達ならもっと面白い意見が出る！と思う。</p> <p>とても有意義な時間でした。様々な世代の方々と交流をすることができたくさんの意見交流ができました。とても良い企画であると思います。</p> <p>このような機会は初めてだったけど、多治見について深く考え、まだ変わっていきけると思いました。また大人の方々と交流して同感多治見をよりよくできることを知り、とても楽しむことができました。またこのような機会があったら積極的に参加していきけるようにしたいです。</p> <p>様々な年代の方と話し合いができたことがとても良かったと感じました。いろんな視点から考えることができました。</p> <p>様々な年代(特に高校生など若い世代)からの意見を聞く貴重な機会をいただきました。これからの人たちの意見が反映される街づくりが大切だと思います。</p> <p>高校生・大学生の意見は貴重。意見をどう反映させるかまちづくり(株)の使命は重要。旧ワタナベ時計店をメンバーの皆さんに見ていただきたい。</p> <p>地元の高中生とこのような話をする機会はなかなかないので、とても楽しかったです。次は地元からの大学生と高校生で話す機会があると もっと盛り上がっていいのではないかと思います。また多治見の街づくりに関われる機会があればぜひ参加したいと思いますので呼んでください。</p> <p>交流ができてよかった。いろいろこんなのがあったらいいなと思ってはいたが、なかなか話す機会があつてよかった。自分の意見が反映されればいいなと思う。</p> <p>はじめのフリータイムが良いと思った。実際に自分の目で見ることで、商店街の様子を実感することができたと思う。高校生や社会人の方々と交わることで新たな意見を創出でき、それが楽しいと感じることができた。もっと深く語り合うために、5分ずつでもいいので各パートの時間を延ばしてもいいかなと思った。</p> <p>大学生として参加したが、年が上の人も下の人もいて、それぞれの視点でモノを見ていることがわかった。それぞれの意見が貴重で、商店街をつくる上で生かすことができたらなと思った。今後どうなるのか楽しみです。</p> <p>気軽に意見が出せた。大人や高校生の意見が自分に無いものばかりで視野が広がった。</p> <p>様々な人と話ができ楽しかった。特に高校生の人と話をする機会はあまりないし、新鮮だった。またグループワークで自分から意見が出せてよかった。リーダーになって前で発表することは難しかったけどとてもいい経験になった。</p> <p>空き店舗を活用して街づくりの拠点を作ろうとしている。まちづくり株式会社の方々は自分たちだけで考えるのではなく、ワークショップによって地域の方や学生の意見も取り入れるというのは良いことだと思った。</p> <p>今回参加できてとても楽しかったです。こういった問題について深く考えることはとても難しいなと思いました。けど地元について考えることはとても大切だと思うのでこういった会を増やして、学校でも考えられたらなと思いました。</p> <p>〇ながせ商店街について</p> <p>皆で話し合ったり、実際に商店街を歩いてみたりして、少しずつでも多治見が元気になっていると感じました。しかし多治見市はいかんせん愛知と近いので、生半可な発展では太刀打ちできないとも思いました。ですので名古屋や大須とは別方向で賑わいを作る必要があると考えます。私たちのグループでは、地元の名品をアピールしつつ、人と人の交流を大切にしていこう町にしていきたいという意見が出ました。書店カフェを作るそうなので、ぜひそういった要素を取り入れてくださると嬉しいです。TRPGは交流のきっかけにもなるし、ゲームセット台しかかからないのでコスト的にもお勧めです。私もやりたい！という事でよろしくお願ひします。</p> <p>商店街の活性化については、よそ者、若者、女性、ばか者の意見がとても大切であり、2年間担当している者としては改めて貴重なご意見をいただくことができました。</p> <p>ながせ商店街についてはほとんど知りませんでしたが、いろいろな人と関わることができて楽しかったです。</p> <p>私は多治見の高校に通っているけれど意外と多治見について知らないことが多いんだなと思いました。休日に遊びに行くときは大体大須や名古屋などに行ってしまうんですが、現在多治見にはすでにモザイクアートミュージアムやろくろ体験、商店街内にもおしゃれなカフェがいくつもあって行ってみたいと思いました。そう思うと同時に、せっかく良いところがあるのでそれが知られていないのが、とてももったいないと思いました。今回、いろいろな企画を考えることができて楽しかったです。</p>
--

TAJIMI BOOKSTORE COWORK  
CONCEPT

空き店舗舗活用イメージ









**FL1 - Book store**  
-Making discovery-  
棚の配置を調整します。本棚はあくまでも佇まいを生む空間の一つ。この棚がきざし、様々な佇まいを受け取る。新しい本、新しいコミュニティ、新しい種類の服、新しい出会い。モノは日々、種族を脱ぎ捨てていきまよう。空間を再構築します。

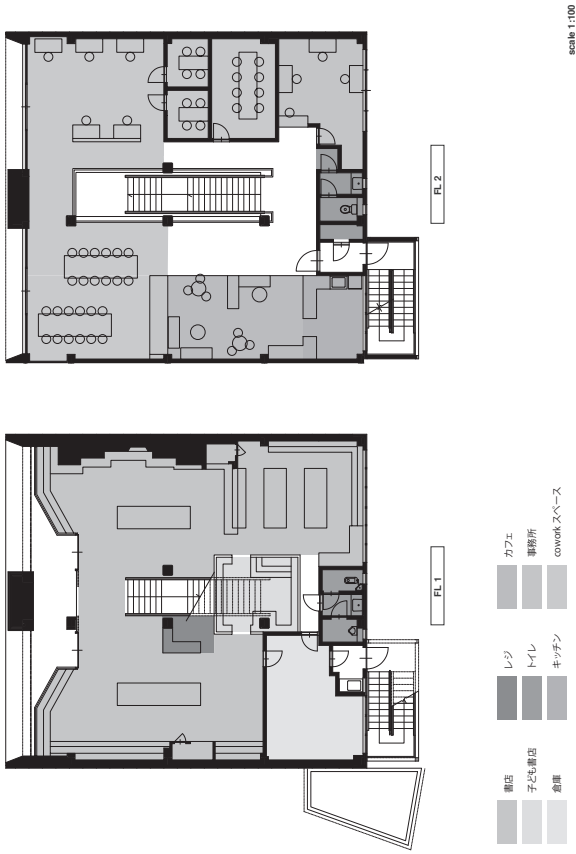
**2FL - Cafe & lounge**  
本屋の中で定期的に開催するイベントなどの催事の開催の役割を持ちます。オアシスの人も利用できるようにカフェスペースも機能をも兼ねたエリアです。購入した本を持ち帰るための時間を併用します。

**2FL - Cowork space**  
-Book store x CO-  
オアシスの役割を兼ね、そこへ新しい働きが生まれます。社内出下のオアシスの人も利用できるカフェスペースも機能をも兼ねたエリアです。制作の強い人材と本屋の強さを活かすことで生まれる可能性を広げます。シェアードワークスペース型に働き方を導く、高い成果を期待につくれる環境を創出します。

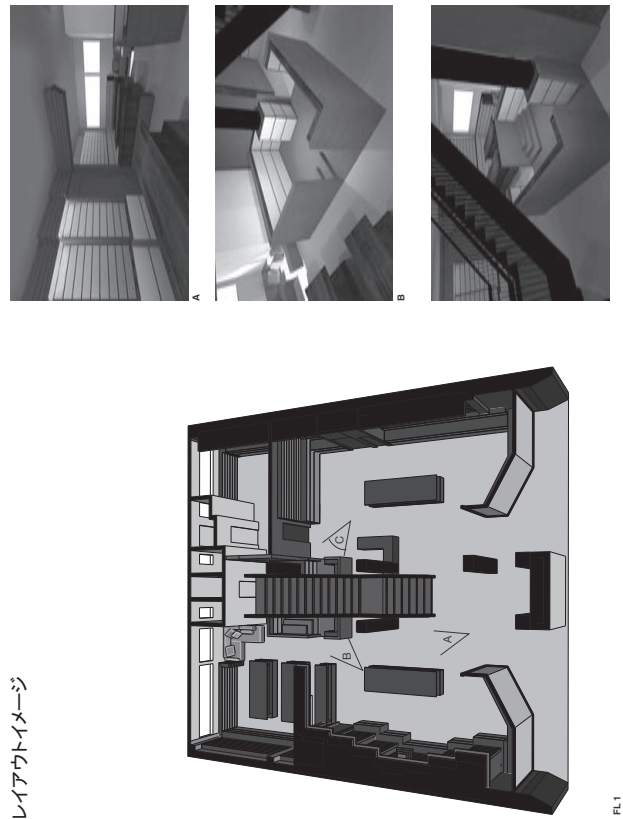
**Material "Ceramic"**  
多岐にわたります。知れた質感の範囲です。多くのメーカーが存在し、アーキテクトが職人や建築家を導入して日本でも何枚の場所です。このおフロアパネルを用いることで世界中で唯一無二の質感が実現します。

**Material "Lenses"**  
建築師が作った詳細。その場所の環境をそのままという事実は、多くを伝える役割を担っています。また、遠景と近景を同時に映し出すことで、奥行きを生み出すことができます。また、遠景と近景を同時に映し出すことで、奥行きを生み出すことができます。また、遠景と近景を同時に映し出すことで、奥行きを生み出すことができます。

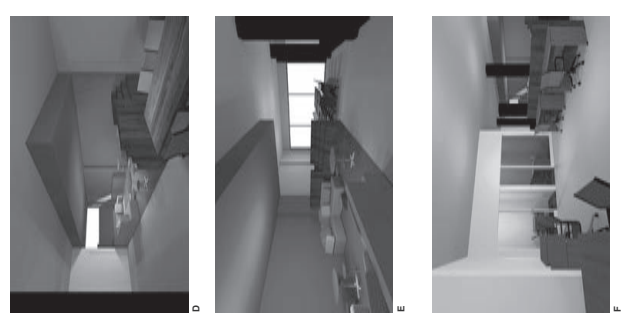
全体レイアウトイメージ



1階レイアウトイメージ



2階レイアウトイメージ





- 商店街内ランチリスト
- 1 竹の子 (うどんなど)
  - 2 カフェ温土 (カフェ)
  - 3 う月 (そば)
  - 4 鳥竹 (中華そばなど)
  - 5 木馬 (喫茶)
  - 6 魚関 (うなぎ)



テーマ物件  
旧ワタナベ

↑ヤマカまなびパーク  
多治見ながせ商店街

縮尺 1 / 1,500 45m



## フューチャーセンター実践報告会

- 1 日時 平成30年1月11日(木) 17:50~18:00
- 2 場所 ながせ商店街 クラフトショップながせ3号館(多治見市本町3-80)
- 3 概要 平成29年12月9日に開催した第9回ぎふフューチャーセンターに参加した「フューチャーセンター実践」の講義を受講する学生が、事前学習、フューチャーセンター当日の内容及びその後の考察を踏まえ、空き店舗の活用方法や、商店街に多くの人が集まるにはどうしたらいいか、どのような場所が必要かを地域の方々に提案する報告会を開催した。

「フューチャーセンター実践」受講学生

地域科学部2年 佐藤大生 近藤李美 山田瑞穂 平工織音 工学部3年 安井 克旗

- 4 参加者 15名(多治見まちづくり株式会社、自治体、商店街の方々など)

### 5 内容

<進行> 三井栄地域科学部教授

○第9回ぎふフューチャーセンターの概要 松原地域コーディネーター

○学生による提案発表

○質疑応答

### 6 参加者感想(抜粋)

<学生>

・フューチャーセンターでは、活性化させようという住民の方々意志が感じられた。若者も少なからず参加していたことから、ながせ商店街は必ず活性化を成功させると思った。

・フューチャーセンターでは、多くの大人の方々が、高校生や大学生の話を興味深そうに聞いたり、うなずいたりして下さって意見を言いやすかった。

・報告会はとても緊張したが、その後の質問会で、商店街の方から私たち若者がどういうものに興味があるのかを質問された。若者を呼び込むため、私たちの意見を必要としているのだと感じた。

・商店街の皆さんの話を聞いて、商店街は便利で、人情味にあふれた楽しいところだと感じた。もっと商店街について知りたいと思ったので、近くにある柳ヶ瀬商店街にまず足を運んでみたい。

<地域の方>

・学生さんの意見はとても参考になった。せっかくながせ商店街を知っていただいた。何かを自分に刻んでいただき、どこかで行動をしていただけたらうれしい。

・皆さんの意見を念頭に残しつつ次年度事業についても考えていきたい。

・学生さんの生の声が聞けて楽しかった。

### <当日の様子>



## フューチャーセンター実践報告会

～多治見ながせ商店街～

平成30年1月11日

岐阜大学

フューチャーセンター実践受講者

佐藤大生 近藤李美 山田瑞穂

平工織音 安井克旗

## 発表の概要

- ・事前学習の発表  
活性化している商店街の特徴  
活性化が成功した商店街とは？
- ・フューチャーセンター実践の報告

### 活気がある商店街の事例

桑名市寺町商店街(三重)

- ・高齢者のための「ふれあいカード事業」
- ・商店街内にて無料で利用できるカート設置
- ・商店街の若手が中心メンバーである  
「てらまちっく委員会」の定期的な会合

宮崎県延岡市 山下新天街商店街

- ・空き店舗を活用した市民・学生の活動拠点設置  
→ 高齢者の憩い・交流の場、  
学生を中心とした実習・活動の場

古川町中心商店街(岐阜)

- ・まちゼミ、街歩きマップなどの持続的なイベント
- ・商工会との連携

宇都宮ユニオン通り商店街

- フリーマーケット、無料休憩スペース「ほっとステーション」
- 地元タウン誌と協賛する恒例イベント  
→ 若者人材の掘り起こし

佐賀県佐賀市 NPO法人子どもの本屋ビピン(呉服町名店街)

- ・空き店舗へ店を誘致するにあたり、進出するNPOと市の職員が協力して  
店舗改装を実施。子どもの本を専門に扱う本屋「ビピン」を開業  
→ 若い親同士や高齢者と子どもふれあいの場へ

▶ 成功した商店街にはいくつかの共通点がみられる  
それは！！

- ・高齢者が住みやすい街づくり
- ・学生に焦点を当てた地域活性化
- ・持続的なイベント実施
- ・空き家の計画的な利用

一方、閑散としている商店街は、

- ・一時的なイベント
- ・若者がいない
- ・休憩スペースなし

## 第9回ぎふフューチャーセンター

日程：平成29年12月9日（土）

会場：ヤマカまなびパーク多治見市学習館6階 美術室

テーマ：「あつたらしいな、こんな場所～ながせ商店街～」  
ながせ商店街の印象

▶ 私たちが実際にながせ商店街を散策して感じたこと



## ながせ商店街の印象

### よい点

- ・おしゃれで可愛い店がある
- ・おいしいごはん屋が多い
- ・駐車場が充実している→車で訪れることができる
- ・パチンコ屋に客がいる→中心にぎわう場所がある
- ・レトロな街並み

## ながせ商店街の印象

### 改善したほうがよいこと

- ・案内掲示板がない→なにがあるかわからない
- ・避べるところがあまりない
- ・人が少ない
- ・飲食店の主張が弱い（目立たない）
- ・食べ歩きできる店が少ない
- ・ゴミ箱がない
- ・ベンチを増やす

## どのような商店街にしていきたいか

ながせ商店街を見て回った後、グループワークを行い、さまざまな意見が出た



## こんなながせ商店街にしたい！

- ・食べ歩きできるような街にする
- ・ゴミ箱の設置
- ・学生が気軽に長居できる
- ・特産物をアピールする
- ・主婦さんや高齢者が長居できる
- ・タイラートなどを体験できる場所を作る
- ・カフェなども陶磁器を活かしたお店として展開
- ・モザイクミュージアムを中心市街地に持つてくる
- ・もっと魅力を発信し、活気のある商店街にしたい

## 以上をまとめると、

目指すまちづくり

- ・通学途中の中高生が立ち寄る仕掛け
- ・グルメを楽しめる飲食街（学生向けの軽食など）
- ・他の街との差別化⇒ファミリー客などの呼び込み
- ・モザイクミュージアムのお客さんを呼び込む

## ～書店の活用～



## 書店の活用法

塾講師、大学生による講義イベント  
参考書の貸出や携帯充電スポット  
無料のお菓子サービス  
おすすめ本紹介  
WiFiのできる場所と静かな場所

学生が勉強の場所として利用したくなるような書店を目指す！

1階と2階で対象者を変える  
1階はベビーカーなどを引いて入れる主婦さんや、地元の高齢者などを対象とした本を置き、街並みも保存する。

様々な世代の人々が交流できる場にもなり、地域への関心も高まる

## 書店の活用法

・眼鏡とタイトルで壁  
→インスタ映え  
・ハンモックや落ち着いたインテリア  
・Wi-Fiの設置や文房具販売

勉強道具や、インスタ映えなどで学生集客

・カフェよりも喫茶店  
・軽食やアルコールが楽しめるお店

おしゃべりすぎず、様々な年代の方が気軽には入れ、居心地がよい空間

## 書店以外の活用法

リーズナブルな価格  
学生は自習ができる

1階

軽食がとれる交流サロン

料理教室  
ヨガ教室  
パソコン教室

2階

教室を開く

・夜はアルコールが飲める  
働く人のためのバー  
・アニメカフェ

ろくろ体験  
クラフトショップ

## まとめ

### 情報発信

学生を呼び込む

・学習に利用できる施設  
・食べ歩き

持続可能なイベント

・飲食街  
・ものづくり体験

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.12.09 2018年2月1日発行号

VOL.35



### あったらいいな、こんな場所 ～多治見ながせ商店街～

12月9日(土)、多治見市ながせ商店街において第9回ぎふフューチャーセンターを開催しました。今回のフューチャーセンターには、大学生や地域の方に加え、地元の高校に通う高校生13名が参加し、終始明るく賑やかな中、対話が行われました。

ながせ商店街の印象を出し合った後、ながせ商店街にある空き店舗が今後どのように活用され、どのような役割を果たしていくと良いかを話し合いました。「若い人が一人で入れる書店をつくる」や「商店街と商店街を繋げる役割を果たす必要がある」などの意見が出ました。

参加者の方々にとっては、地元に住んでいたり、通学していても意外に知らなかった多治見の良さを再発見したり、地域について考えていただくいい機会になりました。



各グループからの  
意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- 若い人が一人で入れる書店をつくる  
(24時間営業など図書館とは差別化)。
- いろいろな年代が集まり交流できる場所をつくる。
- 商店街と商店街を繋げる役割を果たす必要がある。

#### 今後の展開

提示された意見は、今後、多治見市の施策や多治見まちづくり株式会社の取組みの参考とされることが期待されます。

#### 担当者の感想

(地域コーディネーター 松原裕子)

ながせ商店街で2度目の開催となった今回は、高校生の参加も得て、賑やかなFCになりました。地域からの若者に対する期待は大きく、今回のフューチャーセンターが、若者が多治見や商店街のことを学び、地域の活動に関わるきっかけになると良いと思います。



岐阜大学  
教育学部1年

加藤 奈那子 さん

#### 地元のいいところ再発見!

とにかく楽しかったです。地元である多治見を、外の人に向けてPRできることやものが見つかりました。これからそれをもっと増やしていくためにも、地域の活動に参加したいという気持ちが大きくなりました。



多治見工業高等学校1年

鈴木 智也 さん

#### まだまだ多治見は良くなる。

多治見について考えることは、とても楽しく、大人の方々や交流することで自分の考えや多治見に対する思いが変わったり、幅が広がりました。まだまだ多治見は良くなると感じました。



CCSC

Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター

TEL.058-293-3880

http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

FAX | 058-293-3881  
E-Mail | ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学



文部科学省

地(知)の拠点



第10回 ぎふフューチャーセンター

『住みよいまちづくり』を考える  
～岐阜市芥見東まちづくり協議会の活動から学ぶ～

平成29年12月13日（水）

会場：岐阜市芥見東公民館

主催：岐阜大学・岐阜県





「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 10 回 ぎふフューチャーセンター	
主催	岐阜大学、岐阜県
会場	岐阜市芥見東公民館
日程	平成 29 年 12 月 13 日（水）
背景と目的	<p>人口減少、少子高齢化、若年層の都市への流出などにより、地縁的なつながりが希薄化し、地域コミュニティは衰退する傾向にある。しかしながら、空き家問題、高齢化、防災など複雑化する地域の課題を解決するためには、地域の住民が主体となって、地域のリーダーを育て（人材育成）、積極的に取り組む団体を支援することが重要になってくる。</p> <p>大学生が、地域の課題解決に積極的に取り組む団体の活動を視察し、より良い活動について意見交換を行うことで、地域課題の把握や解決へのヒント、ノウハウを学び、地域で主体的に活躍できる人材となることを目的とする。また、地域の方々にとっては、今後担い手となる若者が地域に関わることの必要性やその方法を知ってもらう機会とする。</p>
テーマ	<p>「住みよいまちづくり」を考える。</p> <p>—岐阜市芥見東まちづくり協議会の活動から学ぶ—</p> <p>県内で積極的に地域活動を行っている地域を視察した上で、地域（当該地域や自分が住む地域）がより活性化するための方策を探る。</p>
サブテーマ	<p>① 地域活動って何？</p> <p>地域活動にはどういったものがあるか（これまでの経験、芥見東で見聞きしたこと、あるといいこと）を考える。</p> <p>② 地域活性化の未来</p> <p>若者は地域の活動にどのように関わられるか、可能性を考える。</p>
内容	<p>○フィールドワーク：みどりっこバス乗車体験、大洞すずろし（硯石）の里、みどりっこカフェ視察</p> <p>○講演：「岐阜市芥見東まちづくり協議会の活動」、「地域活動の魅力」</p> <p>○フューチャーセンター</p>
参加者構成	参加者 22 名：大学生 10 名、地域の方 12 名（地域の方・自治体職員等）
対話の方法	KJ 法（発表 模造紙など）
ファシリテーター	岐阜大学地域協学センター 地域コーディネーター 野村 典博
当日のスケジュール	<p>13：10 みどりっこバス乗車（芥見東小学校・東公民館バス停）</p> <p>13：17 大洞すずろし（硯石）の里 散策</p> <p>13：45 みどりっこカフェ・視察</p> <p>14：00 岐阜市芥見東まちづくり協議会活動説明 芥見東まちづくり協議会会長 山田 正行 氏</p> <p>14：40 地域活動をするについて コミュニティ診断士 平 孝明 氏</p> <p>15：00 フューチャーセンター概要説明・アイスブレイク</p> <p>15：15 セッション①</p> <p>15：35 セッション②</p> <p>16：05 まとめ 20 分（発表に向けての準備）</p> <p>16：15 グループ発表 15 分（3 分/1 グループ（入替時間含む））</p> <p>16：30 講評 5 分（山田会長）</p> <p>16：35 アンケート</p>
グループ発表	<p><b>IG</b></p> <p>○地域活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全なまちづくり、若者が行事に参加、イベントを楽しむ</li> <li>・多世代の交流、地域の人と協力して地域をよくする、一人一人が担い手となる、助け合いの気持ちを持つ</li> </ul> <p>○できること（芥見東のこれから）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手不足（若い世代を巻き込みたい）</li> <li>→イベントに参加、企画、運営する若者が必要</li> <li>岐阜大学のボランティアサークルと連携</li> <li>・若い人への情報発信 →世代に応じた情報発信を行う</li> </ul>

	<p><b>2G</b> ○地域活動、できること 高齢化、◎若者を呼び込む、地域活性化、支え合い →・大学生を呼び込む（興味を持ってない） ・行事参加ではなく運営側に参画してもらう（友人が来る） ・岐阜大学のサークルに空き家活用やイベント参加を呼び掛ける</p> <p><b>3G</b> ○地域活動 ・いろいろな年代の人が集まる場やイベント（祭りなど）を増やす ・コミュニティバスもつながりの場となる →助け合い（子供の見守り、近所の人の助け合い） ○できること ・あいさつ、・イベント参加、・（FCのような）話し合いの場に参加 ・無償のボランティアでなく有償で活動 →若い人が来る</p> <p><b>4G</b> ○地域活動 ・子供から高齢者までが交流、自治会の行事に積極的に参加、地域間での声掛け、祭りに参加 ・（行政）インフラ整備、子育てのための場所づくり、コンパクトシティの欠点を補う ○個人にできること ・行政の働き掛け（企業誘致、空き家の活用、団結して交渉） ・世代間のコミュニケーション→地元愛 ・自治会への参加（役員を断らない、若者の参加） ・住民同士の繋がり（あいさつ、話し合い） ○全体をとおして、人が集まる行事の開催、行事への積極的な参加 →安全・安心で住みやすいまちづくり</p>
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜市芥見東まちづくり協議会の活動に反映されることが期待される。</li> <li>・岐阜県「ぎふ地域の絆づくり支援センター」の取組みに反映されることが期待される。</li> </ul>
自治体等との調整過程	<p>10月上旬 県と開催することで調整 ⇕ 随時打合せ 11月30日 県・協議会・ファシリテーターと打合せ 12月13日 フューチャーセンター開催</p>
報道等	平成29年12月17日付 岐阜新聞
担当課感想 (岐阜県県民生活課)	<p>現地見学、実践者からの活動説明、コミュニティ診断士からの「地域活動の魅力」の講話により、学生が地域活動に興味を持つきっかけとなり、積極的に地域の方々との意見交換ができた。学生と地域の方々和気あいあいと交流している様子は、相互に得るものがあったと思われる。</p> <p>学生には、自分たちができること、今後やってみたいことなどを考え地域活動に意欲を持ってもらうこと、地域の方々には若者視点の考えを受け止め、今後の活動に活かされていくこととなれば、幸いである。</p> <p>地域活動は、仕事を退いてからということだけでなく家庭・仕事・地域活動をライフワークとして広い視野から社会生活をおくって欲しいと期待する。</p>
企画担当者所見	<p>学生参加者が地域の方々との対話に積極的に関わろうとしている姿が印象的であった。地域の方々も、活動の内容を丁寧に説明して下さって、その熱意が学生たちにも伝わったようであった。地域活動を行うことは、強制できないため、関わらないと決めてしまえばそれで済んでしまいがちだが、積極的に関わっている方々の言葉は重く、影響力があると感じた。</p> <p>「気付かないうちに絆の中に入って」いける芥見東まちづくり協議会の活動もまだ模索中とのことである。若い人達の参画が急務であるが、イベントに参画してみるなど、まずは一歩踏み出すためのきっかけに今回のフューチャーセンターがなってくれば幸いである。</p>

(地域コーディネーター(岐阜県派遣) 松原 裕子)

平成 29 年度 第 10 回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果

参加者 22 名 回答者 20 名 回収率 91%

1. 性別 ①男性 9 名 ②女性 11 名
2. 年代 ①10 代 1 名 ②20 代 8 名 ③30 代 1 名 ④40 代 1 名 ⑤50 代 1 名 ⑥60 代 4 名  
⑦70 代以上 4 名
3. フューチャーセンター（以下、「FC」という）の参加は何回目ですか。  
①1 回目 13 名 ②2 回目 6 名 ③3 回目 0 名 ④4 回目 0 名 ⑤5 回目以上 1 名
4. ぎふ FC に参加して、あなたにどんな影響がありましたか。（複数回答可）  
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた 13 名  
②さまざまな知識や経験を持つ人（地域、大学、行政など）と知り合えることができた 8 名  
③大学又は地域の人々が身近な存在に感じられた 6 名  
④その他（以下意見：原文のまま）
5. 地域活動について、理解を深めることができましたか？  
①できた 19 名 ②どちらでもない 1 名 ③できなかった
6. この 2 年以内に参加した地域活動はありますか。 ①ある 14 名 ②ない 6 名

自治会会計
子ども会活動
清掃活動等
連合会の行事
岐阜県〇〇市の住民方で行うワークショップ
ジャグリングによるパフォーマンス活動
柳ヶ瀬でのボランティア、サークルでの岐阜の活性化について考えるワークショップの開催
美化活動、自治会防災関係
夏祭り、運動会

7. 今後地域活動に参加したいと思いませんか。  
①参加したい 15 名 ②参加したくない 2 名
8. 今日の FC に参加して、これまでの地域活動に対するイメージは変わりましたか？また変わったと回答された方は、どのように変わったかをご記入ください。  
①変わった 12 名 ②変わらない 3 名

地域活動を楽しくやっていきたい。
必ずしも無償ではなく、有償の方が続くこともあるということ。
地域愛の深さ
意欲的な人が多くいると思った。
地域の方がこれほど本気で考えているとは思わなかった。
若者の参加が大切であることがわかりました。
地域活動を行っている人たちは本当に熱い思いをもって「この地域を何とかしたい」と思っているということを知りました。
若い住民の意見を聞く機会を持ちたい。
仕事の都合で(に合わせて)参加できればと思います。

9. 今日の FC に参加した感想、運営に関する意見などをご記入ください。

OFCCについて
若い人の意見を聞くことは大変勉強になりました。今後も継続していきたいと思えます。よろしく。
若い人たちと交流させていただき本当に楽しい一日でした。いろんな面で大変勉強になりました。これからもこのような機会を作ってください。
私たちも地域のためにこれからもがんばります。これからの参加よろしくお願ひします。
大学生の方と話す機会がないので新鮮でした。大学生の方の意見を参考に芥見東のまちづくりのお手伝いをしていきたいです。
学生さんの意見は、私が思いつかないものが多く、とても参考になりました。
大学生の皆さんにいろいろ意見をいただいて良かったと思えます。
とても良い活動だと思います。
岐阜大学の人たちの意見を聞いて良かったです。
市、県庁職員の方の話しを聞いて良かったです。
若い人特に大学生の方が必要なんだなと思いました。高齢の方ばかりだと若い人が来るようにはたぶんならないと思うから、こういう話し合いの場に参加したいです。
〇地域活動について
今回は、かなり本音を地域の方が話していただけたので、本音で議論ができたという点でかなり良かった。
このように、地域を良くしようと考えている方がたくさんいることは良いことだと思った。
サークルでも体験できなかった幅広い年齢の方々と地域活性化について話し合うということができて良かったです。就職して家庭を持った人ならではの意見、自治会の人ならではの意見など、それぞれの方々のお話が貴重でした。

第10回ぎふフューチャーセンター  
ぎふ地域の絆づくり支援センター人材養成講座

## 「住みよいまちづくり」を考える。 ～岐阜市芥見東まちづくり協議会の活動から学ぶ～

## ぎふフューチャーセンターとは

大学、地域、自治体がともに地域の課題について未来に向かって対話する場

イメージ



## グラドルール

### みんなが未来志向で創造するために

- ①対等な立場で話します
- ②ほかの人の意見を尊重し、否定しません
- ③話しやすい場づくりを心がけます
- ④当事者意識を持ち、リーダーのみに負担をかけません

## 本日の予定

- \*概要説明
- \*事前学習 (14:00~14:40)
  - 岐阜市芥見東まちづくり協議会活動説明  
芥見東まちづくり協議会会長 山田 正行 様
  - 地域活動をするについて～地域活動の魅力～  
岐阜県コミュニティ診断士 平 孝明 様
- \*セッション1 意見交換 (14:55~)  
**地域活動って何？**  
ミッション提示→情報共有
- \*セッション2 意見交換 (15:15~)  
**地域活性化の未来**  
\*まとめ (15:35~15:55)  
**提案内容のまとめ・発表**

## セッション1

20分

### 地域活動って何？

## セッション2

20分

### 地域活性化の未来

## まとめ

20分

グループごとに発表の準備を  
しよう。

## 今日のワークは終了です。

本日はお疲れ様でした。  
アンケートを提出のうえ、気をつけてお帰りください。

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.12.13



### 「住みよいまちづくり」を考える

12月13日(水)、岐阜市芥見東公民館において第10回ぎふフューチャーセンターを開催しました。芥見東地区は、芥見東まちづくり協議会が主体となって、コミュニティバスの運営、地域の資源を生かした里山整備など、地域の絆づくりを目指してさまざまな活動を行っています。

参加した学生は、それらを実際に体験したり、地域活動実践者の説明や協議会の方のお話を伺ったりした後、地域住民の方々と、若者ができる地域活動や地域活性化策について対話を行いました。

提案の中には、「岐阜大学のボランティアサークルと連携し、運営側に参加してもらう」、「ボランティアでなく有償にする」など若者目線の意見が出されました。



各グループからの  
意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- ボランティアなどを行う大学のサークルに、空き家活用やイベント参加について呼びかけを行う。
- 若者に、地域のイベントに参加するだけでなく、企画・運営を担ってもらう。
- 若者への情報発信を積極的にを行う。

#### 今後の展開

提示された意見は、今後、芥見東まちづくり協議会の取組みの参考とされることが期待されます。

#### 担当者の感想

(地域コーディネーター 松原裕子)

地域の方々の温かいご協力を得て、終始和やかな雰囲気の中で意見交換を行うことができました。今回の対話やその様子から、人口減少や高齢化など様々な問題を抱える地域にとっては、今の若者の意見を柔軟に取り入れつつ、時代に即したコミュニティの形成を目指していくことが必要だと感じました。



芥見東自治会連合会  
副会長  
大野 利明 さん

#### 若い人との活動に期待!

地域として若い人との接触ができていないと感じています。今回をきっかけに、今後も若者との関わりが続いていて、学生さん主体で(我々が応援して)何かできればいいと考えています。



岐阜大学  
地域科学部4年  
衣斐 七海 さん

#### 柔軟性がある地域、芥見東。

私の地元では、公民館を拠点にまちづくりを行っていて、その方たちに育ててもらったという意識が強くあります。また、芥見東の地域の方々は、大学生の意見を喜んで聞いてくださって、受け入れてくれる柔軟性がある地域だと感じました。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3880  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3881 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



第11回 ぎふフューチャーセンター

キャリアデザインワークショップ

『未来の職員に伝えたいこと、働くうえで知りたいこと』

平成29年12月20日（水）

会場：岐阜市役所西別館

主催：岐阜大学・岐阜市





「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 11 回 ぎふフューチャーセンター	
企画名	キャリアデザインワークショップ
主催	岐阜大学（地域協学センター）、岐阜市（人事課）
会場	岐阜市役所 西別館 3F 職員研修所
日程	平成 29 年 12 月 20 日（水）18:00～19:45
背景	<p>岐阜県では特に 20 歳代で、職業上の理由から県外とりわけ愛知県に転出するケースが多く見られる。その要因は、愛知県は大企業が多く岐阜県からの通勤圏であることのほか、学生が岐阜県内の企業等の魅力を十分に把握できていないことや岐阜県内の企業もその魅力を学生に十分に発信できていないといった要因がある。</p> <p>そこで、岐阜大学では学生と企業が相互にその魅力を理解することや地域に定着して地域産業の活性化に貢献できる人材の育成を目的として、COC+事業を展開している。また、学歴別卒業 3 年以内離職率の推移を見ると、大卒者が 3 年以内に離職する割合は 3 割を超えているが、それは就職前の学生の情報不足もその一因となり、就職先選びにあたっては、情報収集が重要な要素といえる。</p>
目的	<p>岐阜市役所においても優秀な人材の獲得に向け、情報発信を行っているが、情報発信の主な対象となる学生のニーズを探ることで、それをさらに有効な手段として活用していくことをめざす。学生側はそこで実際に働く職員との対話により、公務員として働くことをよりイメージしやすくし、職業選択のための一材料とすることをめざす。</p>
テーマ	「未来の職員に伝えたいこと、働くうえで知りたいこと」
サブテーマ	①これまで携わった仕事や学生に知ってほしいこと（職員） 過去の募集案内の掲載情報で、気になる情報をチェック（学生） ②仕事を選ぼうえで、重視したこと（職員）・重視すること（学生）
参加者の構成と人数	34 名（6 人×2 グループ、7 人×2 グループ、8 人×1 グループ） 岐阜大学学生 21 名、岐阜市職員 13 名
対話方法	KJ 法
ファシリテーター	大野 厚胤（地域協学センター 地域コーディネーター（岐阜市派遣））
当日のスケジュール	18:00～ 概要説明（10 分） 18:10～ 情報共有（10 分） 岐阜市役所人事課職員からの過去の募集案内を見ながら情報提供（これまで制作した職員募集案内についての説明） 18:20～ セッション①（30 分） 職員「これまで携わった仕事や学生に知っておいてほしいこと」 学生「過去の募集案内の掲載情報で、気になる情報をチェック」 （このセッションでは、職員・学生ともに、自己紹介も行う。職員は、実際の仕事について学生に知ってほしいことや働く側の思いを話し、学生は、過去の募集案内で該当する項目に付箋を貼ってその理由もコメント） 18:50～ セッション②（30 分） 「仕事を選ぼうえで、重視したこと（職員）・重視すること（学生）」 19:20～ 発表・コメント（20 分） グループ毎に発表（5 グループ×2 分程度） 19:40～ 振り返り・アンケート・閉会（5 分）
出された意見	【1 グループ】 <学生が知りたい情報> 職員の声（意見）、仕事内容（どのような配属課があるか？）・ある職員の 1 日のスケジュール・どれくらいの時間働いているか、どんな人が市役所職員に向いているか、どのような人事制度があるか（異動希望は出せるか等）、女性が働きやすい職場か・職員の男女比率、サークル活動など <発表でのコメント> 給料、休みの量、福利厚生などの情報は、求人案内で出ているが、やりがいは、実際に聞いてみないと分からない。仕事を選ぼうえで、おもてに出ている情報だけではなく、どんな仕事をしたいかということが重要だ。

	<p><b>【2グループ】</b>  &lt;学生が知りたい情報&gt;  部署ごとの仕事内容、異動の仕方、職場の雰囲気（どんな人が働いているか・仕事の大変さ・上司や他の職員との関わり方等）、どれくらい残業があるか、実際の朝の出勤時間、有給休暇や産休育休制度について（取得率等）、県庁と比べて市役所のイイところなど  &lt;発表でのコメント&gt;  市役所をはじめ、どこの行政機関で働くのであっても、就職後に具体的にどんな仕事をしたいかイメージしておいたほうがよいというアドバイスをもらえた。</p> <p><b>【3グループ】</b>  &lt;学生が知りたい情報&gt;  異動による問題としては何があるか？、職場先輩制度（入庁1年目以外等異動時にフォローはあるか？）、採用試験合格後から採用決定までの間には何かあるのか、こういう人に市役所職員は向いていないというようなことはあるか、民間企業派遣研修制度とは？、育児休暇取得率（特に男性の取得率）、仕事の具体的な内容、仕事における達成感、福利厚生制度、職場の人間関係（人との関わり方）等、仕事に対するやりがい・達成感  &lt;発表でのコメント&gt;  グループワークを通して、外からでは分かりづらい内容をはじめ、全体像をつかむことができた。</p> <p><b>【4グループ】</b>  &lt;学生が知りたい情報&gt;  市の方針（やろうとしていること）、試験の内容・流れ、職員紹介、職員の1日のスケジュール、福利厚生、プライベートとの両立、地域とのつながり、働く職場の雰囲気、配属される課の一覧（配属課の業務内容・働き方）、職場先輩制度、民間企業派遣研修制度、庁内ワーキンググループ、勤務時間、仕事のやりがい、育児休業制度（取得率等）  &lt;発表のコメント&gt;  仕事をしていてよかったと職員が感じていることは、市民から感謝の言葉を言われることや仕事の成果が目に見える形になること、逆に大変だと感じていることは、職場を異動していくので、新しい知識を吸収していかないといけないということ等を学べた。</p> <p><b>【5グループ】</b>  &lt;学生が知りたい情報&gt;  岐阜市が求める人材、仕事内容、職場の人間関係、長く勤続できる職場環境か、自分に合った仕事か、労働時間、民間企業派遣研修制度  &lt;発表のコメント&gt;  同期とコミュニケーションをとることで、ピンチのときや部署を異動したときに助けられる等コミュニケーション能力、組織内で話し合うこと、相手に自分の意思が伝わるような会話や心配りが重要だということ等を学んだ。</p>
今後の展開	岐阜市役所の職員採用案内（パンフレット）に、今回のFCで学生が知りたいと思っていた内容を掲載する等、今後案内を制作する際の参考にされる。
自治体等との調整過程	7月13日 企画に向けての打合せ 10月4日 企画に向けての打合せ 11月24日 企画書の確認
担当職員感想 （岐阜市人事課）	今回のワークショップを通して、市役所の仕事についてのやりがいや魅力を学生に上手く伝えることが出来たように思う。また学生は思ったより市の仕事に対し、ネガティブなイメージを持っていたが、それは漠然とした就職への不安から来ているものであって、それは一歩踏み込んだ学生目線での情報提供によって解消されるのだと学んだ。 この学びをもとに就職ガイダンスや採用パンフなど、より受験生目線での情報提供に役立てたいと思った。
企画担当者所見	岐阜市役所で実際に働く職員との対話により、学生にとっては仕事を通じた人生設計を考える材料のひとつとなった。 岐阜市職員にとっても、学生の意見を聞くことで、日々の仕事などについて振り返るよい機会となった。また、岐阜市にとっては、就職にあたり学生が知りたいと思っている情報の収集に役立った。

（地域コーディネーター（岐阜市派遣）大野 厚胤）

第11回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果・集計 参加人数34名うち岐阜大学生21名分

1. 性別	男	11	女	10
2. 学年	①1年	12	③3年	6
	②2年	5	④4年	2
	⑤その他(大学院生等)			0
3. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。	①1回目	14	③3回目	0
	②2回目	5	④4回目	1
	⑤5回目以上			1
4. ぎふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)	①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた			17
	②さまざまな知識や経験を持つ人(他の学校、大学、行政など)と知り合えることができた			11
	③市役所職員が身近な存在に感じられた			8
	④その他			4
	市職員の方のはたらき方がよくわかった。 仕事の多様性や職員の方の人間性にふれることができた。 公務員に興味を持てた。 仕事について学べたことが良かった。			
5. テーマについて、充分、対話に参加できましたか?	①参加できた	17	②どちらでもない	4
	③参加できなかった			0
6. 今回のFCは、あなたのキャリアデザインを考えるうえで参考になりましたか?	①参考になった	21	②どちらでもない	0
	③参考にならなかった			0
	①に回答した場合、それはどんなところか どんな仕事をしているのか、パンフレットだけでは分からないことを聞いた。 公務員という仕事について、知ることができた。 良い仕事とは何かを知れたと思う。 入ってから何をしたいかを自分自身で考えるきっかけになると思うから。 ワークライフバランスについて具体的に知ることができた。 雰囲気について知ることができた。 生の声をきくことによって、岐阜市役所の職員の方の仕事内容を具体的にイメージできました。 なかなかパンフレット等で説明されない制度や建前以外の話を聞けました。 実際に働いている方の「時間がかかかっていないからこそ」の率直な意見を伺うことができた所。 実際に働いている人の意見(就職の決め手等) 普段ネットや本でしか得られない市役所職員の情報を生で聞けました。 実際に働く人の意見を聞くことができて、働くことが身近に感じられた。 職員の経験・やりがい人がによって違うことを知れた。 市役所職員も人間なんだと感じられた。 ・福利厚生、給料なども大切。・いろいろな部署でいろいろなことを勉強できる。 公務員の実態を知ることができたところ。 公務員を選択した際の将来について想像できた。			
7. 市役所の仕事に対して抱いていたイメージは変わりましたか?	①変わった	17	②変わらない	4
	①に回答した場合、それはどんなところか 事務職しかやらないと思っていたけど、イベントやフィールドワークなど、人と関われる楽しい仕事もあると知った。 頭の固い公務員というイメージから、一般企業に近いイメージになった。 おもしろそう!! 固くなく、服装が自由度の面で広いから。 市が主催するイベント毎の参加など楽しい仕事もあった。 思ったよりも活動の幅が広がった。 本当に多様な課があり、色々な仕事ができると知れました。 仕事がたくさん種類があるのだと知りました。 思っていた程、民間企業との差異は無い。 仕事の幅がとても広いと感じた。 お役所、かたいイメージ→柔軟、やりがい より市民に近い仕事だと思った。 部署ごとの違いが聞いた。 事務の仕事ばかりでなく、現場に出ることも多いと知りました。 部署により、様々なふんいき、業務の状況があることを知りました。民間企業にイメージに近い感じだと思いました。 事務的で無機質な仕事だと思っていたが、様々な仕事がある。 面白そうだと感じた。			
8. 今日のFCに参加して、市役所職員に対するイメージは変わりましたか?	①変わった	12	②変わらない	9
	①に回答した場合、それはどんなところか サークルがあるのにおどろいた。思ったより楽しそうだった。 良い人たちだった。 しっかりと自分の意見を述べる人が多いと感じた。(②に回答) 人間感を感じられた。 みなさん、市民のことを考えて仕事をしていて、本当にすごいと感じました。 堅苦しいイメージがあったが、とてもフランクで親しみやすかった。 大変な思いだけではなく、色々楽しんでいる人達で、人間関係も良好そうだった。 事務作業をこなすだけ→市民のために一生懸命 温かい人が多いということを知りました。 明るかった意外と。 一人一人の個性。 様々な人がいる。堅物ばかりだと思った。 面白い人が多い。			
9. あなたは、将来市役所で働きたいと思いますか?	①はい	12	②いいえ	0
	③まだ決めていない			9

10. 今回のFCに参加した感想、運営に関する意見などをご記入ください。

色んな人と話せ楽しかったです。でも時間が足りなくて、1グループあたりの人数を減らすか時間を伸ばしてほしいかったです。もっと聞きたいことがあったので。学生同士のみで話すよりも社会人の方を加えたことで納得できること、大事だと思うことが増えた。よく見る方々がいて、溶け込みやすい空間だったと思う。リーダーって面白いですね。発表、楽しい！とても面白い内容でした。次回は木曜日で専門科目があり、出れないので、水曜日に行くことを希望します。

楽しかったです。知りたいことをいっぱい知れた。

時間が短く感じるほど、すばらしく過ごせたワークショップでした。

思ったよりも異動の多さ、多様さに驚きました。

また、どの方も楽しそうに仕事について話して下さり、良い環境があるのだと感じることができました。

学内の貼り出しで今回のイベントを知りました。とても今後の自分の進路にプラスになる時間でした。特に、現在岐阜市が抱えている問題と解決策(案・予定)を聞いたことは、自分が岐阜市役所で働くイメージをすることができました。また、県庁と市役所の違いを実際に働いている方の口から聞くことができたので、私は、より市民と関わることができる市役所で将来働きたいと、今日感じました。

これまで持っていた市役所への堅苦しいイメージが良い意味でぐずれました。直接、職員の方の仕事に対する価値観などを知ることで、自分が持つ目標や価値観と一致するのか、具体的に確認できました。こういった場があると仕事への理解が深まるので増えるといいなと思います。

・やはり時間が少し短いように感じた。短いならではの利点もあるが、もう少し楽しかったのかなとも思う。

・FCの次第がわかり辛かった。前の壁に、大きく当日の流れを貼っておいてほしい。

・今回のFCを一定の課・経験者毎にやると、専門的な事が聞きやすいかもしれないと思った。市役所志望の人を獲得するには、そういうのもありではないか。

学生同士とともに、市役所で実際に働いている職員の方からお話を伺うことができ、直接話さないと分からない仕事内容やそのやりがい、雰囲気などを知ることができ、大変良い機会でした。今後職業を決める上で何を大切にしようかということについて考えを深める機会にもなったので、職業を選んでいく中で、これからもよく考えていきたいと思いました。

・意見交流の時間が足りなかった。・雰囲気があったまってきた時におわってしまった。

もう少し時間が欲しかった。

もう少し自由なプログラムにしてほしい。

市役所の職員の方と話せる機会は普段ないので、貴重な1日でした。仕事についての率直な話も聞くことができ良かったです。

もう少しお話ししたかった。忙しいのに時間を割いてもらったのはとても良かった。もっとやってほしい。

公務員の様々な部署で働かれているかたから、生の声をきくことができ、とても参考になりました。時間は少し短く感じましたが、内容はこく、参加して良かったと強く思いました。また、この様な企画に参加したいなと感じました。

もっとたくさんお話ししたかったと感じた。今まで漠然としていた市役所職員のイメージが、リアルなものとなり、自分の将来を考える上でとても参考になった。

第11回 りふふ未来センター アンケート結果・集計 参加人数34名うち岐阜市職員13名分

1. 性別	男	8	女	5	
2. フューチャーセンター(以下、「FC」という)の参加は何回目ですか。					
①1回目	10	③3回目	1	⑤5回目以上	0
②2回目	2	④4回目	0		
3. りふふFCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)					
①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた				8	
②さまざまな知識や経験を持つ人と知り合えることができた				3	
③その他				2	
意見交換の場も久しぶりだったので、「話す」「聞く」姿勢を見直す機会になりました。					
4. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？					
①参加できた	12	②どちらでもない	0	③参加できなかった	1
5. 今回のFCは、市役所内でのあなたのキャリアデザインを振り返るうえで参考になりましたか？					
①参考になった	12	②どちらでもない	1	③参考にならなかった	0
6. 今日のFCに参加して、大学生との対話から何か気づきはありましたか？					
①あった	13	②なかった	0		
①に回答した場合、それはどんなところか					

相手の目線で見ること

「公務員はこう思われているだろう」とイメージが固まっていると感じました。学生の皆さんの意見は柔軟で、率直で参考になりました。

自分の中の「公務員はこういうもの」というイメージを持たず仕事していきたいと思いました。

学生がどんなことを知りたいと思っているか分かった。

経験の違いもあるので、発表したり、意見を言う場面では違いはありますが、学生の聞く姿勢は、職員も見習わなければいけないと思いました。

学生目線からの公務員のイメージ像を認識しなおすとともに自己認識を改める良い機会となった。

学生の皆さんが気にしていることで、「やりがい」「達成感」「目標を持てるのか」といった市役所の仕事についての前向きな質問をしていただけたので、そういったことを気にして、市役所の仕事に興味を持っていただけていて、うれしく思いました。

鶴岡の将来について学生から話が出たことに驚いたと同時に嬉しかった。若者も含め、色々な人との対話が重要だと感じた。

新しい発見、気づかない意見等知る事ができ、大変有意義だった。

自分の芯を持つことが大事と、改めて気付かされました。

・働くにあたって、福利厚生とやりがいと大切であり、「給料面ではない」のかなと思いました。

・「やりがい」とは何か、人それぞれであるが、大切なんだと実感した。

非常に考える力、コミュ力のある学生さんと出会えました。

市の業務について、よりよく市民に知っていただくことが大切だと思いました。

大学生と話す中自分自身が働き始め当初に持っていた自己実現や希望、喜びなど多忙な毎日の中でいつの間にか忘れかけていた初心に気付いて良かった。

7. 今回のFCに参加した感想、運営に関する意見などをご記入ください。

普段あまりかわらない人達との意見交換ができ、自分の視野を少し広げてもらった気がします。私も市役所の他の部署の話が聞けて、よい経験でした。

多少時間の関係で急ぐ場面がありましたが、限られた時間の中で可能な限り意見交換ができたと思います。学生に対して業務や市役所生活について話すことに初めてだったので、次回そういう機会があったら、この経験を活かしたいと思います。

学生の皆さんと仕事について色々な話のできたので、とてもよかったです。時間がもう少し長いと、もっと色々話せたかなと思います。ありがとうございました。

普段話すことのない学生との意見交流の場はいつも新鮮で刺激になります。

忘れた頃にFCに参加させていただけるとモチベーションのアップに繋がります。今後も機会があれば参加したいです。

時間が短かったため、残念だった。本気で公務員を目指す学生には、個別に時間をとってでも話したいと思った。

2時間あってもいいかなと思います。しゃべりすぎて学生の意見聞けなくてすみませんでした。

貴重な体験を得られました。

本日は学生も職員も考える力を養うことができた。よい機会になりました。

学生にとって実際に働く現場の状況をリアルに感じる事が出来、また職員にとってはかつて市役所への就職を志した頃の気持ちが思い出されて、双方にとって大変意義深いものになって非常に良い会になったと思う。

また就職採用パンフレットに対する学生の意見は非常に感心させられる意見も多数あり、今後に生かしていきたいと思った。

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2017.12.20 2018年2月15日発行号

VOL.36



### キャリアデザインワークショップ 未来の職員に伝えたいこと、 働くうえで知りたいこと

12月20日(水)に岐阜市役所で、岐阜大学生と岐阜市職員の34人が参加し、第11回ぎふフューチャーセンターを岐阜市人事課と共同開催しました。

今回は、学生にとって、岐阜市役所で実際に働く職員との対話を通じて、自らの働き方や生き方について、将来を具体的にイメージできることを目指し、岐阜市職員にとっては、将来の担い手となり得る学生が仕事を選ぶうえで重視することは何かを把握することを主な目的としました。職員からはこれまで携わった仕事の業務内容や働くうえで学生に知っておいてほしいことについて情報提供があり、学生からは今後の職業を決めるうえで大切にしたいことの意見が出され、相互に活発な対話が繰り広げられました。



各グループからの  
意見・アイデア



#### 今回のまとめ

- 給料、休みの量、福利厚生などの情報は、求人案内に出ているが、やりがいは実際に働く職員に聞いてみないと分からない。
- 仕事を選ぶうえで、どんな仕事をしたいかということが重要であり、具体的にイメージすることが大切。
- 働くうえにおいては、自分の意思が伝わるような会話や心配りなどのコミュニケーション能力が重要だと学んだ。

#### 今後の展開

岐阜市役所の職員採用案内(パンフレット)に、学生が知りたいと思っている情報を掲載する等、制作の際の参考にされる。

#### 担当者の感想(岐阜市人事課)

学生は思ったより市役所の仕事に対し、ネガティブなイメージを持っていたが、それは漠然とした就職への不安から来ているものであって、それは一歩踏み込んだ学生目線での情報提供により解消されるものと学んだ。これをもとに就活生目線での情報提供に役立てたい。



岐阜市職員  
恩田 隼杜 さん

#### 市民の方の笑顔や感謝の言葉が やりがいにつながります

学生が思い描く将来像を知るよい機会になりました。選択肢のなかには、いろいろな仕事があると思いますが、もし公務員を将来の職業として選んだ場合、いっしょに頑張りましょう。



岐阜大学  
地域科学部1年  
伊藤 朱里 さん

#### FCへの参加は、ふだん接することがない人と 話す機会が得られます

私は新しい環境に慣れるのが苦手な性格ですが、話をした職員の方は、職場で異動が多いことは、いろいろな仕事に挑戦できることだと前向きにとらえていることが分かりました。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3880  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp [FAX] 058-293-3881 [E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



第12回 ぎふフューチャーセンター

## スポーツを考える

平成30年1月18日（木）

会場：みんなの森 ぎふメディアコスモス

主催：岐阜大学・岐阜市教育委員会・岐阜市





「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 第 12 回 ぎふフューチャーセンター	
主 催	岐阜大学（地域協学センター）、岐阜市教育委員会（市民体育課）、岐阜市
会 場	みんなの森 ぎふメディアコスモス 1 F（かんがえるスタジオ）
日 程	平成 30 年 1 月 18 日（木）14:00～16:10
背 景	<p>2018 年には全国高等学校体育大会（東海総体、三重・岐阜・静岡・愛知・和歌山県を会場とする）が、2019 年には日本スポーツマスターズ（岐阜県を会場とする）が開催され、岐阜市でも各種競技が繰り広げられる。</p> <p>これらの大会の開催は、「する」だけにとどまらず、「見る」、「支える」など市民がスポーツに親しみを持ち、体力の向上や健康の増進のみならず、スポーツとの多様な関わり方や生涯にわたってのつきあい方を考えるための好機としてとらえることができる。</p>
目 的	<p>岐阜市では、スポーツの推進により、幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出をめざし、「岐阜市スポーツ推進計画」に基づき、教育委員会市民体育課が中心となって、計画の目標を達成するための具体的な施策を展開している。このような取り組みの中で、どのような状態が市民にとって、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されていると言えるのか、十分に把握されていないのが現状であり、課題と言える。</p> <p>そこで、市民がスポーツを通して豊かな生活を実現するためにも、生涯にわたってスポーツに親しむ（＜する＞、＜見る＞、＜支える＞）ことのあり方や方法について、多様な人たちの視点から意見やアイデアを導き出し、岐阜市のスポーツ振興について考えることを目的とする。</p>
テーマ	「スポーツを考える」
サブテーマ	<p>①スポーツで得られるものとは？ -なぜ人は、スポーツをくする・見る・支える＞のか？-</p> <p>②スポーツとの関わり方については、どんなものがあるだろうか？</p>
内 容	<p>1. 岐阜市教育委員会市民体育課担当者から、「スポーツ振興についての岐阜市の理念や取組み」の説明及び紹介を行う。</p> <p>2. 参加者が 4 グループに分かれてワークショップを行い、設定されたテーマについて意見を提示した。</p>
参加者の構成と人数	26 名（6 名×2 グループ、7 名×2 グループ）：岐阜大学生 10 名（院生 8 名、学部 2 名）、一般市民 5 名、岐阜市職員 11 名
対話方法	KJ 法
ファシリテーター	伊藤栄一 地域コーディネーター（岐阜大学地域協学センター）
当日のスケジュール	<p>14：00～（10 分）概要説明</p> <p>14：10～（5 分）情報共有 岐阜市教育委員会市民体育課：岐阜市ではどんな理念でスポーツを推進しているか等の紹介</p> <p>14：15～（10 分）アイスブレイク・自己紹介等</p> <p>14：25～（25 分）セッション① 「スポーツで得られるものとは？ -なぜ人は、スポーツをくする・見る・支える＞のか？-</p> <p>14：50～（5 分）情報共有 岐阜市教育委員会市民体育課：岐阜市のスポーツ振興の取組み紹介</p> <p>14：55～（25 分）セッション② 「スポーツとの関わり方には、どんなものがあるだろうか？」</p> <p>15：20～（20 分）まとめ</p> <p>15：40～（15 分）発表（4 グループ×2 分）・コメント</p> <p>15：55～（15 分）振り返り・アンケート・閉会</p>
出された意見	<p>【1 グループ】 ＜スポーツで得られるもの＞        することで得られるもの＝努力、挑戦、技術の向上、健康、楽しむこと⇒成長につながる。見ることで得られるもの＝感動が生まれる、勇気が出てくる⇒生きる活力が得られる。支えることで得られるもの＝共同、生きがい、きずな⇒他者とのつながりが生まれる。        ＜スポーツとの関わり方＞        学校（部活・体育）、プロスポーツのスタジアムでの観戦、クラブチームへの</p>

	<p>参加等がスポーツへの関わり方として例示できる。 ライフスタイルの一部にスポーツを組み込むといった方法や学校等の施設開放による地域とのつながりの醸成、保護者を巻き込んだスポーツ参観、会社等ではリフレッシュタイムを設けてスポーツ観戦をするなどの方策により、スポーツへの取り組みやすさを軸に考えた方法を取ることで、スポーツとの関わり方を増やすための手段とすることが期待できる。</p> <p><b>【2グループ】</b>  <u>＜スポーツで得られるもの＞</u>      することで得られるもの＝健康、達成感、目標に対する道すじ、仲間。見ることで得られるもの＝プロスポーツに対するあこがれ、わくわく感。      支えることで得られるもの＝（親の立場から）子どもの成長の姿を見ることができ。</p> <p><u>＜スポーツとの関わり方＞</u>      スポーツをすることは幼少期からでき、スポーツを見ることや支えることは、主に大人になってからできるといったように、ライフステージごとにスポーツとの関わり方を考えることができる。      そのため、スポーツをするためのきっかけづくりを子どもたちにする必要があり、それぞれの立場の人たちがスポーツに親しむために「&lt;する・見る・支える&gt;」を実践し、その3者を連携させるための仕組みを改善することで、よりスポーツと関わる機会が増えるのではないかと。</p> <p><b>【3グループ】</b>  <u>＜スポーツで得られるもの＞</u>      することで得られるもの＝身体（健康・体力）、仲間。見ることで得られるもの＝感動、学び。支えることで得られるもの＝喜び、楽しみ、社会貢献の意識。</p> <p><u>＜スポーツとの関わり方＞</u>      子ども・社会人・退職後といった人生の場面ごとで、どのようにスポーツに関われるかを考えたが、この全てに共通してスポーツに関われるのは子どものときの体育であり、子どものときに体育が好きだとその後競技スポーツもするようになるといったつながりも生まれ、生涯にわたってスポーツを続けようとする生涯スポーツの意識を芽生えさせることができる。      体育は、心・体・技術を育てるものであるが、その体育の授業等の機会を通じていかにスポーツを好きになるかが、その後スポーツとの関わりを持つものには重要と思われる。</p> <p><b>【4グループ】</b>  <u>＜スポーツで得られるもの＞</u>      人間としての成長、自分の人生の柱となるもの、スポーツ競技で勝ち負けがつくことにより、フィジカル（体力の向上）・メンタル（感動が得られる・自信がつく・達成感が得られる）・社会性（人とのつながり、仲間との絆）が生まれる。</p> <p><u>＜スポーツとのかかわり方＞</u>      誰かといっしょにスポーツに関わる機会としては、「支える」という場面ではアルバイト・スポーツ大会の手伝い・ボランティアとしての関わり方がある。自ら主体的にスポーツに関わる機会としては、「&lt;する&gt;」という場面で、スポーツ大会への参加・趣味としてのスポーツ・主体的に関わる究極の方法として、スポーツのプロになるといった関わり方があり、スポーツを楽しむ（「&lt;見る&gt;」）という場面では、スポーツ観戦という関わり方がある。      以上の2者の中間に位置するものとして、教育という視点では、指導者として体育を教えるという関わり方があり、スポーツを通して交流が生まれるといったことやスポーツを共通の話題にして会話が生まれるという効果が、スポーツと関わることで生み出される。</p>
今後の展開	すでに実施されているスポーツ機会を提供する事業は、「<する・見る・支える>」等の複数の視点から、市民がこれまで以上に主体的にスポーツに親しみ、幸福で豊かな生活を営む手段となるように展開する。そのための検討を行う際、今回のFCで出された意見を参考とする。
自治体等との調整過程	5月10日、6月8日、8月3日、9月5日、10月11日、11月24日：企画内容に関する協議、平成30年1月16日：最終打合わせ
報道等	1月19日 中日新聞朝刊 2月8日 読売新聞朝刊
担当課感想 （岐阜市教育委員会市民体育課）	岐阜市のスポーツ振興について、「する」「見る」「支える」など多面的なものの見方で、活発に意見を交わすことができた。願いを実現していく過程についても人任せにしたり、現実から切り離されたりした意見が出ることなく、一人一人が主体的な立場に立って、共通のゴールをイメージした話し合いがなされた。「自分自身がキーマンとなり、学校教育からスポーツに対する考え方を変えていきたい。」など、長期的な展望の中で岐阜市のスポーツ振興について深く考えることができた有意義なフューチャーセンターであったと言える。

企画担当者所見	グループ発表で出された意見では、子どもの頃に体育が好きであることが、その後（主体的に）スポーツとの関わりを持つことには重要といったものが印象的であった。この部分については、さらに多様な意見を探ること、多くの人が主体的にスポーツと関わる機会を創出するためのヒントとなるものが得られると思われる。これまでは、多様な人たちがスポーツの意義について話し合う機会が多くなかったように思われるため、これを契機にスポーツについての対話の機会がこれまで以上に創出されることが期待される。
---------	---

(地域コーディネーター (岐阜市派遣) 大野 厚胤)

平成 29 年度 第 12 回 ぎふフューチャーセンター アンケート結果  
参加者 26 名 回答者 26 名 回収率 100%  
(うち岐阜市職 11 名)

1. 性別

①男性 **20名** ②女性 **6名**

2. 年代

①10代 ②20代 **12名** ③30代 **7名** ④40代 **5名** ⑤50代 **1名** ⑥60代 **1名** ⑦70代以上

3. フューチャーセンターへの参加は何回目ですか。

①1回目 **11名** ②2回目 **13名** ③3回目 **1名** ④4回目 **0名** ⑤5回目以上 **1名**

4. FCに参加して、あなたにどんな影響がありましたか。(複数回答可)

①さまざまな意見に触れることで、視野を広げることができた **23名**  
 ②さまざまな知識や経験を持つ人たちと知り合えることができた **5名**  
 ③大学又は行政が身近な存在に感じられた **2名**  
 ④その他

5. テーマについて、充分、対話に参加できましたか？

①参加できた **25名** ②どちらでもない **0名** ③参加できなかった **1名**

6. あなたは、普段からスポーツ活動に関わっていますか？

①関わっている (質問7へ) **23名** ②関わっていない (質問8へ) **3名**

7. あなたが関わっているスポーツ活動は、次のどれにあてはまりますか？ (複数回答可)

①する **25名** ②見る **0名** ③支える **1名** ④わからない **0名**

①、②、③に回答した場合、具体的にどんな活動か？

趣味でスノーボードもしている。スポーツ観戦はテレビでも足を運んで応援しています。スノーボードをしている。

スポーツの効果の説明、ウォーキング等自主グループの紹介  
ウォーキング

野球

①月2回バスケットボールをしている ②スポーツ観戦 ③子供のクラブ

ジョギング、テニスなどの活動、テレビ観戦など

①趣味、②テレビ、③部活動のコーチ

スポーツ選手 (体操競技)、指導者 (体操競技) →ジュニアアスリートプログラムなど

陸上競技、テレビ観戦 (フィギュア・F1など)、スタジアム観戦 (サッカー)、大会審判

①選手として ②Jリーグをよく見る ③清流の国 Jr. アスリート育成プロジェクト

部活動、スポーツ観戦、運動指導

野球の監督

競技をしている、大会運営

部活動、観戦、運動指導

野球観戦、結果を知る (点数、どちらのチームが勝ったか)

仲間内でのグループ活動

ダンス指導 (授業)、ハンドボール (見る、支える、保護者)

クラブチーム、ボランティア (試合運営)

8. あなたがスポーツ活動に関わらないのは、なぜですか？ (複数回答可)

①時間がない **2名** ②スポーツ自体が好きでないため **1名** ③どう関わればよいか分からない **1名**

9. 今日のぎふFCに参加して、あなたのスポーツに対する意識は変わりましたか？

①変わった **13名** ②どちらでもない **8名** ③変わらなかった **5名**

①に回答した場合、具体的にどう変わったか？

自分は趣味でしか関わってなかったが、競技としてもがんばっている学生さんがいて、そういう子達も応援したいと思った。

もっと色々なスポーツにふれる場を作ることがスポーツを盛んにすると思いました。

健康のためにも、スポーツをするようにしたい。

支えるという関わり方の必要性を知ることができた。

スポーツ推進を考えるきっかけとなった。

元々、スポーツが好きでしたが、もっと好きになりました。

選手としてだけではなく、趣味としてスポーツを行う人や見る人、支える人たちのことも考えてスポーツの問題を考えなければならぬと感じた。

スポーツに積極的に参加しない人への対応が大切だと分かった。

多角的に考えることができた。

関わり方に関して、たくさんの意見を聞くことができ、学ぶことができた。

普段は「自分がやる」方が中心ですが、「見たり」「支える」といった異なる視点で関わる人の意見を色々と聞くことができた。(いろんな関わり方があるんだなあと)

10. 今後、岐阜大学主催の「ぎふFC」に参加したいですか？

- ①参加したい **1名** ②テーマに興味があれば参加したい **22名** ③参加したくない **0名** ④その他 **3名**

④への回答

・時間、テーマによるが ・時間とテーマによります。

11. 2回の研修（座学・実地）を行いました、どのように感じましたか。（岐阜市職員のみ）

- ①座学・実地の両方の研修がよい **7名** ③実地研修だけでよい **2名**  
 ②座学研修だけでよい **0名** ④わからない **2名**

12. FCを業務で活用してみたいと思いますか。（岐阜市職員のみ）

- ①是非活用したい **0名** ③活用したくない **0名**  
 ②機会があれば活用したい **9名** ④わからない **2名**

13. 今回のFCに参加して、①学びになったこと、②今後、活動してみよう（又は業務に活かそう）と思うこと、③感想などをご記入ください。

学生の子と関わる機会がなく、新鮮だったし、自分の学生のころと比べてしっかりしているなと思いました。支えるスポーツの関わりについて、今後活動してみようと思いました。
①異なる年齢の人の意見をきけて、自分では思いつかないものもあり、多角的な視点の重要性を気づかされた。
普段関わる機会のない方々と話し合え、貴重な時間でした。特に、私は普段書類ばかりを見る仕事ですので新鮮でした。
スポーツに対する思いは人それぞれであるということを実感した。目的に合わせた対象者の選定とニーズの把握が大切だと思った。
実地的な研修であった。視野も広がり、今後の参考になりました。ただ、それらの内容を広める実践をしていく機会、場が少ないのではないかと思います。研修内容を直接実践しやすい方の参加の方がよいと思いました。研修した方法、理論等を今後の参考にしたいと思います。ありがとうございました。 学生さんの活力に、今後はたくせると思いました。素晴らしい学生さんに感謝です。
①スポーツに対する意見を学生～私達まで幅広い意見が聞けて、新鮮で、立場年齢を越えて意見交換することが大事だということが分かりました。②スポーツの指導をやっというと思いました。
他団体と関わることで、様々な角度からの視点の意見があり、勉強になりました。
ぎふFCというものに初めて参加させていただきましたが、他人の意見を聞くというのは、自分の考えを広めるのにとってもよい機会となりました。自分だけでは考えもつかないこともありましたが、今回はよい交流となりました。
多くの意見を出し合うことができ、他者の考えを知ることができた。1人では、思いつかないことでも、多くの人で考えることにより様々な意見が出ることを知ることができた。そのためには、他者の意見を否定しないことが重要と感じた。
フューチャーセンターへの参加自体は、様々な考え方があるということが改めてわかり、よい刺激になったので、大変良かったです。また、フューチャーセンターの取り組み、仕組み自体も学ぶことができ良かったです。
学生の前向きな姿勢にふれることができたのは、よい刺激となりました。
①スポーツに関心のある様々な人の意見にふれ、視野が広がったとともに、スポーツをより身近に感じることができました。②教育学部という立場で、スポーツについての中核的な部分を担っていると思うので、その意識は常にもちたいです。
①幅広いスポーツの関わり方があるということ。②幅広いスポーツの関わりを学校教育で教えていきたい。③様々な考え方・視点を知ることができたので参加して良かった。
①普段社会人の方と話す機会はあまりないため、参考になるお話がたくさん聞けた。②自分とは異なる考え、思考をもつ人との対話が大切だと分かった。③大変勉強になりました。ありがとうございました。
様々な立場、職種の方と話す中で、たくさんの視点からスポーツについて考えることができた。私自身、教師の卵であり、スポーツに携わる人間なので、今後今回のセッションで学んだことを生かしていきたい。
スポーツの関わり方に対して改めて、自分の中に落としこむことができた。また、これから自分のスポーツに対して関わり方として、支えることの大切さや取り組み方について学ぶことができた。今後、体育好き、スポーツ好きを育てるために、いろいろな側面から物事を考え、活動していきたいと思う。
①する、みる、ささえるを通して得られるものは違うということ。②どのようにスポーツイベントは工夫されているのか。（みんなが参加しやすいように）③話し合いを通して、様々な年齢・職業の方のお話がきけた。自分にはない考え方が多くあり、とても興味深く、楽しく参加することができた。
様々な分野の方々と交流をし、スポーツについてどのように考えているのか、スポーツを広めるためにどうすればいいのか考えることができた。
スポーツの持つ力の大きさを改めて感じた。すること、みること、支えることの視点から様々な意見を出し合うことができた。2020年には東京オリンピックもあり、スポーツを身近に感じられる時代が来るかもしれない。そのすばらしさをこれから伝えていきたい。
①岐阜市の力を入れているスポーツを知ることができた。②できることがあるならば、学校の部活動、それ以外の放課後のスポーツへの関わりでメジャーなものからマイナーなスポーツまで体験できるイベント、または企画をつくる活動に携わりたい。③立場がさまざまな方々とお話ができ、有意義な時間でした。
①自分が思っている以上にスポーツ自体をやらなくても関わりがあることを学びました。②コミュニケーションツールの1つとして友達と一緒にやるのはいいかなと思いました。③グループワークはなかなか慣れないものだと思います。
岐阜市や岐阜大の方と交流ができて良かったです。ワークショップは、言葉遊びになりがちだったので、もう少しテーマが深められるようなものだと良かったかも知れません。とはいえ、はじめての学生向けの内容とのバランスもあると思いますので難しかったところだと思います。関係者の皆様、ありがとうございました。
このような機会を作って下さり、ありがとうございました。日頃は「先生」という立場にいますので、対等に意見を出し合える場がとても新鮮でした。（しかし、どうしてもまとめてしまう傾向があることに気が付きましたが・・・）。今後の岐阜市のスポーツ推進に関わる貴重なご意見を伺うこともでき感謝しております。
スポーツは日常から取り組んでいます、"スポーツについて語る"ことは初めてだったけれど、とても楽しく、色々な視点から意見が言えたこと。また、若い世代から社会人まで異なる立場の方と一緒に交流できたことは、とても貴重な体験になりました。今後とも積極的にスポーツに関わっていききたいと思います。

# FUTURE CENTER

## フューチャーセンター通信

2018.01.18



### スポーツを考える

1月18日(木)に岐阜市教育委員会市民体育課との共同開催により、みんなの森 ぎふメディアコスモス(岐阜市)で、岐阜大学生をはじめ、一般市民、岐阜市職員の26人が参加し、「スポーツを考える」をテーマにぎふフューチャーセンターを開催しました。

参加者は、4つのグループに分かれ、「スポーツで得られるもの—なぜ人は、スポーツをくする・見る・支えるのか?—」、「スポーツとの関わり方については、どんなものがあるだろうか?」をサブテーマにして、意見交換を行いました。

グループワークでは、スポーツをすることにより「健康」や「仲間」、「達成感」が得られ、見ることでは「感動」や「勇気」が、支えることで「喜び」、「楽しみ」、「社会貢献の意識」が得られるなどの意見が出されました。



各グループからの  
意見・アイデア

#### 今回のまとめ

- ライフスタイルの一部にスポーツを組み込むことがスポーツとの関わりを促進させるには重要
- する、見る、支えるの3つを連携させることで、スポーツに関わる機会が増えるカギとなる
- 生涯スポーツの意識を芽生えさせるには、子どもが体育好きになることが大切

#### 今後の展開

岐阜市教育委員会で既に実施されている身近で参加しやすいスポーツ機会を提供する事業に対して、市民がこれまで以上に主体的にスポーツに関わるための取り組みの参考にされる。

#### 担当者の感想(岐阜市教育委員会市民体育課)

希望を実現していく過程についても人任せにしたり、現実から切り離されたりした意見が出ることなく、一人一人が主体的な立場に立って、共通のゴールをイメージした話し合いがなされた。「自分自身がキーマンとなり、学校教育からスポーツに対する考えを変えていきたい。」など、長期的な展望の中で岐阜市のスポーツ振興について深く考えることができた有意義なフューチャーセンターであったと言える。



岐阜市職員  
合田 悠哉 さん

#### スポーツの見方が変わりました

普段は、スポーツをすることはほとんどなく、関わる機会も少なかったです。今回のFCを通して、多様なスポーツとの関わりを知ることができ、今後は、見る側、支える側の立場でもスポーツに取り組んでいきたいです。



岐阜大学  
教育学研究科1年  
後藤 千穂 さん

#### スポーツには、それぞれの楽しみ方があると改めて気づきました

社会人の方の意見が聞けて、見聞が広がりました。スポーツを楽しんでいる人がいるのを寂しいと思っていましたが、それを解消するためのヒントが今日のFCにあったと思います。



CCSC  
Center for Collaborative Study with Community

地域協学センター  
TEL.058-293-3880  
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp

[FAX] 058-293-3881  
[E-Mail] ccsc@gifu-u.ac.jp



国立大学法人  
岐阜大学



文部科学省  
地(知)の拠点



ぎふフューチャーセンター

FD・SD

(Faculty・Staff Development：教職員向け研修)





<p style="text-align: center;">「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 フォローアップ「業務改善に向けた若手職員と補佐の役割」研修</p>	
主催	岐阜大学職員育成課、地域協学センター
会場	岐阜大学全学共通教育棟 1A・1B
日程	平成 29 年 8 月 24 日（木）13 時 30 分～16 時 20 分
背景	大学改革が進展し、本学の個性・機能を強化するために職務の高度化・専門化に応えられる事務職員が求められている。また、部署間の連携や部署を超えて情報と方針を共有しつつ、業務の効率化や業務改善を行うことも必要となっている。そこで、平成 27 年の若手職員と課長補佐の研修フォローアップとして、関西大学との対比から具体的に現状の課題を把握し、本学の業務の非効率な点を検討することで、業務改善に繋がる機会とすることを趣旨とする。
目的	（若手職員）自分の取り組みが、大学のビジョン実現につながることを意識し、大きな視点で取り組むよう職務に対する意識改革を促し、職務遂行能力の増進を図る。 （補佐）将来の幹部候補者として多様な業務がかかわる場合の調整力が必要であり、組織を俯瞰した立場で仕事の采配を行う役割であることを再認識する。
テーマ	「岐阜大学の将来ビジョン」実現に向けて
サブテーマ	（1）前回研修の振り返り （改善を試みたこと、取組んだことなどを共有） （2）振り返りから課題を把握する （業務別の課題） （3）業務別の課題解決に向けた取組みを考える
参加者構成	参加者 30 人（5 グループ）
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開催の挨拶・大学ビジョンの説明（横山理事）（10 分）</li> <li>2. 「関西大学研修参加者からの報告・提案（15 分×5 人）」</li> <li>3. フューチャーセンター研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要・趣旨説明（5 分）</li> <li>・アイスブレイク（5 分）：自己紹介、グループリーダー決定</li> <li>・セッション①（20 分）：「前回は振り返る」</li> <li>・セッション②（20 分）「振り返りからの課題を把握する」</li> <li>・セッション③（20 分）：「業務別の課題解決に向けた取組みを考える」</li> <li>・まとめ（20 分）：グループの提案を考える</li> <li>・発表 3 分程度／グループ（30 分）※質疑応答あり</li> </ul> </li> </ol>
企画担当者所見	今回の学内研修は、平成 27 年度の若手職員向け研修と課長補佐研修のフォローアップとして実施された。当日は、過去に参加した職員が、若手職員と課長補佐が混成されたグループとなり、大学の将来ビジョンに向けた業務別（総務、財務、管理、学務、入試）の課題解決について議論し、解決策を提案した。各グループからは、「書類の統一業務管理」（総務）、「授業料の学部ごと設定（教育経費に応じて）」（財務）、「旅費計算システムの導入」（管理）、「学籍証明等の本部一本化」（学務）、「入試業務に対するインセンティブ」（入試）などが提案され、業務ごとの課題解決策を参加者全体で共有することができ、業務改善の意識を形成することができた。

（職員育成課、地域協学センター准教授 大宮康一）

「地（知）の拠点整備事業」  
平成 29 年度 事務職員の在り方教育職員合同研修

主催	岐阜大学職員育成課、地域協学センター
会場	岐阜大学全学共通教育棟 1A・1B
日程	平成 29 年 8 月 25 日（金）9 時 30 分～12 時 00 分
背景	大学運営の一層の改善・充実に向けて、大学における組織的な研修・研究（SD）の重要性や教職協働により、事務職員が教育職員と対等な立場で大学運営に参画することの重要性などが指摘されている。この研修では、事務職員と大学教育職員の両方の視点で、今後の岐阜大学の個性・機能を強化するための方策を考える。
目的	大学の多岐にわたる業務（教育・研究・社会貢献）において、事務職員と教員（教育職員）とが、大学の構成員として対等な立場で大学運営に参画するためには、連携と協力、相互理解が不可欠である。今後の協働や連携のあり方について、学内での状況を共有し現在の教職協働における課題を認識し、大学教職員、個人としてできることを探る。 また、大学のビジョン実現のためには、教育職員と事務職員等とが連携・協働して業務に取り組むことが重要であることを認識する。
テーマ	教職協働
サブテーマ	（１）各所属の状況を共有する （各所属の教職協働の様子について語る） （２）教職協働における課題とは （学内の状況から見えてくる課題について話し合う） （３）これからの教職協働のあり方とは何か （今後、教職協働を促進させるための方策などを話し合う）
参加者構成	参加者 33 人（6 グループ）
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター特任准教授
当日のスケジュール	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開催の挨拶・研修概要（伊藤人材開発部長）（10 分）</li> <li>2. 講演「教職協働について」（益川地域協学センター長）</li> <li>3. 情報提供「「岐阜大学の国際化・教育・研究・社会貢献を教職協働する」（10 分×4 人）</li> <li>3. フューチャーセンター研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要・趣旨説明（5 分）</li> <li>・アイスブレイク（5 分）：自己紹介、グループリーダー決定</li> <li>・セッション①（15 分）：「各所属の状況を共有する」</li> <li>・セッション②（15 分）「教職協働における課題とは」</li> <li>・セッション③（15 分）：「これからの教職協働のあり方とは何か」</li> <li>・まとめ（10 分）</li> <li>・発表 2 分程度／グループ（15 分）</li> </ul> </li> </ol>
企画担当者所見	今回の学内研修は、事務職員と教育職員が合同で実施する学内初の研修となった。「教職協働」をテーマに既に実践している部署の事務職員と教育職員からの情報提供を踏まえて、これまで十分に議論されてこなかった「教職協働」の在り方をそれぞれの視点から話し合うことで、双方の立場での考え方を確認しつつも、同じ目的・目標を共有することや日常のコミュニケーションなどの重要性を認識することができた。

（職員育成課、地域協学センター准教授 大宮康一）

<p style="text-align: center;">「地（知）の拠点整備事業」 平成 29 年度 新任研修フューチャーセンター</p>	
主催	岐阜大学職員育成課、地域協学センター
会場	旧早野邸セミナーハウス（大垣市）
日程	平成 29 年 11 月 7 日（火）13 時 30 分～15 時 50 分
目的	岐阜大学の新任職員研修の一環として、新任職員がこれまでの研修を踏まえて、大学の構成員として大学のあり方を主体的に考えることで当事者意識を高め、今回のフューチャーセンターを通して、大学職員個人として大学の地域貢献に向けて何が出来るかを明確に意識し、業務に臨めるようになることを目指す。
テーマ	地域にとけこむ岐阜大学を創造する：大学の職員（スタッフ）として地域とどう向き合うか
サブテーマ	<p>（1）これまでの大学像（個人のイメージ）と研修後の大学像の違いは？ ※研修で得た知識や経験を踏まえて、大学イメージのギャップについて互いに語る</p> <p>（2）地域にとって魅力ある大学とは？ ※①を踏まえて、若者の視点を中心に大学の将来像について互いに語る</p> <p>（3）岐阜大学が地域にとけこみ魅力ある大学となるためにすべきことは何か？ ※②を踏まえて、多様な視点から将来像に向けて今後何をしたらよいか、その方策等を考え提案する。 ⇒ 職員個人としてすべきこと宣言につなげる</p>
参加者構成	参加者 12 人（3 グループ）
対話の方法	KJ 法
ファシリテーター	大宮康一 地域協学センター准教授
当日のスケジュール	<p>13：30～13：40 趣旨・FC・グランドルールの説明</p> <p>13：40～13：55 自己紹介・アイスブレイク（簡単なワークを行う）</p> <p>13：55～14：15 ①これまでの大学像と研修後の大学像の違いは？（青色付箋）</p> <p>14：15～14：35 ②地域にとって魅力ある大学とは？（黄色付箋）</p> <p>14：35～14：55 ③岐阜大学が地域にとけこみ魅力ある大学となるためにすべきことは何か？（赤色付箋）</p> <p>14：55～15：15 まとめ</p> <p>15：15～15：25 発表 ※2分程度／グループ</p> <p>15：25～15：35 宣言検討（職員個人としてすべきこと） ※A4 用紙に名前と宣言内容を書き込む</p> <p>15：35～15：45 グループで個人宣言の共有化</p> <p>15：50 研修終了</p>
企画担当者所見	岐阜大学の新任職員の方々が、フューチャーセンターの手法をとおして、大学の構成員として主体的に考え、大学職員としての意識を高めることができたと思われる。今後も、フューチャーセンターという手法が、職員の中でも生かされ学内の業務改善等につながることを期待する。

（職員育成課、地域協学センター准教授 大宮康一）



平成 26 年度 第 4 回 ぎふフューチャーセンター成果報告

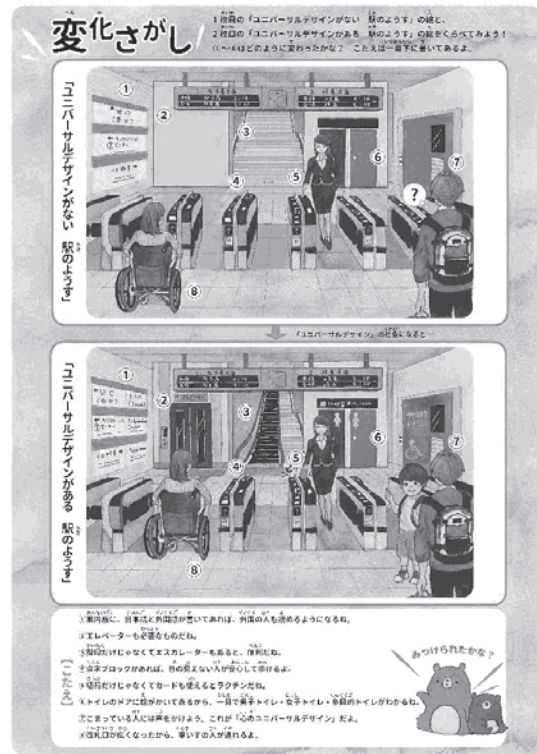
岐阜市においてユニバーサルデザインを推進するには？



「地（知）の拠点整備事業」  
平成 26 年度 第 4 回ぎふフューチャーセンター成果報告

主催	岐阜大学、岐阜市
会場	岐阜大学 ラーニングコモンズ（図書館 2 階）
日程	平成 26 年 8 月 18 日（月）
テーマ	岐阜市においてユニバーサルデザインを推進するには？
背景・経緯	<p>平成 26 年 8 月 18 日に開催したぎふフューチャーセンターでは、ユニバーサルデザイン（「デザインの変更や特殊なデザインを必要とせず、できる限りすべての人に利用できるよう製品や環境をデザイン」と定義）することをテーマに岐阜市と共同で実施した。</p> <p>岐阜市では、ハード面、ソフト面からユニバーサルデザインを推進してきたが、岐阜市民にユニバーサルデザインが十分に浸透していないことが課題であった。そこで、これまで以上に岐阜市において、ユニバーサルデザインを浸透させ、推進するために、幅広い参加者層からの意見やアイデアを集め、今後の施策に活かすことが目的である。</p> <p>当日のぎふフューチャーセンターには、学生や教職員、岐阜市職員が集まり（参加者 33 人）、ユニバーサルデザインの推進について話し合った結果、「子供たちに向けたユニバーサルデザインを知る教育、あわせて大人も意識を変える必要がある」などの意見があがった。</p> <p>このフューチャーセンターをきっかけに、岐阜市は、ユニバーサルデザインを岐阜市民、また子供たちに浸透させるために、岐阜大学教育学部美術教育講座・山本政幸准教授に依頼し、同講座所属の学生がユニバーサルデザイン普及・啓発のための下敷きとリーフレット（漫画）を作成するに至った。</p> <p>今回の成果物（下敷きやリーフレット（漫画））は、小学生や子供向けに配布し、ユニバーサルデザインの普及と浸透への活用が期待される。</p>

【成果物：下敷き】







国立大学法人 岐阜大学  
ぎふフューチャーセンター実施報告書  
平成 29 (2017) 年度版

編集・発行 地域協学センター  
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1  
TEL. 058-293-3880  
FAX. 058-293-3881  
<http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp>  
発行月 平成 30 年 3 月



